

JFA news

6 NO.470
2023.
月情報号



特集

2036年 FIFA フットサルワールドカップで 優勝するために

フットサル委員会のビジョン

対談：小西鉄平 JFAフットサルテクニカルディレクター／JFAフットサルナショナルチームディレクター
× 前川義信 JFAフットサル指導者養成ディレクター／JFAフットサルユース育成ディレクター

対談：木暮賢一郎 フットサル日本代表監督
× 高橋健介 フットサル日本代表コーチ

フットサルGKの育成・強化 — フットサル選手のフィジカル強化



アディダスの学割



学生なら、いつでも
何度でも10%OFF

© 2023 adidas AG

中学、高校、大学、大学院、専門学校の学生と教職員であれば
いつでも何度でも10% OFFに。
ライフスタイルでも部活でも、アディダスを手に入れよう。



学生・教職員割引概要

対象

日本国内の中学、高校、大学、大学院、専門学校の学生と教職員

期間

申請時から、毎年3月31日23:59まで。新年度(4月1日 0:00)に情報をリセット致します。新年度より引き続き学生・教職員割を申請したい人は、再度申請をしてください。

オファー内容

アディダス オンラインショップにて、商品が表示価格より10%OFF(一部適用されない商品がございます。また、その他期間限定割引セールとの併用はできません。)上限はおひとり様、年間税込み55万円までとなります。

特集

2036年FIFA フットサルワールドカップで 優勝するために



JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ●スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト●選手にとっての最善を考えること
フェア●オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ●成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト●関わりのあるすべてを大切に思うこと

CONTENTS

- 004 **フットサル委員会のビジョン**
- 005 **対談：小西鉄平** JFAフットサルテクニカルディレクター / JFAフットサルナショナルチームディレクター
× **前川義信** JFAフットサル指導者養成ディレクター / JFAフットサルユース育成ディレクター
- 009 **対談：木暮賢一郎** フットサル日本代表監督
× **高橋健介** フットサル日本代表コーチ
- 013 **フットサルGKの育成・強化～内山慶太郎** フットサル日本代表GKコーチ / JFAフットサルGKプロジェクトリーダー
- 015 **フットサル選手のフィジカル強化～馬場源徳** フットサル日本代表コーチ / フィジカルコーチ

特別企画

- 054 先輩に聞く！これがサッカーの醍醐味
- 061 FIFA 女子ワールドカップ オーストラリア&ニュージーランド 2023開幕まで1カ月
大会情報
佐々木則夫JFA女子委員長

大会・試合

- 050 天皇杯 JFA 第103回全日本サッカー選手権大会開幕
- 052 JFA 第17回全日本O-70サッカー大会
- 057 Fリーグオーシャンカップ2023
- 053 JFA 第23回全日本O-60サッカー大会
- 058 Fリーグ2023-2024開幕
- 056 AFCチャンピオンズリーグ2022決勝

短期連載

- 018 第13回JFAフットボールカンファレンス
「Welsh Way～ワールドカップまで、そしてこれから」

連載

- 019 隔月連載 **サッカー心育論**
中山雅雄
「主体的・対話的で深い学び」
- 020 **日本全国FAコーチ巡り**
福井県サッカー協会
「まだまだ向上していける、明るいま未来しかない」
- 022 隔月連載 **日本サッカータイムスリップ**
「Jリーグの歩み(1)～Jリーグの理念と幕開け」
- 023 **いつも心にリスペクト**
大住良之
「許していけないことには毅然とした態度で」
- 017 JFA情報発信局
- 025 月刊レポート
- 032 蹴球通信
- 036 会議レポート
- 042 データボックス
- 048 サッカーファミリー広場
- 064 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真：
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、
©F.LEAGUE、©Wahix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス」に取り組んでいます。これは「地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。



dunhill





特集

2036年FIFAフットサルワールドカップで優勝するために

それは 本気で目指す 未来

日本サッカー協会（JFA）が掲げるフットサル日本代表の目標は、
2036年のワールドカップで優勝すること。

代表強化、選手育成、指導者養成、普及などそれぞれの分野を推し進めていくことが、
日本フットサルの持続可能な発展のための布石となる。

今号ではJFAフットサル委員会のビジョンとフットサル日本代表の取り組みを紹介する。



フットサル委員会のビジョン

■日本フットサルの自立

FIFAフットサルワールドカップは1989年に第1回大会が開催され、2021年までに全9回行われている。フットサル日本代表は過去5大会に出場し、最高成績はベスト16。3連覇を目指して臨んだ2016年のAFCフットサル選手権は準々決勝で敗れ、本大会出場を逃すという苦渋を味わった。

日本サッカー協会(JFA)フットサル委員会は2016年、日本フットボールの将来構想「フットサルビジョン」を打ち立てた。これは「サッカーとの融合」を重視し、特に若い年代(U-15、U-12)に対して、サッカーとフットサルが連携することで技術力の高いフットボーラーを送り出そうという考え方が軸になっている。フットサル委員会と技術委員会は以降、強化、育成、指導者養成、普及の各部門で連携を強化。育成年代では選手がフットサルとサッカーの両方をプレーできる機会を創出するほか、2017年にはフットサルワークシヨップ(※1)とフットサルタレントキャラバン(※2)をスタートさせ、指導者と選手に理解を促してきた。

そして同年、フットサル委員会は代表強化の短期・中期・長期目標を立てる(表1)。それまでのフットサル日本代表は、経験豊富な外国人監督を招聘して強化に取り組んできた。しかし、日本フットサルの持続的発展を考えたとき、世界の日本人指導者の存在は不可欠だ。こうして「日本化」を目指し、各分野の活性化と連携、強化体制の充実を図った上で最終目標に据えたのが、「2036年

ワールドカップ優勝」だ。

ブルーノ・ガルシア監督の下で臨んだ2021年のワールドカップ(コロナ禍により1年延期)はベスト16に終わりはしたが、大きな手応えとチームの成長が感じられる大会となった。同年11月には木暮賢一郎コーチが監督に就任。日本フットサルは、自らが目指すフットサルを主体的に表現するフェーズに入った。

■各分野で新たな布石

2036年のワールドカップで優勝するためには、その間、常に世界大会でベスト8以上の成績を残せるようでないといけない。「ワールドカップに複数回出場している選手が主力を担うチームでなければ優勝は難しいというデータもある」と小西鉄平JFAフットサルテクニカルダイレクターは言う。若い選手が早くから世界の大舞台を経験すること、それを実現できる環境整備が必要となる。2021年12月、フットサル委員会はフットサルナショナルコーチングスタッフ体制を再編成し、2022年から各分野の取り組みを加速させていく。

強化では、U-15、U-18年代の各種大会でスカウティングを行い、将来有望と思われる20歳以下の選手のデータベース化に着手。また、フットサル特有の外傷予防やフィジカル能力の向上を目指して、フィジカルフィットネスプロジェクトも立ち上げた。指導者養成では、フットサルGK・C級ライセンスを創設し、2024年のフットサルS級ライセンス開設を視野に入れたプロジェクトも発足させる。選手育成では、2022年11月と12月に、2036年大会のターゲット

層であるU-18年代の選手を対象としたナショナルフットサルトレセン(JFA U-18フットサルタレント育成普及事業)を実施した。

また、12月に国際サッカー連盟(FIFA)がFIFA女子フットサルワールドカップの新設を発表したことを受けて、JFAは女子フットサルの強化を推し進めていくこととし、今年3月、フットサル日本代表コーチを兼務していた須賀雄大監督をフットサル日本女子代表の監督専任にした。

日本フットサルは今、各分野で確かな布石を打ちながら歩みを進めている。全体的には2036年目標達成のために――。

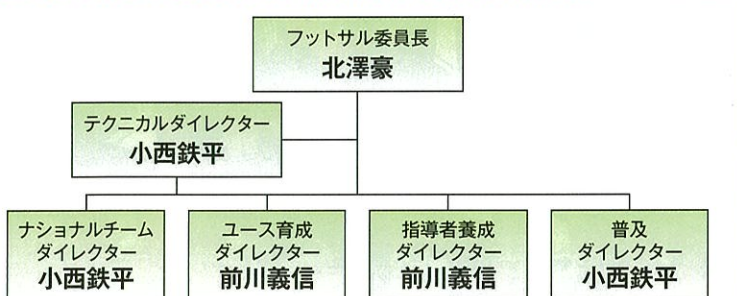
※1 フットサルとサッカーの楽しさや特徴を理解した指導者を養成することを目的とし、指導者ライセンスの保有は問わず、サッカー指導者を対象に実施。フットサルC級簡易版(フットサルD級の位置づけ)。

※2 将来のフットサル日本代表を育成・強化する取り組み。対象となるチームを訪問し、フットサル日本代表コーチングスタッフが選手に直接指導を行うほか、フットサル指導者の研さんの場としても活用。2019年まで実施。

【表1】代表強化の短期・中期・長期目標

- 短期(重点強化期)
2016-2020年：ワールドカップベスト8
日本代表チームが日本フットサル全体の代表として果たすべき役割・成績を達成する
- 中期(自立期)
2020-2028年：ワールドカップベスト4
脱・外国人監督依存、選手の脱監督依存をもって“Japan's way”を進み始める
- 長期(完成期)
2028-2036年：ワールドカップ優勝
“Japan's way”の完成期→成績目標の達成

【表2】フットサル委員会(強化・育成・指導者養成・普及)体制(2023年6月時点)





小西鉄平

JFAフットサルテクニカルダイレクター
JFAフットサルナショナルチームダイレクター

対

JFAフットサル委員会の
取り組み

談

多様なパスウェイで世界のトップを目指す

前川義信

JFAフットサル指導者養成ダイレクター
JFAフットサルユース育成ダイレクター



2036年のFIFAフットサルワールドカップで優勝する――。日本サッカー協会（JFA）フットサル委員会が掲げるこの目標に向けて、現在、どのような取り組みが行われているのか。「代表強化」「育成」「指導者養成」「普及」の4部門を統括する小西鉄平JFAフットサルテクニカルダイレクターと前川義信JFAフットサル指導者養成ダイレクターが日本フットサルのビジョンについて語った。

○取材日：2023年5月22日

私の役割だと認識しています。

前川 従来の指導者養成ダイレクターにプラスして、今年からユース育成ダイレクターも兼務しています。育成年代の代表チームに同行したり、選手情報の収集やトレーニングの方向性や方法などを統括したりするのが主な仕事です。

――「2036年にワールドカップ優勝」という目標はどの程度浸透しているのでしょうか。

小西 この目標を設定したのは2016年で、公に発信し始めたのはここ一、二年です。21年のFIFAフットサルワールドカップが終わって四つの部門をつくりました。前川さんが統括している指導者養成でもこのワードを使うことで指導者にも浸透するようになりました。また、育成年代の代表活動やフットサルナショナルトレセンに参加している選手たちは、ちょうど36年大会のターゲットエイジに当たります。彼らに対して「36年の大会に君たちはこの年齢で出場するんだぞ」と、リアリティーを持った発言をすることが増えてきました。少しずつ広まっていると感じます。

選手のパスウェイを含め
新しいフェーズに

――JFAフットサル委員会の現在の体制について教えてください。

小西 私はテクニカルダイレクターに加え、5月1日からナショナルチームダイレクターと普及ダイレクターを兼務することになりました。代表チームの強化と普及を主としていますが、「代表強化」「育成」「指導者養成」「普及」の全体を把握し、調整していくことが

前川 JFAコーチやFACコーチとコミュニケーションを取る際も必ず“36年”優勝は伝えていきます。フットサル日本代表はもちろん、アンダー世代のトレーニングにサッカーのスタッフが見に来ることもあるのですが、それこそ関心の高さの表れなのではないかと思えます。

——昨年3月号の特集で小西ダイレクターに同じ質問をしましたが、日本フットサルの現在地を教えてください。

前川 昨年はU-19フットサル日本代表、今年はU-19フットサル日本選抜という形で活動していますが、ここに参加している選手たちはフットサルをプロパー（専門）としてきた選手です。この点は過去と大きく異なります。彼らは36年には29歳から31歳になり、チームの主軸になる年代です。選手の発掘、もしくは選出段階から新しいフェーズに入ってきていると考えています。

小西 フットサル全体の競技環境もそうですし、そこに関わる人数も増えてきました。その中で具体的に36年に向けて、選手がどのようなパスウェイをたどってきたかという点は重要なポイント

です。フットサル専門でやってきた選手が増えています。いろいろなパスウェイがあつていいと思つています。大切なのは、こゝじやなければならぬ、ということはないということ。いろいろなことを経験する中で、最終的にサッカーやフットサル、他のスポーツと、選手が自ら選んで進める環境にしたい。多くの選手に種をまくことと専門化していくこと、その両面に取り組んでいきたいと思つています。

代表強化

ワールドカップに向けて男女それぞれ準備を進める

——代表強化について、現在の強化指針を教えてください。

小西 フットサル日本代表については24年9月にワールドカップがありますので、そこから逆算して強化を図っています。24年4月にアジア最終予選があり、今年10月にその1次予選を兼ねたAFCフットサルアジアカップが開催されます。それに向けて海外遠征で強化するフェーズです。9月にはアジアカップへの最終調整として海外遠征を検討しています。11月にもタイでアジアインドア&マーシャルアーツゲームズ、12月

にも国際親善試合があり、そこを活用しながら翌年2月の最終予選に向かいます。強化として対外試合を増やすことは木暮賢一郎監督の狙いでもありますので、しっかりサポートしていきたいと思つています。

——フットサル日本代表のスタッフに馬場源徳フィジカルコーチが加わりました。

小西 馬場コーチはスペインをはじめとする海外の有名クラブで仕事をしてきた人で、指導者としての実力は確かです。コーチ兼フィジカルコーチという形で代表チームに加わつてもらうほか、彼を中心とした分析プロジェクトを立ち上げます。世界の潮流や日本代表にどのような特徴があるかなどを映像を用いてチェックし、そこから導き出されるトレンドや傾向をさまざまなプロジェクトに反映させていきます。そういう部分でも期待しています。

前川 スペインでは、フィジカルコーチの多くが指導者ライセンスを保有しており、プロリーグになれば、多くの方々が最上位ライセンスを持っています。なぜかという点、競技フットサルではテクニカル（技術面）に対して、フィジ

カルコーチが受け持つ領域が非常に大きいから。馬場コーチは日本とは異なる経験と知識を持ってフィジカルコーチができますので、良い影響を与えてくれると思つています。

——育成と強化の面でJFAとフリーグはどのような協力体制を取っているのでしょうか。

小西 選手の育成、強化で協働していることは二つあります。一つはJFA主催の強化育成部会、もう一つはフリーグの強化ワーキンググループです。どちらも基本的にカレンダーについて話し合います。代表活動とフリーグの日程をどのように合わせていくかということとは最大の課題で、FIFAのカレンダーに合わせていくためにフリーグも非常に協力してくださっています。育成についても常に議論のテーマになっており、フリーグは今年の3月からU-18のプレ大会をはじめ、来年以降も継続していく予定です。U-18年代の重要性をフリーグと共有してきたことの結果でしょう。

——FIFA女子フットサル



U-19フットサル日本選抜チームは小、中学生年代からフットサルをプレーして育った選手で構成された

ワールドカップの開催も決まりました。女子の強化方針についてはいかがでしょうか。

小西 ワールドカップができるという決定そのものが強化の後押しになります。女子は18年にAFC女子フットサル選手権が行われて以降、一度も国際大会がありません。そういう状況でも代表の活動を強化の一環として続け、クラブも選手を派遣し、選手もモチベーションの火を絶やさずに取り組んでくれたことにまずは感謝したいです。皆さんの熱意に心えるため、今年初めてU-20年代の女子選



フットサル日本女子代表は昨年11月のスペイン遠征でヨーロッパチャンピオンのスペインと好ゲームを展開した

手を集めた育成年代代表合宿を実施しました。今後はそういった活動も増やしていきます。今、特に力を入れていくのは、サッカーとうまく連携すること。若いうちからどちらか経験した上で、フットサルを選んでもらえたらと思っています。

プレーしてもらえ環境をつくることも重要だと思います。

小西 現在、女子の競技会はJFAバーモントカップ全日本U-12フットサル選手権大会、JFA全日本U-15女子フットサル選手権大会、その次がJFA全日本女子フットサル選手権大会になります。U-18年代の大会がないので、大会創設に向けてJFAの国内競技運営部と女子部と共通に動き出しています。その下のU-12、U-15年代の大会の在り方も含めて議論していく必要があります。

育成

選手の情報を把握するためにデータベースを活用

——以前、育成では選手情報が不足しているため、データベースの作成に取り組んでいるとおっしゃっていました。

前川 30人を超える9地域のチューターに、できる限り地域や都道府県大会を視察してもらい、選手のデータベース化に協力してもらっています。地域大会ではナショナルコーチングスタッフと連携し、それまでに挙がってきている情報をしっかり把握し、それ

を経てナショナルフットサルトレセンに移行していきます。今回のU-19選抜はナショナルトレセンで見えた選手がほとんどで、関東圏だけでなく東北地方からも選手を呼ぶなど、かなり幅広く情報をつかめていると思います。

——フットサルナショナルトレセンで今後行っていききたいことは？

前川 昨年は11月と12月に開催しましたが、それと同じくらいのスパンで実施し、できれば試合をしたいと考えています。ただ、12月や1月は高校3年生の進路に関わってくる時期ですのでそこをどう調整するか。対外試合や大会参加なども含めて可能性を探りたいと思います。

小西 今後の展開としては今やっている年2回の活動を続けること。あとは先ほどの選手発掘とリンクしますが、さらに対象年齢を下げていこうと考えています。中学生くらいからトレセン活動を始めることで、JFAがやるようにしていることを育成年代に早めに関わられるようになれば、そこに関わる指導者も同じ目線で取り組めるのではないかと思います。

前川 ナショナルトレセンは昨年立ち上げてまだ1年しか実施していないので、これから成果や課題を精査しつつ、積み上げていくしかないと思っています。最終目標は代表チームの強化ですが、あくまで育成ですので、日本の学校のスケジュールなどとバランスを取っていかなければなりません。

小西 やり続けることに加え、形を少しずつ変えていくことも大事ですね。あとは、代表チームからのオーダーや、地域で視察する中で「こういうタイプの選手が少ない」などといった情報が入ってきます。そこでうまく進んでいるGKプロジェクトのように、特徴のあるピヴォのポジションに焦点を当てたプログラムを、少しずつナショナルトレセンや別の活動で行っていく必要があると感じています。

指導者養成

GKライセンスは各方面から好反応

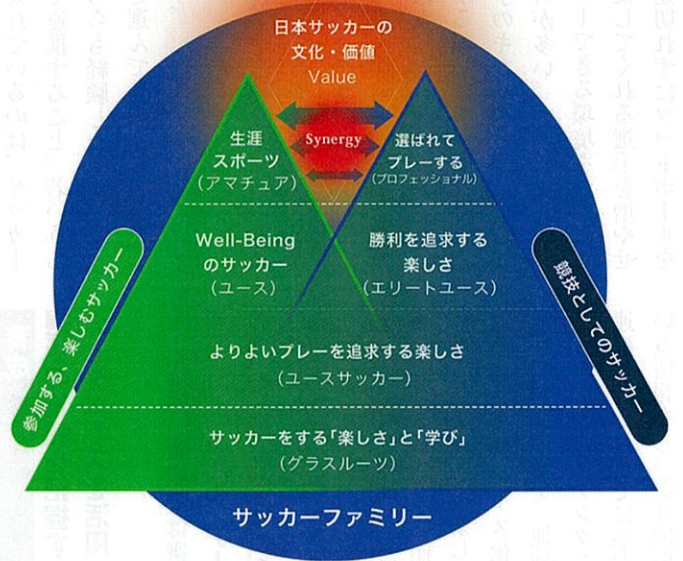
——昨年度はフットサルGKの級ライセンスが新設されました。その手応えは？

前川 手応えはあります。昨年

はJリーグのアカデミーやトップチームでGKコーチをされている方がフットサルのGKコーチライセンスを受けてみたいと、フットサルC級を受講されました。そこで「プロテクションの仕方などはサッカーよりも整理されていると思う」という感想を聞きました。そのようにサッカーの指導者や、フットサルでチームにGKコーチはいないけれどしっかりと選手を指導してチームを強化していきたい指導者、選手にうまく教えられないと困っている指導者など、いろいろな層の指導者が参加を希望されていますので、講習会の回数や内容はもちろん今後、どの段階で上位ライセンスに進んでいくのかなど検討していきたいと思っています。

——フットサルS級ライセンスの進捗はいかがでしょうか。

前川 AFCのミニマムリクアイアメント(質を保障するための最低限のレベル)をクリアするための時期設定があるので、その調整が遅れているので、どの時期にスタートすべきかということはお考えなくてはなりません。早ければ来年、遅くとも再来年にはスタートしたいと考えています。海外ではどのように運用されている



Japan's Wayの「フットボール・カルチャーの創造」に、「生涯スポーツ」と「選ばれてプレーする」という二つの指針が示されている

していくことにしています。

—その他の取り組みはいかがでしょうか。

小西 普及面でお伝えしたいのは、どうしても選手や指導者は、サッカーに有効か否かという目線になりがちですが、それはあくまで結果論だということ。サッカー以外にも、フットサル、ビーチサッカー、それぞれの競技に楽しむ要素があります。それを理解する大人が増えて、環境整備が進めば、子どもたちは自分自身がやりたいスポーツを選んで、取り組むことができます。理想論ですが、そういう環境を目指したいと思っています。

前川 多様なフットボールを知るといふことですよね。

小西 特に指導者にはそう考えてほしい。いろいろなスポーツを知っている中でその競技を教えているような状態ですね。そうでなければ、「このスポーツも楽しいからやってみよう」とはならないと思うんです。JFAは「Japan's Way」で、強化と普及のダブルピラミッドが形成されている状態を目指していて、競技志向と生涯スポーツの両面でアプロ

チをしています。スポーツ本来の楽しみを知っている指導者が増えれば、生涯スポーツとしてフットボールに携わってくれる人も増えるはずですので、普及ダイレクターとしてはそんな世界をつくりたいんです。

—最後に、日本フットサルがより良くなっていくために必要なことについてお聞かせください。

小西 代表チームが良い結果を残していくことはもちろん、その基盤を担っている国内リーグや競技環境も整備しなくてはなりません。それらをコントロールする指導者も、今まで以上にマルチで、かつ専門的な知識を持つことが求められます。選手たちもピッチ上だけでなく、オフザピッチで教育されるべきですし、周囲には理解があるフットボールファミリーの存在も必要です。一つが発展すれば盛り上がるわけではなく、いろいろなものが連結していますので、われわれとしてはより良く、なっていくべきを発信していかなくてはならないと思っています。その中で最も情報を発信できて、関心を持ってもらえるのが代表チームだと思いますので、その強化はしっかりとやっていきます。

前川 年齢や性別に関係なく、みんなが楽しめて、フットボールに携われる状況があるということが一番大事なのではないかと思えます。フットサル委員会としていろいろなことに取り組んできました。まだまだやらなければならぬことも多い。皆さんに言われて何が足りないのか気付かされることもあります。多くの人がフットボールを楽しみ、それに関わっている国こそが代表チームが強かったり、フットサルが盛んだったりすると思えます。そういう姿を目指していきたいと思っています。

のか、スペインに調査に行くこともそうですし、JFAのサッカー指導者ライセンスはすごく整理されていて外からも情報を取り込みながらやっていますので、サッカーのS級をどう進めているのかをオプザーブする機会もいただいています。

普及
子どもたちが選択できる環境をつくることが重要

—普及面で変化はありましたか。

小西 大きな変化としては、サッカー、フットサル、ビーチサッカーを含めて、マルチにプレーできる環境をつくっていくという大きなビジョンを、JFA技術委員会の普及部会や育成部会と情報共有できるようにしました。一方で、前川さんを中心とした4種向けのリフレッシュ研修会をつくりました。そこでは、全国の指導者に向けてサッカーとフットサルの考え方の根本は変わらないということに視点を置き、講義と実技を行っていきます。まずは神奈川県、千葉、富山などで開催し、今後47都道府県サッカー協会にも展開



昨年度、新設されたフットサルGKコーチライセンス。2022年7月に1回目の養成講習会が行われた

重要なことは 選手がどうありたいか

高橋健介

フットサル日本代表コーチ

対談

木暮賢一郎

フットサル日本代表監督



フットサル日本代表の木暮賢一郎監督と高橋健介コーチに
これまでの海外遠征で得た収穫、育成年代の強化、スタッフの連携について聞いた。

○取材日：2023年5月23日

日本もなかなかやるぞと
いう印象を植え付けられた

——フットサル日本代表は今年、2度
の海外遠征を実施しました。

木暮 U-23フットサル日本代表の活

動を含めると、上半期はフランス、タイ、モロッコと3度の海外遠征を行いました。来年のAFCフットサルアジアカップで連覇し、その後のワールドカップでベスト16の壁を乗り越えるために、戦術的なブラッシュアップと新しい選手間の競争を促すことが上半期の一番のテーマでした。これまでの海外遠征ではおおむねポジティブな印象を抱いています。今回の取り組みの成果が下半期につながるはずですよ。

高橋 昨年、AFCフットサルアジアカップを制した後、次の目標に向かう上で課題を修正することもできましたし、プレーモデルにおいても進展があった遠征でしたね。一歩ずつ目標に近づいているという感覚です。

——チーム内の競争という部分ではいかがでしたか。

木暮 昨年のAFCフットサルアジアカップは、国際サッカー連盟（FIFA）のインターナショナルマッチウィークの期間外に開催されたこ

ともあって、われわれは海外のクラブでプレーする選手を代表チームに招集することができませんでした。しかし今回は、欧州で活動している選手たちを間近に見て、彼らを新たな競争に加えることができました。これは非常に大きな収穫です。チームの底上げという面では、育成年代のフットサル日本代表でプレーしていた選手が、今回の遠征でフットサル日本代表としてデビューしたことも前向きに捉えています。

——フランスやクロアチア、モロッコなどフットボール界の強豪国との対戦が続きました。日本のステータスは上がっていると感じますか。

高橋 僕らが現役だった頃は、例えばスペイン遠征に行っても2部のクラブチームと練習試合をしたり、1部の強豪と練習試合を組んでも相手のモチベーションが低かったり、トップの選手は出場しないという状況でした。それが今ではブラジル代表と国際親善試合を組んでいますし、強豪国との対戦で相手はトップチームで臨んでくれます。先輩方やわれわれが積み重ねてきたことが実っている証だと思えます。

木暮 海外でプレーする日本人選手が増えていくことも見逃せません。日

本人の選手が欧州やアジアを舞台に活躍することによって多くの人の目に留まり、こんな選手がいるのかと個人レベルで認知されているのが一つ。もう一つは、チーム単位の話ですね。昨年、U-19フットサル日本代表がクロアチアに遠征した際（Futsal Week U19 Summer Cup）、強豪のウクライナやポーランドと渡り合い、決勝ではスペインと戦いました。冒頭で触れたU-23フットサル日本代表のフランス遠征ではフランスと2試合を戦い、いずれも日本が勝利しています。各年代が海外で目を引くような戦いを続けていることも強いチームと試合が組めるようになった要因で、良いサイクルに入っていると感じています。

高橋 インドネシア代表の監督を務めていたとき、世界の強豪国と試合を組むのがいかに難しいかを痛感しました。その点、強豪国に「日本と対戦すれば自分たちの強化になる」と見られているのかな、と。各カテゴリーの日本代表が遠征した先で良い試合を見せ、日本もなかなかやるぞという印象を植え付けられたことは大きいですね。

木暮 われわれスタッフも選手や指導者として国際経験を積んできて、海外のチームとフラットにコミュニケーションが取れる点もです。例えば現在のスペイン代表の監督は、私が選手

時代に所属していたクラブの監督でしたし、アルゼンチン代表の監督は（高橋）健介の元チームメートです。ポルトガル代表の監督もわれわれが選手のと時から対戦しているの、「日本と外国」という隔たりをあまり感じません。

自分の選んだ道から たどり着きたい場所へ

——フットサル日本代表の強化には、育成年代の底上げが欠かせません。今回の海外遠征でU-23フットサル日本代表を、また、Fリーグオーシャンカップ2023でU-19フットサル日本選抜を率いた中で得た手応えを教えてください。

木暮 まず、小さい頃からフットサルの選手になりたい、フットサル日本代表に選ばれたいという思いでフットサルを続けてきた選手が現れ、育成年代をリードする存在になっていることが喜ばしい。一昨年のFIFAフットサルワールドカップに出場した選手たちのほとんどは大人になってからフットサルに転向した世代なのですが、今のU-23年代から下の選手たちはフットサルを専門的にプレーしていたか、U-12年代のときにサッカーとフットサル両方をやっていたかのいずれかの

ようです。早くからフットサルに触れて育ってきた選手が多いのも、この競技が根付いてきた一つの証なのかなと思います。

高橋 幼い頃からフットサルに親しんできただけあって、新しい戦術にもスムーズに適応しますよね。昨年、U-19フットサル日本代表とクロアチア遠征に行った際、ある試合の前のミーティングで「今回はこのセットプレーを試そう」と提案したところ、本当にその形で点を取ったことがありました。少し難しい戦術的な話をしても、「こういうことですね」とすぐに理解してくれる選手が多くなった印象です。

——フランス遠征を行ったU-23日本代表の14人のうち5人が海外のクラブでプレーしています。早くから海外で経験を積むことの重要性についてどうお考えですか。

高橋 人としての成長を促すことは間違いないと思います。フランス遠征で集まったとき、海外でプレーしている選手たちが随分たくましくなっていると感ずる場面がピッチ内外でありました。それはコミュニケーションの取り方一つとってもそう。一つのプレーが終わるたびに仲間と話し合う姿がありましたし、チームが勝つためにす

べきことを常に探っていたように感じます。ただし、競技そのものに目を向けるとFリーグも創設当初から格段にレベルアップしています。Fリーグで活躍してから海外に出ても遅いとは思いません。それぞれの課題や状況に合わせて選択することが最も大事だと思います。

木暮 重要なのは選手がどうありたいか。どこに向かっているか、そのために何をすべきかを理解し、努力することです。海外に行くメリットは、人間としてタフになること、自己主張することの重要性が分かること、競技力が高い国であれば自分のレベルが引き上がるなど、さまざまなメリットがあります。ただ、行動しなければ何が良くて何が悪いかは分かりません。選手たちには自分の足でたどり着きたい場所に行ってもらいたい。日本代表の監督としては異なる道のりを歩んだ選手が増え、人選に困るようになればうれしいです。国内外を問わず代表の競争に割って入る若手が出てきてほしいと願っています。

——昨年の秋に始まったフットサルのナショナルトレセン「JFA U-18フットサルタレント育成普及事業」についてうかがいます。この事業を押し進めて良かったことは何ですか。

高橋 日本フットサルの目標を共有することで、選手やチューターへの意識づけができたことです。このプロジェクトの目的はフットサル日本代表につながる選手を発掘し、そんな選手を育成することだと皆さんに伝えました。これは、フットサル日本代表が2036年のFIFAフットサルワールドカップで優勝することを見据えたプロジェクトです。現在U-18年代の選手たちは36年に脂が乗った時期になるので、日本代表をけん引してほしい。代表の目標を提示することで、生活習慣を含め、今取り組むべきことや思考を知り、同時に練習の強度も体験してもらいました。今回、FリーグオーシャンカップにU-19フットサル日本選抜として臨んだメンバーの8割は、昨年のトレセンに参加しています。繰り返し目標を提示し、それを段階的に目指すことができるのは非常に意義深いと思います。

日本代表のコーチ全員が監督の目を持っている

——フットサル日本代表スタッフの役割分担を教えてください。

木暮 代表活動が間近に控えているか否かによって柔軟に対応しています。が、健介は日本代表を含めた選手のリ

スト作成やプランニングを担当し、大会では主に攻撃（分析、スカウティング）を担当しています。内山（慶太郎 GKコーチ）はGKの分析、馬場（源徳 コーチ/フィジカルコーチ）は守備の視点で相手を分析、スカウティングを担当していますが、これはあくまでも大きくくりであって、担当分野を超

えた情報交換も活発に行っています。健介にはU-18のナショナルトレセン事業、内山はGKプロジェクト、馬場にはフィジカルフィットネスプロジェクトや分析プロジェクトの担当業務がありますので、そこも尊重しながら日々の活動に当たっています。



今年実施した海外遠征では「収穫しかない」と木暮監督。下半期の活動につながりそうだ

——担当にとらわれ過ぎることがないのです。

木暮 選手に自主性や創造性が求められるように、コーチングスタッフにもこちらが要求したこと以上を示してもらいたいと思います。彼らはこれまでも私の想像を超える仕事をしてきています。監督としては、コーチ陣がモチベーションを高く保ち、力を発揮してくれるような関係をつくるのが大事な点。それは自分自身がコーチも経験したからこそ理解できるのかもしれませんが。日本代表のコーチングスタッフは全員が監督もできま

すし、監督としての目も持っています。互いに知恵を出して、チームがより高いパフォーマンスを発揮できるように働きかけています。

——日本人のスタッフ体制で強化を進めるアドバンテージはありますか。

高橋 スタッフ全員が目指す方向を共有した上で強化していることは大きいと思います。グレさん(木暮監督)とは選手だった頃からフットサル日本代表でも長く一緒にプレーしていましたが、その時から目標は変わっていません。

木暮 一昔前は日本のフットサルが整備できておらず、スペインやブラジル

の指導者からできる限り多くのことを学ぼうというスタンスでした。今もその向学心は変わりませんが、いかに日本の特徴を生かした上でレベルアップできるかを考えています。健介は、選手時代から日本はどうすれば世界で勝てるか、日本人に最も適しているフットサルのスタイルは何なのかを追求した上で相手に立ち向かっていました。その姿勢は今も変わらない。心強いです。あと、私はいいい加減なところがありますが、健介はしっかりしているの、そこも頼りになります(笑)。

高橋 グレさんは自分が話している内容を頭の中でまとめられるタイプですが、僕はその逆で、例えばトレーニングメニューをとってもノートやPCに書いておかないと不安になります。そこは少し違うのかな。

——選手時代、互いに指導者になることを想像していましたか。

木暮 健介は選手時代から考えながらプレーするタイプでした。私が指導者になってからも、いろいろな話をして自然と気にかけていたので、間違いなく良い指導者になると心のどこかで期待していたんでしょうね。その後、(高橋コーチが)バルドラール浦安やインドネシア代表の監督を務めたときも意見交換していましたから。

今はコーチとしてフットサル日本代表が成果を出すために力を貸してもらっています。いつの日か、今の経験を生かして監督をやってくれと言っています。

高橋 グレさんにはずっと気にかけてもらって、選手だった頃からアドバイスをもらっています。僕がインドネシア代表の監督を務めていたときもよくリモート会議をしていました。グレさんは選手時代から研究熱心で、どの指導者や選手よりもフットサルを見ているんじゃないかと思うくらい、フットサルを勉強していました。早い段階からグレさんは絶対に監督になると確信していました。頼れる先輩と、監督とコーチという立場でフットサル日本代表の強化に携わっていることはうれしいですが、それ以上の責任感を持ってこのチームと目標を達成できるように活動します。

——最後に今後の抱負をお願いします。

木暮 9月のFIFAインターナショナルマッチウィークから、24年のFIFAフットサルワールドカップまでちょうど1年です。この1年は、本大会で最高の成績を収めるために一日一日にどれだけこだわるか、だと思っています。本大会までにはFIFA

フットサルワールドカップの1次予選とAFCフットサルアジアカップがあります。アジアカップ連覇を懸けて臨みますが、まずは本大会の切符をつかむこと。フットサル日本代表の躍進のために自分たちが持っている全てを注ぐ構えです。

高橋 2036年のFIFAフットサルワールドカップで優勝するプロジェクトに少しでも貢献できるように、U-18のナショナルトレセン活動や年代別代表の強化にも注力します。あとはフットサル日本代表がFIFAフットサルワールドカップで最高成績を残すという使命を果たすべく、日々の活動に当たります。



フットサル日本代表のスタッフは密に連携を取り、選手に落とし込むことができる。「誰もが監督の目を持っている」(木暮監督)ことも長所の一つだ

フットサル GKの 育成・強化

現代のフットサルのGKはゲームを変えられる存在

フットサル日本代表GKコーチ / JFAフットサルGKプロジェクトリーダー

内山慶太郎 インタビュー



フットサルでもGKは重要なポジションとなる。現代フットサルにおけるGKの役割、世界一のフットサルGKを育成・強化するための取り組み、指導者に促したいことなどについて、日本サッカー協会（JFA）のフットサルGKプロジェクトリーダーで、フットサル日本代表GKコーチを務める内山慶太郎氏に話を聞いた。

取材日：2023年5月22日

「選択肢」の一つとして フットサルを知ってもらおう

——現代フットサルでGKはどのような存在と言えるのでしょうか。

内山 2021年に行われたFIFAフットサルワールドカップを境に、転換期を迎えたと感じています。本来の意味で、「4+1」ではなく「5分の1」と捉えられるようになってきました。守備面ではシュートストップなど役割の重要性は変わりませんが、攻撃面で良い関わりをすることでその影響力が高まっていると言えます。

——戦術的にも技術的にも変わってきていますか。

内山 チーム戦術の中にGKが組み込まれるようになってきました。例えば、ゴールクリアランスの際には、相手の守備によってボールの出どころを決めるなどですね。もちろん足元の技術も必須です。現在のフットサル日本代表でもチームのやり方を理解した上でGKがいかに関わるかを求めています

し、もっとチームとしてボールを保持・前進できるようにGKにも働き掛けています。

——試合の行方を左右する存在になっていると。

内山 1試合でGKのプレー回数が攻守合計で100回を超えることが当たり前になっています。フットサル全体でフィジカル面が重視され、マンツーマンのハイプレスが主流になる中、GKを活用して5対4の状況をつくり、局面では2対1になる場所を理解しながらボールを保持して前進していくのがスタンダードになっています。

——フットサルGKの定着しているイメージや、またその変化を感じることがありますか。

内山 GKは「守る人」であり、怖い、痛いといった印象を持つ方が多いと思いますが、フットサルでは常にゲームに関わり続けることができ、ゲームの流れを変えることができ

スペースが狭いフットサルではGKを活用して攻略する戦術が主流になっている。内山GKコーチは「GKの役割も多様化し、攻撃面で関わる割合も増えている」と話す

きます。先日のUEFAフットサルチャンピオンズリーグの決勝では、GKがドリブルで相手ゴール前に運び、そこからのアシストで得点が生まれました。まさに時代の変化を示すプレーだったと思います。

——現在の日本のフットサルGKにはどんなバックグラウンドを持つ選手がいるのでしょうか。

内山 サッカーからの転向組とFリーグのクラブのアカデミーなどで育ってきた、いわゆるフットサルプロパーの二つの軸があります。





フットサルGKキャンプでは、フットサルを選択肢に入れているサッカー選手やフットサルプロバレーの選手などが混在する中でタレントの発掘と指導が行われている

この流れはしばらく続くと考えています。

——サッカーからの転向組という点で、タレント発掘や育成の伸びしろはありそうです。

内山 大型化が顕著なサッカーのGKにおいて、体格によってトップ

を目指すのが難しい選手は多くいるでしょう。一方でJクラブの育成組織で育った選手などは食事や睡眠などオフ・ザ・ピッチも含めて意識も高く、優れたフットボーラーと言えます。そういう選手たちの「選択肢」としてフットサルを知ってもらうことは大切だと思います。

プロジェクティブの発足で広がるネットワーク

——21年にフットサルGKプロジェクトが立ち上がりました。

内山 日本フットサルにとって最大の目標は36年のフットサルワールドカップでの優勝、そのために世界に通用するGKを育てること。そこから逆算すると、世界レベルの指導者も必要です。サッカーと同様ですが、代表強化、選手育成、指導者養成、普及の四本柱で連携を密にして進めています。

——立ち上げによる変化は？

内山 選手はもちろん、指導者やクラブ関係者とGKに関する情報共有をより図れるようになりました。これまではいち代表スタッフだったのが、プロジェクティブリーダーになったことで、オフイシャルな情報を発信する、あるいはフィードバックをいただくなど、コミュニケーションの取り方が変わりました。

——プロジェクティブとしてのよう将来像を描いていますか。

内山 GKコーチだけでなく、監督やコーチにもGKの重要性や求められる資質を理解いただき、現場の活動に生かしていただくことを目指しています。今後は、プロジェクティブを9地域に広げ、各地域でGKプロジェクティブを立ち上げ、各地域も拡大していきたい。各地域で選手を育て、そこで育った精鋭たちがフットサルGKキャンプに来る形が理想です。36年から逆算すると猶予はあまりないので、スピード感を持って可能な地域から進めていきたいと思っています。

——今話に出たフットサルGKキャンプは、プロジェクティブ立ち上げ前の18年から開催しています。

内山 当初はある程度の完成期にある選手を招集して強化を図っていました。サッカーのナショナルGKキャンプの対象年齢を下げて

いるように、フットサルも各クラブの育成組織が整ってきてそれができるようになっていきます。

今年6月のキャンプでは、U15とU18の選手を招集します。キャンプ開始当初はその場で選手を磨くような形でしたが、今は基礎要素を徹底させ、選手たちに日常の過ごし方を含めて大事なことを伝えてそれを持ち帰ってもらい、成長につなげていく、そうしたプロセスに変わってきています。

——招集する選手のバイも広がってきているのでしょうか。

内山 指導者とのつながりが増えていきます。それこそ最初は、私たちが足を運ばないと情報収集ができなかったのですが、今はネットワークを構築して仲間を増やしてきたことで、各地域の指導者から「この選手を見てほしい」という話をいただくこともあり、そういう話をいただくこともあります。そうした相談は私たちとしてもウエルカムです。

フットサルのGKは、何でもできるポジション

——指導者養成では昨年、フットサルGK-C級ライセンスがスタートしました。GK-B級、GK-A級の開設も予定されています。

内山 予想していた以上に監督やコーチの方に参加いただき、うれしい限りです。GK-C級は基本的な部分が主で、GKコーチだけのラ

イセンスではなく、全ての指導者にGKの重要性ややりがいを知ってもらおうという意図があります。

フットサル日本代表の木暮賢一郎監督や高橋健介コーチも受講されたのですが、GKに関する会話が増え、明らかに見方が変わっています。日頃からGKに目が向くようになる、それが大事です。

——そうした数々の取り組みが代表強化にもつながっていると思えます。世界のGKと比較して日本のGKの現状をどう捉えていますか。

内山 もっと基礎のクオリティを高めていかなければなりません。そのためには、やはり育成からの取り組みが大事です。今の選手たちはすでに完成期を迎えており、全く別のスタイル、いわゆる「4+1」のイメージでやってきた選手たちが多くいて、「新しいやり方に適応できるか」にフォーカスされます。ですが、育成で接する若い選手たちには「GKはこうならなければならない」と働き掛けているので、数年後を見据えると楽しみです。フットサル日本代表を頂点に、アンダーカテゴリー代表や育成事業のフットサルGKキャンプの流れがある中で、選手育成とそこに働き掛ける指導者の養成を含めて取り組んでいければと思います。

——普及の面で検討されていることはありますか。

内山 今年から「Fリーグ育成巡回指導」をスタートします。まずはF1クラブの育成組織を全て回り、選手に指導し、指導者とコミュニケーションを取ることに努めます。また、当該地域の選手を指導する機会をつくれたらと思います。描いていますし、こうした活動を広げていければと思っています。

——最後に目指す姿を含めてメッセージをお願いします。

内山 GKはゲームへの影響力が大きく、勝利に直接貢献できるポジションです。そういう視点でGKを見てもらいたいですね。あの意味、ドリブルやシュートもできて、手でもボールを扱えて、ピッチの中で何でもできるのがGKです。そうした魅力を伝えて、多様なGKを育てていくことが今は求められています。



フットサルGK-C級コーチ養成講習会には監督やコーチも多く参加。「指導者みんなにGKを理解してもらいたい。またフットボールファミリーとしてサッカーの指導者とも情報交換やコミュニケーションを取れる形をつくっていききたい」と内山GKコーチ

フットサル選手のフィジカル強化



世界一を目指すには 環境を整えることが絶対

スペインで指導者としてのキャリアをスタートさせた後、フットサル日本代表の前にはトルクメニスタン代表やタイ代表でもコーチとしての国際指導経験を積んだ。クラブレベルではボルクバレット北九州の監督として、前身のボルク北九州時代(九州リーグ)よりFリーグディビジョン2参入、Fリーグディビジョン1昇格を果たしており、昨年はポルトガルリーグ1部のSLベンフィカでコーチを務めた。

異色の経歴を持つ馬場源徳フットサル日本代表コーチ/フィジカルコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日:2023年5月19日

馬場源徳 フットサル日本代表コーチ/フィジカルコーチ インタビュー

スペインで学んだ指導者のノウハウ

——フットサルとの出会いについて伺います。

馬場 アルゼンチンのブエノスアイレスに留学し、南米文学を学んでいた2006年頃だったと思います。大学のチームでサッカーをしていたのですが、オフヤリカバリーのときに遊びでフットサルをやっていました。その後、07年に仕事でバルセロナ(スペイン)の郊外にあるガバという町に住んだとき、初めて競技としてのフットサルを知りました。

——どのような経緯で知ったのですか。

馬場 引越した家の近くにフットサルクラブがありました。そこで活動していたチームの監督に「練習させてほしい」とお願いして1カ月半参加させてもらったのですが、本当にレベルが高かったです。その監督はとても優しい人で、練習に僕を招いてくれました。そうした中で自分はどうなかならなくて、頑張ってもフットサル選手にはなれないと悟り、別の形でフットサルに関わる方法を探す決意をしました。

——フットサルのどんなところが

魅力的に映ったのでしょうか。

馬場 まずフットサルはサッカーと同じくボールを蹴るスポーツですが、必要な技術が異なるという点です。ボールを蹴るときの技術が違いますし、両足を使いながらつま先、足の裏、踵などサッカーではあまり使わない技術を駆使します。もちろん、ルール、戦術、決断、プレースピード、トレーニング方法なども、サッカーのそれとは大きく異なりました。その全てが衝撃でしたし、もつとこのスポーツを知りたいと思いました。

——2010年に指導者のキャリアをスタートさせました。

馬場 まずは子どもたちにフットサルを教え、2012年からSANTIAGO FUTSALというスペイン1部のフットサルクラブで本格的に指導を始めました。指導者として「本格的な教育を受けた初めてのクラブ」と言った方が正確かもしれません。ここで最初に行ったのは優秀な指導者の隣にいて、U-18やU-10の選手たちの指導を共同で行いました。クラブは私が独り立ちする前に、経験豊富な指導者のメソッドを間近で見て学ばせてくれたのです。私が徐々に練習や試合を担当するようになった後も上司にあたるベテラン指導者に評価してもらい、それ

を次の練習と試合につなげるアドバースをひたすら受けました。何が正しく、何が誤りかを示してくれたのは本当に大きかった。クラブには永遠に感謝しています。

——スペインでの経験はその後、指導者として活動する上で生きていますか。

馬場 スペインでは、トップチームはもちろん、U-18、U-14、U-10、そして女子などあらゆるカテゴリーで指導経験を積みました。異なる年代の選手たちを指導するには適応力が重要だと学べ、そして偉大な指導者のそばで仕事したことなどが財産です。実際、日本では長崎県選抜を全国に率いるため、北九州をF1まで上げるためにチームづくりの基礎から仕事をしました。またトルクメニスタンやタイでは、出来上がった代表チームをいかに最短距離で勝たせるかを試行錯誤しました。いずれもスペインでの経験があったことです。

技術と戦術の徹底を

——フットサル日本代表ではどのような役割を期待されていますか。

馬場 まずはメデイカル班と協力しながら、選手たちがよりよいコンディションで試合に臨めるように努めること。二つ目に、指導者

としての経験を生かして監督や代表が求めるゲームモデルの構築、攻撃と守備の表現に貢献すること。その内容はウォーミングアップやトレーニング、個人練習など多岐にわたります。そして三つ目は私が欧州で培ったものをチームに還元すること、すなわち試合での競争に貢献することです。

——フットサルにおけるフィジカルの重要性をどのように捉えられていますか。

馬場 ひと昔前は、フットサルの試合ではルールが異なり、試合のリズムももう少しゆったりとしていました。今はプロ化が進み、競技力が上がっている中、プレー強度も明らかに高くなっています。スペースが少なく、ゴールへの距離が近いためフィジカルコンタクトの回数が多く、フィジカルの強さはより重視されています。技術・戦術も発展した中で、あらゆる局面において、細かいフィジカル要素が求められるという意味では非常に過酷です。世界のレベルに到達するためのハードルは確実に上がっています。

り組むべきでしょうか。

馬場 フットサルの試合を通して、フットサルのフィジカルを強化する、というのが私の考え方です。フィジカル強化はもちろん大事ですが、根本的に必要なことは、フットサルで競争する環境を増やすことです。その過程でスキルに長けた選手や足が速い選手、そしてパワフルな選手が自然淘汰されていきます。世界一を目指すには淘汰の環境を整えることが絶対条件です。

また中学生までは技術と戦術の基礎を教えることが大切だと思います。ボールを持つとき、ボールがないときの動きを徹底的に学び、高校生もしくは中学生の終わりからフィジカルを導入しても間に合います。まずはフットサルの基礎を習得することです。

——フットボールの指導者に促したいことは何ですか。

馬場 攻撃的なチームが最終的には勝つので、より多くボールを扱い、チャレンジやゴールを試みる練習を大切にしてください。攻撃の技術と戦術を習得することが選手にとっての一番の喜びだと考えます。それはサッカーもフットサルも同じです。まずは球技の本質である「攻めること」を促してほしい。ボールを持って攻めるこ

との楽しさを覚え、その中で成功体験を重ねる。守備はその後でも学べますが、攻撃のタレントは小さい頃の習慣が大きく影響を与えます。

——若い頃は発想も豊かです。

馬場 幼い頃は遊び心のあるプレーも膝下の技術もたくさん習得できます。小さい頃からどんどん攻めさせて、段階に応じた守備を覚えれば、攻守両方がレベルアップします。そして最後に必要になってくるのがフィジカルです。いずれ攻撃ではシュート力、1対1での瞬発力が必要であるように、GKでは柔軟性や反応スピードが求められます。試合を重ねれば、必然的に技術、戦術、メンタル、そしてフィジカルの必要性に直面するでしょう。

——最後に、今後の抱負を教えてください。

馬場 2024年のFIFAフットサルワールドカップに向

けて、この度ヨーロッパでの活動を終えて、フットサル日本代表の活動に加わります。選手たちのコンディションを細かく把握して、最高のスタッフたちと連携しながらフットサル日本代表が最善の結果を出すために貢献したい。チームにプラスをもたらせるように精進していきたいと思っています。



指導者としての国際経験も豊富な馬場コーチ(写真右から2番目)。今年から日本に拠点を移し、本格的にフットサル日本代表の指導にあたる

暑熱対策～熱中症の正しい知識と対策を

気温や湿度が高い日の練習や試合では、選手の健康を損ねる原因となる熱中症に対して十分に注意してほしい。6月や7月は暑さに対する身体の慣れが不十分なため、熱中症の発生頻度が高くなるとされている。熱中症は命の危険も伴うことから、初期症状が見られた際は適切な対応が必要になる。本格的な夏を迎える前に、熱中症に関する情報や予防について確認しておきたい。



●「熱中症対策ガイドライン」および「熱中症の応急処置」
https://www.jfa.jp/medical/heat_measures_hydration.html



●サッカーファミリーの心と体の健康のために～熱中症予防編
(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)
【動画(約7分)】 <https://www.youtube.com/watch?v=zJneS1uJQPu>



●熱中症の症状・応急手当について (JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)
【動画(約10分)】 <https://youtu.be/h4wCKQQEjYU>



JFAチャレンジゲーム「めざせクラッキ！」 ～「スターターキット」を未就学児にプレゼント

JFAは、子どもたちがスポーツに触れ、楽しく体を動かすきっかけをつくることを目的として、「めざせクラッキ！」の全ステージを合格し、全国各地で開催されているイベント・フェスティバルに参加した未就学児を対象に「スターターキット」を配布している。



●スターターキット概要

- ・サッカーボール3号軽量球(※)
- ・リュック(3色から1色を選択)(※)
- ・サッカー関連用具
- ・「めざせファンタジスタ!」ハンドブック(キッズ向け)、「めざせベストサポーター」ハンドブック(保護者向け)
- ※ポケモンがデザインされたオリジナルグッズ

●特設サイト

https://www.jfa.jp/grass_roots/jfa_challengegame/craque/starter_kit.html



JFA小学校体育サポート研修会「サッカー(ボール運動・ゴール型)の授業づくり」

2023年度実施校を募集中! JFAが講師を無料派遣、ボール・テキスト贈呈も

JFAでは小学校や小学校教員を対象とした研修会・研究会に「小学校体育サポート研修会」の講師を派遣している。2023年度からはスポーツ庁の後援も決定。実施校にはJFAから講師が派遣されるほか、ソフトスポンジボール4号10球とテキスト「新・サッカー指導の教科書」2冊も贈呈される。詳細および申し込み方法は下記より。

・主催:公益財団法人日本サッカー協会

・後援:スポーツ庁

・対象期間:2024年3月31日(日)まで

https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/dispatch_instructor.html



●小学校体育 全学年対応「新・サッカー指導の教科書」

小学校の体育授業で行う「ボールけりゲーム」「ミニサッカー」「サッカー」指導をイラスト・図解を交え4段階で分かりやすく解説。この1冊で全学年のサッカー授業に対応することができる。サッカー経験がない先生にもオススメの1冊。

https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/textbook.html

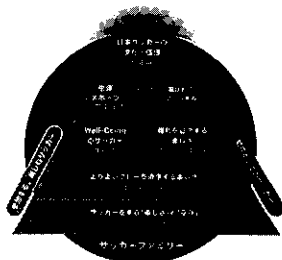


ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「ありたき姿」から逆算してそこに至る道筋を示したもの。Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

●構成

1. プロローグ～なぜJapan's Wayなのか
2. フットボール・カルチャーの創造
3. 望まれる選手像とは
4. プレービジョン
5. 将来に向けた日本のユース育成
6. フィジカルフィットネスの未来
7. 将来のサッカーコーチとは?
8. フットボール・ファミリーの拡大



●デジタルブック(PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>

※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される



●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>





JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



©JFA/キリンチャレンジカップ2022 対アメリカ代表戦 先発メンバー(2022.9.23)

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM PARTNER



日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>

新型コロナウイルス感染症、感染症法上の位置付け変更後の基本的感染対策の廃止

5月8日に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が「新型インフルエンザ等感染症」から「5類感染症」へ移行されたことに伴い、JFAは、「JFAサッカー活動の再開に向けたガイドライン」および「JFA新型コロナウイルスの影響下における競技会・試合運営手引」を廃止することを決定した（5月11日発表）。

JFAが主催する日本代表戦や天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会等では、政府方針の通り、感染対策は「個人の選択を尊重し、自主的な取り組みをベースとしたもの」とし、マスクの着用等は個人の判断に委ねることとする。

サッカー日本代表ユニフォーム着用～CPサッカー日本代表も同じデザインに

JFAと一般社団法人日本障がい者サッカー連盟、一般社団法人日本CPサッカー協会は、「障がい者サッカーの発展」と「スポーツを通じた共生社会づくり」の推進を目的として、日本CPサッカー協会が編成する右記の日本代表チームのユニフォームとトレーニングウェアをサッカー日本代表と同じデザインにすることを決めた（5月17日発表）。

【一般社団法人日本CPサッカー協会が編成する日本代表】

・CPサッカー男子日本代表

・CPサッカー女子日本代表

CPサッカー男子日本代表は、6月28日からスペインで開催される国際親善大会よりサッカー日本代表と同じデザインのユニフォームを着用する。

FIFAクラブワールドカップサウジアラビア2023、浦和レッズの出場が決定

AFCチャンピオンズリーグ（ACL）2022で優勝した浦和レッズのFIFAクラブワールドカップサウジアラビア2023への出場が、正式に決定した（5月16日発表）。ACL2022決勝レポートは56ページ参照。

【FIFAクラブワールドカップサウジアラビア2023概要】

開催期間：2023年12月12日（火）～12月22日（金）

開催地：サウジアラビア

【FIFAクラブワールドカップにおける浦和レッズの過去の戦績】

3位（2007年大会）、5位（2017年大会）

AFCグラスルーツフットボールデーにウォーキングフットボール「ペンギンズカップ幕張2023」を開催

5月15日はアジアサッカー連盟（AFC）が定める「AFCグラスルーツフットボールデー」であることから、JFAは休日である同20日に高円宮記念JFA夢フィールドでウォーキングフットボールのフェスティバル「ペンギンズカップ幕張」を開催した。同フェスティバルは、誰もがフットボール（サッカー）を心から楽しめるようにと開催しているもので、昨年から日本ウォーキングフットボール連盟（JWFL）と共催し、JWFLが主催するウォーキングフットボールの大会名称「ペンギンズカップ」を使用すること

によって、ウォーキングフットボールのさらなる普及を目指している。

フェスティバル当日は、子どもから高齢者まで約180人（うち個人参加22人）が参加。女性だけのチームや障がいのある人々と日本在住のインド人によって結成されたチームなど、多彩なチームが参加。年齢や性別、国籍、障がいの有無など関係のないインクルーシブなイベントとなった。来年もAFCグラスルーツフットボールデーに合わせてフェスティバルを開催する予定だ。

インドネシアサッカー協会とのパートナーシップ協定を再締結

JFAは5月22日、インドネシアサッカー協会（PSSI）とのパートナーシップ協定を更新した。同協会とは、2017年12月にパートナーシップを締結以来、さまざまな分野で協力関係を築いており、今回の再締結によってさらなる相互協力を図っていく。

協定内容：両協会の関係強化のため下記の分野について情報交換、人的交流などの協力を行う。

- ・プロフェッショナル・レフェリー養成に関する知識共有
- ・レフェリー、指導者、アドミニスタッフ交流
- ・代表チーム親善試合
- ・両国のクラブや協会スタッフの研修・交流
- ・両国プロリーグ連携強化
- ・ナショナルトレーニングセンターに関する知識共有
- ・女子サッカー

協定期間：2023年5月22日（調印日）から5年間

調印日時：2023年5月22日（月）

調印式出席者：インドネシアサッカー協会 Erick THOHIR 会長
インドネシアサッカー協会 Zainudin AMALI 副会長
インドネシアサッカー協会 Vivin CAHYANI 理事

日本サッカー協会 田嶋幸三 会長

調印場所：千葉県／高円宮記念JFA夢フィールド

「明治安田J30ベストアウォーズ」受賞者決定！ MVPはJ1歴代最多出場の遠藤保仁選手

Jリーグは5月15日、Jリーグ公式サイト上でファン・サポーターの投票をもとに決定する「明治安田J30ベストアウォーズ」の受賞者を決定した。

MVPは、J1通算歴代最多出場記録を持つジュビロ磐田の遠藤保仁選手が受賞。ベストイレブンには、初代最優秀選手賞を授賞した三浦知良選手、「アジア最高のリベロ」と称された井原正巳氏ら黎明期のJリーグを支えた選手から、J1最年長選手の小野伸二選手(北海道コンサドーレ札幌)といった現役選手までJリーグを代表するメンバーが選ばれた。

また、ベストマッチ、ベストゴール、ベストシーンとして、Jリーグ30年の歴史を語るにふさわしい、数々の記憶に残るシーンが選出。受賞者にはJリーグより記念のオーナメントが贈られた。

【明治安田J30ベストアウォーズ受賞一覧】

賞	Pos.	名前	最終所属(内Jリーグ最終所属)
MVP	MF	遠藤保仁	ジュビロ磐田
ベストイレブン	GK	川口能活	SC相模原
	DF	井原正巳	浦和レッズ
	DF	内田篤人	鹿島アントラーズ
	DF	田中マルクス闘莉王	京都サンガF.C.
	DF	中澤佑二	横浜F・マリノス
	DF	松田直樹	松本山雅FC(横浜F・マリノス)
	MF	遠藤保仁	ジュビロ磐田
	MF	小野伸二	北海道コンサドーレ札幌
	MF	中村憲剛	川崎フロンターレ
	MF	中村俊輔	横浜FC
FW	FW	三浦知良	UDオリヴェイレンセ/ボルトガル(横浜FC)

賞	対象試合
ベストマッチ	2011 J1リーグ戦第7節川崎フロンターレ1-2バルタ仙台 2011年4月23日(土)等々力(東日本大震災発生後のリーグ戦再開試合)

ベストゴール		
賞	名前	試合
ボレー/オーバーヘッド部門	エムボマ (FW/G大阪)	1997 Jリーグ1stステージ第1節 4/12(土)G大阪vs平塚(万博) 72分
テクニカル部門(トラップ、ドリブル、ループ等)	レオナルド (MF/鹿島)	1995 JリーグNICOSシリーズ第19節 11/1(水)鹿島vs横浜F(カシマ) 83分
ミドル/ロングシュート部門	久保竜彦 (FW/横浜FC)	2007 Jリーグ J1リーグ戦第1節 3/3(土)浦和vs横浜FC(埼玉) 44分
フリーキック部門	中村俊輔 (MF/横浜FM)	2016 明治安田生命 J1リーグ1stステージ 第5節4/2(土)G大阪vs横浜FM(吹田S) 40分
ヘディングシュート部門	山岸範宏 (GK/山形)	2014 J1昇格プレーオフ準決勝 11/30(日)磐田vs山形(ヤマハ) 90+2分
その他部門(パスワーク等)	大島僚太 (MF/川崎F)	2018 明治安田生命 J1リーグ第30節 10/20(土)川崎Fvs神戸(等々力) 69分

賞	対象シーン
ベストシーン	「ストイコビッチ雨中のリフティングドリブル」 1994 JリーグNICOSシリーズ第11節 9/17(土)名古屋vs.市原(長良川) ストイコビッチ(名古屋)

●明治安田J30ベストアウォーズ

Jリーグ30年の歴史の中から「MVP」「ベストイレブン」「ベストマッチ」「部門別ベストゴール」「ベストシーン」をファン・サポーターの投票をもとに決定する。各賞のノミネートは、これまでのJリーグアウォーズの受賞歴や選考委員会の推薦により選定。また、本アウォーズはJリーグタイトルパートナーである明治安田生命保険相互会社の協賛を得て「明治安田J30ベストアウォーズ」として表彰する。

2023 Jリーグシャレン! アウォーズ各賞決定

Jリーグは5月15日、全60クラブのホームタウン・社会連携(シャレン!)活動の中から、特に社会に幅広く共有したい活動を表彰する「2023 Jリーグシャレン! アウォーズ」を開催し、各賞を決定した。

Jリーグシャレン! アウォーズは今年で4回目の開催。多くの協働者との連携、取り組む課題や活動に関する発信力など、地域に根差したプロスポーツクラブの持つ価値をいかに発揮している社会連携活動を称える目的で実施している。今回は、Jリーグ開幕30周年という節目の年での開催に合わせ、昨年の活動に限らず「これが自クラブの代表的なシャレン!」という活動を選考対象とし、Jリーグ全60クラブからエントリーのあった活動から選考し、6クラブの受賞を決定した。

また、多くのファン・サポーターによる「ファン・サポーター選考賞」を新設。「2023 Jリーグシャレン! アウォーズ特設ページ」を通じて、個性あふれるJクラブのシャレン! 活動から魅力的な活動や応援したい活動を選んでもらい、1人最大2票を投じる形で選考を行い、合計10,000票を超える投票があった。

【2023 Jリーグシャレン! アウォーズ各賞】

●ソーシャルチャレンジャー賞

選考基準: その地域にある社会課題解決に対してチャレンジしていること
[受賞] 在留ブラジル人の子どもたちのお仕事体験/名古屋グランパス

●パブリック賞

選考基準: 国や自治体が掲げる政策を活用し、地域の課題解決に向けて、多様なステークホルダーと連携し、持続可能な活動となるように取り組んでいること

[受賞] やいづ ふっとさる かつぶ/藤枝MYFC

●メディア賞

選考基準: 記者として、自身の媒体に取り上げたいと思う活動であること
[受賞] 選手の汗と情熱がしみこんだ堆肥「芝〜レ!」カターレ農食プロジェクト〜紅はるか〜/カターレ富山

●明治安田 地元の元気賞 ※2023新設

選考基準: 地域社会との「つながり」、「ふれあい」、「ささえあう」をテーマにした活動であり、地域住民を元気にした取り組みであること
[受賞] 新しいフツウを子どもたちからプロジェクト〜大豆ミートバーガー編〜/水戸ホーリーホック

●クラブ選考賞 ※2023新設

選考基準: 各Jクラブが自クラブ、自地域でも実施したいと思える活動であること

[受賞] 高校生が本気で挑戦できる場として「高校生マーケティング探求」を実施/モンテディオ山形

●ファン・サポーター選考賞 ※2023新設

選考基準：自身が応援しているクラブの地域でも実施して欲しいと思える活動であること

[受賞] 継続は笑顔なり。20年続けてつながった2つのシャレン／ガイナレ鳥取

※その他詳細はシャレン！HPおよびアウォーズ特設ページ参照

●シャレン！HP

<https://www.jleague.jp/sharen/about>

●シャレン！アウォーズ特設ページ

<https://www.jleague.jp/sharen/awards2023/>



ジュビロ磐田と京都サンガF.C.のホームタウン追加

Jリーグは、ジュビロ磐田と京都サンガF.C.がホームタウンを追加することを承認した。ジュビロ磐田は、従来の磐田市に加え、新たに御前崎市、菊川市、掛川市、袋井市、森町、浜松市、湖西市を、京都サンガF.C.は、従来の京都市、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、京田辺市、木津川市、亀

岡市、南丹市、京丹波町、舞鶴市、福知山市、綾部市、八幡市、宮津市、大崎町、久御山町に加え、新たに京丹後市をホームタウンとする（5月16日、25日発表）。

2023/24シーズンのAFCクラブライセンス判定結果

AFCチャンピオンズリーグ（ACL）2023/24の出場権を獲得している浦和レッズ、川崎フロンターレ、横浜F・マリノス、ヴァンフォーレ甲府について、AFCクラブライセンス判定の結果、4クラブに対して2023/24シーズンのAFCクラブライセンスが交付された。ACLが2023年から2024年に開催されることに伴い、J1クラブライセンスとは別に、AFCクラブライセンス判定を実施。AFCクラブライセンスは、J1クラブライセンス

と同様、クラブから提出された申請書類に基づき、Jリーグから独立した第三者機関であるクラブライセンス交付第一審機関（FIB）にて判定される。なお、ヴァンフォーレ甲府のAFCクラブライセンスにおけるホームスタジアムは国立競技場として承認された（5月30日発表）。その他詳細はJリーグ公式サイト参照。

日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）

<https://weleague.jp/>



2023年5月度WEリーグ理事会を開催

WEリーグは5月31日、2023年5月度理事会を開催した。主な決議事項および報告事項は下記の通り。

【決議事項】

●主たる事務所の所在地の変更およびそれに伴う定款の変更
下記の通り、当法人の主たる事務所を移転し、定款に定める主たる事務所の所在地および関連する表記について変更する。なお、定款変更の効力発生日は、事務所移転日となる2023年6月26日とする。

移転先：東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号 渋谷スクランブルスクエア
移転日：2023年6月26日

●理事選任

WEリーグの理事候補者として、下記の通り、2023年5月31日開催の臨時社員総会の議案に含めて決定した。各理事の担当領域の明確化することで、WEリーグの認知度向上、ブランディング強化に力を入れていく。

- ・理事候補者：松岡けい
- ・選任理由：2022年9月の役員改選で15名の理事が選任されたが、その後3名の理事が退任、2名の理事が選任され、理事総数は14名となっていたため、松岡けい氏を理事として選任したい。現在、マーケティング本部のゼネラルマネージャー職をチェアが兼務をしており、マーケティング分野に長けた人材を採用し、WEリーグの認知度向上、ブランディング強化に

力を入れていく必要がある。松岡氏は、前職であるDAZNではメディアやパートナーとの協業、ブランディング、リスク管理等幅広い業務を担当し、特に女子スポーツ価値向上に関わる取り組みを担当。それ以前にも、スポーツPRやアスリートマネジメントを20年以上担当しており、これまでの経験を十分にWEリーグで発揮してもらえると判断できる。WEリーグでは、マーケティング本部ゼネラルマネージャーを兼任し、日本初の女子プロサッカーリーグのブランド・価値向上をリードしていただく。

- ・就任日：2023年5月31日
- ・任期：2024年9月開催予定の定時社員総会の終結の時まで
〔業務担当領域〕

高田春奈 チェア：経営戦略、マネジメント担当

松岡けい 理事：広報、マーケティング担当

小林美由紀 理事：理念推進、フットボール担当

【報告事項】

●#Shebelongs Refugee チーム来日

アメリカ・ユタ州の難民少女チームが、アメリカのサッカー少女たち（16～18歳）とチームを組んで、FIFA 女子ワールドカップ2023の観戦に行く前に、7月11日～23日の日程で来日する。WEリーグは、この活動を後援し、7月13日に開催されるフレンドリーマッチにおいて全面的に協力する。



日本フットボールリーグ (JFL) 便り



頂戦—すべては勝利のために—

FCマルヤス岡崎 運営委員・広報担当 濱田知佐

<http://fc-maruyasu.jp/>

FCマルヤス岡崎(マルヤス工業株式会社フットボールクラブ)は、1968年にマルヤス工業サッカー部として創部しました。1975年には愛知県サッカーリーグで優勝し、翌年から東海社会人サッカーリーグに戦いの場を移しました。2003年には愛知県サッカー選手権大会で優勝し、初の天皇杯出場を決めました。その後、2013年に東海社会人サッカーリーグを制覇すると、2014年のJ3新設に伴いJFLに入会し、チーム名を「FCマルヤス岡崎」としました。

JFL9年目となる昨シーズンは、自分たちの限界を超え、勝利のために全力を尽くし、チーム一丸となって1年間戦い抜くことを目標に、「超越—すべては勝利のために—」のスローガンの下、チーム一丸となり、2022シーズンに臨みました。新加入選手を中心に得点を重ね、開幕6連勝とスタートダッシュに成功しましたが、シーズン中盤では無得点の試合や失点が多く、勝ち点を積み上げることができない苦しい試合が続きました。しかし、シーズン終盤には複数得点を挙げる試合や追加点を奪える試合が増え、チーム過去最高順位である5位で2022シーズンを終えました。

今シーズンはJFL10年目となる節目の年。見ている人を魅了するサッカーを届けるべく、貪欲にゴールを狙い、勝利のために全力で走る攻撃的なサッカーが期待されます。一方、守備面では昨シーズンの課題であった失点数を減らすため、GK、DFの守備陣だけで守備を行う

のではなく、選手全員で守備を行う意識を強め、リーグ最少失点を目指していきます。新たに加わった11人の選手はもちろん、昨シーズンも多く活躍を見せた選手たちのさらなる活躍に期待を寄せています。

今シーズンのチームスローガンは「頂戦—すべては勝利のために—」。チーム全員が頂点(優勝)を目指し、常に上位に食い込んでいくサッカーを展開するため、チーム一丸となって一戦一戦全力で戦い抜きます。

チームコンセプトである「岡崎市の名を全国に」「サッカーで会社を元気に」を合言葉に、サッカーを通じて、地域の方との交流や、地域貢献、社会貢献のための活動を積極的に行い、地域に根差し、信頼され応援していただけるチームを目指します。



頂点を目指し、チーム一丸となって全力で戦い抜く

日本フットボールリーグ (JFL) 便り



高知にJリーグを!!

高知ユナイテッドSC 取締役 宮地貴嗣

<http://kochi-usc.jp/>

高知ユナイテッドSC(スポーツクラブ)は高知農業高校OBクラブを起源とし、「南国高知FC」から名称変更した「アイゴッソ高知」と1998年創設の「高知ウルスターFC」の2チームが、高知県に日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)加盟クラブを誕生させることを目的として統合し、2016年2月1日に発足しました。2019年には全国地域サッカーチャンピオンズリーグで準優勝し、JFL昇格を果たしました。

2020年は14位、2021年は13位、2022年は11位と順位を上げました。また、天皇杯では2回戦で京都サンガFCと対戦し、延長戦までもつれ込む戦いをしました。

2022年9月にはJ3クラブライセンスの交付をいただきました。昇格要件を一つずつクリアしていきながら、平均入場者数2,000人以上、昇格可能な順位への到達を目指しています。

JFL4年目となる今年は、引き続きチームコンセプトである「攻守にアグレッシブなサッカー」を追求していきます。Jリーグ経験者やフレッシュな選手が数多く加入しており、これまで以上に質の高いプロの技術を高知県の子どもたちに見せています。

高知の子どもたちに夢を持ってもらうため、また、高知の皆さまに、もっと高知愛を感じてもらうため、「夢」や「希望」や「感動」を届けることはもちろん、全国の皆さまにもお届けできるような、心が熱くなる試合を披露します。

われわれの背中スポンサーは「高知家(こうちけ)」です。これは、高知県のプロモーション「高知はひとつの大家族やき」によるものですが、高知ユナイテッドSCは、まさに高知県民のクラブです。全国の皆さまに「高知」を発信できるよう、サッカーだけでなく、高知のプロモーションも積極的に行い、地域の活性化に努め、地域の皆さまに愛されるクラブを目指します。スポーツを通じて、高知の皆さまを元気に! 高知の子どもたちに夢を! 果敢に挑む姿を披露し、大好きな高知のために、地域活動にも積極的に参加して活動していきます。

今年のNHK朝の連続テレビ小説「らんまん」は高知出身の牧野富太郎が主人公です。全国の皆さま、高知の応援をよろしく願いいたします。そして、ぜひ高知へお越しください!



サッカーと地域活動を通して大好きな高知を全国に発信していく



専用グラウンドを、女子サッカーの拠点に

朝日インテック・ラブブリッジ名古屋 広報 岩田菜摘

<http://loveledge.jp/>

朝日インテック・ラブブリッジ名古屋のクラブフィロソフィーは「KEEP ON GROWING」です。今シーズンは、名古屋グランパスでFWとして活躍した、元日本代表の森山泰行が監督に就任しました。試合終盤に出場して、短い時間で結果を出す「スーパーサブ」として活躍した姿を記憶されている方も多いでしょう。森山監督は選手の主体性を大切に、選手間でのコミュニケーションを求め、選手との関係でも対話を重視しています。試合中も選手は積極的にコミュニケーションを取り合い、ピッチ内で主体的に改善を図るようになり、個人およびチームとしての成長を実感しています。

弊クラブは、2022シーズンより、朝日インテック株式会社とネーミングライツパートナー契約(3年間)を締結しました。朝日インテック社によるご支援の下、同社本店所在地である愛知県瀬戸市に、弊クラブの専用練習グラウンド(人工芝)を整備する運びとなりました(2024年完成予定)。更衣室、シャワールームも完備される予定です。

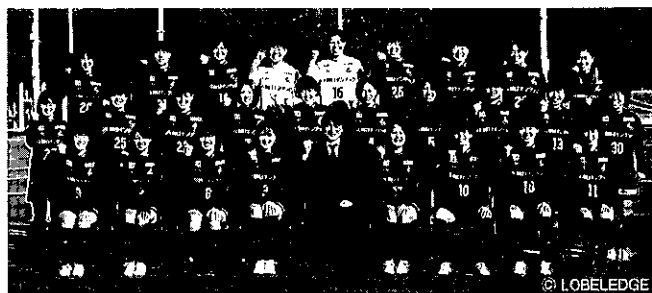
愛知県内には、競技人口に比してサッカーグラウンドが少なく、ピッチはあっても更衣室、シャワールーム、清潔なトイレがない会場が多く、女子選手が着替えやトイレに困ることが多いのが現状です。女子選手に少しでも良い環境を提供すべく、ピッチ周りにもこだわります。それが、女子サッカーの普及にもつながるはずです。このグラ

ウンドを、愛知県内の女子サッカーの拠点にしたいと考えています。

私たちの活動理念は、愛知県内の女子サッカー界の発展、女性アスリートの環境改善、地位向上です。専用グラウンドの整備は、その理念の実現に向けた大きな一歩となるはずです。

また、私たちは理念の実現とともに、社会的課題にも取り組みます。リーグ戦開幕前には、朝日インテック社と共に、ホームゲーム会場であるCSアセット港サッカー場周辺の清掃活動を行いました。地域貢献活動、SDGsにも継続して取り組む所存です。選手だけでなくクラブ全体としても、日々成長を遂げていきたいと考えています。

今後もこの地域に愛され、応援され、そして目標とされる存在となるべく、挑戦を続けていきます。



地域に密着し、地域の抱える問題に積極的に取り組み、地域に愛され、応援されるクラブを目指す



子どもたちを笑顔に、地域と共に夢と感動を

ヴィアティン三重レディース 事業部長 近藤大介

<https://veertien.jp/lfc/>

ヴィアティン三重レディースは、クラブが設立した2012年に発足しました。クラブは三重県北勢地域を拠点に「子どもたちを笑顔に、地域と共に夢と感動を」という理念の下、チーム独自の「輝く女性のシンボルとなる」というミッションを掲げて活動しています。

昨シーズンはチーム史上初めての全国リーグ「なでしこリーグ2部」に参入させていただきました。結果は最終節まで残留争いをするほど苦戦しましたが、あらゆる面でもさまざまな変化を感じ、変革を起こした一年でした。また、選手たちは東海リーグからなでしこリーグに上がり、気合い十分で臨みましたが、遠征や試合数増加などの環境の変化への戸惑いや力の差をあらためて感じました。しかしながら、徐々にではありますがサポーターやパートナー企業、選手の雇用先などの応援もあり、試合の日に選手の旗が数多く並び光景は選手にも希望を与えています。観客動員という点においては思うような結果を出せず、経験値の少なさを感じました。

女子サッカーの試合は見に来ていただければ、また見たくなる、応援したくなる魅力があります。それを一人でも多く地域の皆さまへ広げていけるようにしたいと考えています。女性起業家の集まるSDGsにも関連したイベント参加や地域での社会活動に力を入れ、選手と共に盛り上げていきます。

また、トップチーム強化だけでなく、アカデミーの育成にも力を注

ぎたいと考えています。子どもの頃はサッカーをしても、大人になっていくにつれ、サッカーをする場所や環境が少なくなり、サッカーから離れていく子どもたちが多いです。その受け皿になれるよう、さらには女子サッカー選手に憧れ、サッカーをしたいと思う子どもたちが、その道を諦めなくて済むような環境をつくり、整えていきたいと思えます。

2023年は女子ワールドカップの年です。今シーズン新たに貞清健一監督を迎えた新生ヴィアティン三重レディースとしてなでしこリーグの台風の目になれるよう、そして女子サッカーが盛り上がる一年にしていきます。



ヴィアティン三重レディース、2023シーズン新体制での集合写真



日本フットサル連盟便り



O-PAと立命館大学AII.1がFリーグオーシャンカップ2023に出場

一般財団法人日本フットサル連盟 今井千秋

<http://www.jff-futsal.or.jp/>

5月15日から開催されたFリーグオーシャンカップ2023に第23回F地域チャンピオンズリーグを優勝したO-PA(関東フットサルリーグ1部所属)とLUXPERIOR CUP 地域大学フットサルチャンピオンズリーグ2022-2023を優勝した立命館大学AII.1(関西学生フットサルリーグ1部所属)が初出場しました。

翌16日、先に初戦を迎えた立命館大学AII.1は、マルバ水戸FC(Fリーグディビジョン2所属)と対戦しました。開始5分、先制点を決めたのは皆尾文也選手。その後1点を返されますが20秒後に再び皆尾選手が2点目を決めます。ところが、15分から立て続けに3失点し2-4とされ、第2ピリオドも勢いそのまま2-5に。しかし29分に山岡眞之介選手、30分と32分に安田健人選手、33分に行成海人選手が追加点を決めて6-5と逆転します。その後、意地を見せたマルバ水戸FCが36分、38分と加点し6-7で試合は終了しました。立命館大の選手たちは試合後のインタビューで「点差を見ると惜しかった試合なので悔しかった」「普段得点を取ることがないタイプだけどチームに貢献できてうれしかった」「インカレの滋賀県予選に向けて頑張りたい」などと話してくれました。

同日夕方に試合を迎えたO-PAはペスカドーラ町田(Fリーグディビジョン1)と対戦しました。開始4分にO-PAの奥橋伸也選手が先制点を決めたものの、5分に失点して第1ピリオドを1-1で折り返します。

25分、26分と立て続けに失点し1-3と突き放されますが、31分に黒谷一成選手のゴールで2-3とします。終盤パワープレーで攻撃を続けるも39分に失点。2-4で試合が終了しました。O-PAの選手たちは「平日にもかかわらず多くの方々が試合を観に来てくれてありがたかった」「良い試合ができていた悔しかったけど差は大きかった」と話していました。

両チームは大変苦しい時期を乗り越えて本連盟の大会を初出場にして初優勝したチームです。その底力や根性を見ることができた大会でした。今後は所属リーグでそれぞれ活動していきますが、これからも両チームを応援しますし、このFリーグオーシャンカップ2023を機に少しでも多くの方に大学フットサルリーグや地域フットサルリーグにも足を運んでいただき、応援をしてほしいと心から思いました。私自身も取材でチームを学ぶことができ、良い機会になりました。これからもチームを知り、声を届けていくことを続けていきます。



O-PA(関東フットサルリーグ1部所属)

立命館大学AII.1(関西学生フットサルリーグ1部所属)

日本ビーチサッカー連盟便り



フットボールというスポーツを通じて

大鎮キムラ建設BYII チーム代表者兼監督 戸澤卓也

<http://jbsf.or.jp/>

北海道苫小牧市を拠点に活動している社会人フットサルチーム「大鎮キムラ建設BYII」です。チーム創立は2010年、地元中学校の同級生の集まりから発足しました。

その後、卒業とともに高校から社会人までに関わったフットボール仲間がメンバーに加わり、現在のチームへと成長しました。20歳から38歳までと幅広い年齢層で構成された社会人フットサルチームになります。

近年はコロナ禍もあり、思うように練習や試合がこなせず、2019年から2020年の空白の2年間はチームに大きな影響を与えました。サッカー人生に別れを告げ、チームを離れた選手がいる一方で、新たに加入してくれた選手もいます。年齢が一回り、二回りも違う選手がチームに加入してくれることは非常にうれしい限りで、フットボールというスポーツの「ありがたみ」を肌を感じながら日々を過ごしています。

現在は苫小牧だけでなく札幌に拠点を広げ、昨年度から札幌フットサル連盟主催のリーグ戦に参加しています。また、5年前に初めてビーチサッカーに出会い、一昨年、昨年と北海道大会を勝ち抜き、全国大会への舞台に立つことができました。全国大会では、普段はテレビやYouTubeで見るビーチサッカー日本代表の選手の方々と対戦することができ、北海道予選では実際に指導していた

たくさんできました。

まだ、北海道ではビーチサッカーというスポーツがメジャーではありません。ビーチサッカーというスポーツの面白さを伝えていきたいと強く思っています。ビーチサッカーの大会前は、地元漁港の砂浜で練習をしています。この広い北海道の地でビーチサッカー専用のコートができる日を夢見ながら…。

最後になりますが、チームがここまで活動できているのも、日頃から支援して下さるスポンサー企業の皆さまのおかげであり、「大鎮キムラ建設」さまをはじめ、「HAIR SPACE chouchou」さま、「さくら整体院」さま、「ジンギスカン酒場こっぼ」さま、「ソレイユの家」さま、「Car Life Bonds」さま、「福興産業(株)」さま、「(株)久慈重機」さま、「(株)金谷造園」さま、「プロショップ スポテック」さまに感謝申し上げます。フットボールは勝敗だけでなく、人と人をつなげる最高のスポーツだと思います。



2021年の全道ビーチサッカー大会では優勝を飾り、初の全国大会「JFA 全日本ビーチサッカー大会」に出場した

日本障がい者サッカー連盟便り



eラーニング研修「サッカーを通じた障害理解」、2022年度は608人が受講

日本障がい者サッカー連盟 事務総長 山本康太

<https://www.jiff.football/>

日本障がい者サッカー連盟（JIFF）では、理念で掲げる共生社会の創造のためには、障がいのある当事者向けの活動のみならず、社会のマジョリティーである健常者向けの活動が不可欠であると考えています。そのため、小・中学校向けの体験型授業のほか、障がい者サッカーの7競技団体と連携し、サッカーで培われる強みを生かした障害理解や多様性への気づきを促す体験型の研修などを企業向けに実施してきました。そして、昨今のオンラインによる研修のニーズに応え、2022年4月には、公益財団法人日本ケアフィット共育機構監修の下でeラーニング研修「サッカーを通じた障害理解（全70分）」を開発しました。

このeラーニング研修プログラムは、障害の社会モデルや障害者差別解消法などの基礎知識、身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚障害）、知的障害、精神障害それぞれの特性と接遇について学ぶものです。選手との対話や取り組み事例を交えて分かりやすく伝え、受講者の行動変容を促すことを目指しています。

2022年度（eラーニング研修提供開始初年度）は、パートナー企業およびJIFF登録指導者の合計で608人が受講しました。受講した企業内アンケートによる満足度は92%で、「コミュニケーションのやり方を工夫すれば互いを理解でき、尊敬し合うことができる」「障害のある方に限らず、日頃から思っていることや困っていること

をコミュニケーションを通して相互理解していく」といった声をいただきました。2023年度は、一般向けにも提供していく予定です。

JIFFでは、今後も7つの障がい者サッカー競技団体による競技活動のサポートをはじめとして、共生社会の実現に向けて、障がい者サッカーを社内外のダイバーシティ&インクルージョンの推進や人材育成、地域社会への貢献などで活用いただけるよう推し進めています。



2022年度からはeラーニング研修プログラム「サッカーを通じた障害理解」の提供を開始

日本クラブユースサッカー連盟便り



女子サッカーの普及と発展のために

一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟 女子委員長 根岸誠一

<https://www.jcy.jp/>

日本クラブユースサッカー連盟（JCY）は、2017年に女子U-18年代の活性化およびクラブの普及のため、9地域から女子委員を募りJCY女子委員会を設立しました。2018年のプレ大会を経て、2019年にはスポーツアパレルメーカーの（株）アイズ・カンパニーさまを冠スポンサーに「XF CUP 2019第1回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）」を開催。クラブユース女子U-18の新たな一歩を踏み出しました。この大会には、小林美由紀（女子副委員長）の尽力もあり、アメリカのSan Jose Earthquakesを招待しました。全国から集まった15チームと熱戦が繰り広げられると同時に、国際交流の場となる良い大会になりました。

2020年はコロナ禍で夏の大会は中止となりましたが、冬に延期し、「JFA第23回全日本U-18女子サッカー選手権大会JOCジュニアオリンピックカップ」に出場できなかった9地域の代表チームによる「XF CUP 2020第1回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）」を開催。あと一歩のところまで全国大会に出場できなかったチームが熱戦を繰り広げてくれました。出場チームから「この大会を継続してほしい」という声を多くいただき、翌年から夏は「日本クラブユース女子サッカー大会」、冬は「日本クラブユース女子サッカーチャレンジカップ」を開催し、昨年は、杉澤緑地さまに冠スポンサーとなつていただき「タホマ31第2回日本クラブユース女子サッカーチャレンジカップ（U-18）2022」を開催しました。JCYではより多くのU-18年代の女子選手に全国大会を経験できる機会を設けています。

JCYでは、特に夏場の試合環境の整備、暑熱対策のため、これまで1会場で1

日2試合行っていましたが、前橋市の多大なるご協力の下、8会場ご用意いただき、2021年大会より8時45分キックオフで1会場1試合とし、夏の大会開催のモデルになっています。また、限られた予算の中で継続的に大会を開催していくため、会場設営（テント・ゴール等）や担架要員を当該チームに協力いただくと同時に、女子チーム・選手のために開催地の皆さまに運営を支えていただき、毎年、大会が開催できています。

JCY女子委員会を設立以降、女子の環境整備、大会開催は順調に進歩しているように映りますが、女子U-18のJCY加盟登録クラブ数は2022年度時点で50チームにとどまっています。JCYとしては、女子も男子と同様にU-15・U-18のチーム登録ができないのか、U-14・U-13・U-12など各年代に向けて何かできないのかなど、女子サッカーの普及と発展のため協議を重ねています。

最後に、大会開催地の群馬県前橋市の皆さま、大会をサポートしていただいている群馬県クラブユース連盟の皆さまに心より感謝申し上げます。



2023年1月に開催された「タホマ31第2回日本クラブユース女子サッカーチャレンジカップ（U-18）2022」

会議レポート

05/10

（注）本記事は2023年5月18日現在のもので、今後の状況により変更される可能性があります。



公益財団法人日本サッカー協会 2023年度第5回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会（JFA）は2023年5月18日、2023年度第5回理事会をJFAハウスおよびオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1 組織改革検討タスクフォース（仮称）の設置 …………… P36 | 3 JFAアジア貢献事業 指導者海外派遣（新規） …………… P36 |
| 2 競技会規則の改正 …………… P36 | 4 暴力・暴言・ハラスメント・差別等の根絶に向けたロードマップ …… P36 |

組織改革検討タスクフォース（仮称）の設置

適切な組織運営を確保するための役員等の体制整備、JFAとしてのスポーツ団体ガバナンスコードへの対応方針と実行計画のため、タスクフォースを設置する。

【構成】

- | | |
|------|------------------------------|
| 田嶋幸三 | ：日本サッカー協会 会長 |
| 森岡裕策 | ：日本スポーツ協会 専務理事 |
| 水谷尚人 | ：日本プロサッカーリーグ カテゴリーダイレクター |
| 柏悦郎 | ：日本サッカー協会 評議員、埼玉県サッカー協会 専務理事 |

- | | |
|-------|---|
| 宗政潤一郎 | ：日本サッカー協会 常務理事、中国サッカー協会 専務理事、広島県サッカー協会 副会長兼専務理事 |
| 山口香 | ：日本サッカー協会 理事・コンプライアンス委員会委員長、報酬委員会委員長 |
| 西本強 | ：日本サッカー協会 監事 |

【期間】

2023年5月～2023年9月を予定

競技会規則の改正

試合の勝敗に重大な影響を及ぼす競技規則の適用ミス（*）により、再試合（再開試合）およびPK方式のやり直しを実施した事例が天皇杯・Jリーグのみならず、アマチュアレベルでも確認されている（*主審が競技規則に基づいていない対応をしてしまった状態）。

適用ミスが発生した試合の対応方法については、競技規則や懲罰規程等に定められていないことから、アマチュアレベルの試合においても再試合（再開試合）等の対応を行ったケースがある。しかしながら発生した全ての試合で上記の対応を

行うことは、大会運営上、また、試合に関わる審判員を含むさまざまな観点からも現実的でないと考える。

従って、競技会規則を改正し、第27条に新たに「競技規則の適用誤り」を追加することで、別途、大会要項等で定めない限り、競技規則の適用ミスが確認された場合でも当該適用の結果は有効なものとし、当該試合結果には影響を与えないものとするよう変更する。

※詳細はJFA公式ウェブサイト参照

JFAアジア貢献事業 指導者海外派遣（新規）

ベトナムサッカー連盟よりテクニカルダイレクター派遣の依頼を受け、JFAアジア貢献事業の一環として、新たに下記の指導者を派遣する。

名前 越田剛史（こしだ たけし）

- | | |
|-------|----------------------|
| 資格 | ： JFA S級コーチライセンス |
| 派遣先協会 | ： ベトナムサッカー連盟（VFF） |
| 役職 | ： テクニカルダイレクター |
| 契約期間 | ： 2023年5月～2024年1月31日 |

暴力・暴言・ハラスメント・差別等の根絶に向けたロードマップ

選手や子どもたちがサッカーなど、スポーツを安心、安全に楽しむ権利とその環境を守るため、特に、暴力・暴言・ハラスメント・差別等の根絶に向けて、JFAが今後取り組むべき施策をまとめたロードマップを策定する。

※詳細はJFA公式ウェブサイト参照



【基本方針】

暴力・暴言・ハラスメント・差別等の根絶に向けた取り組みを強化するため、これまでの、主に指導者を対象とした教育・啓発の活動に加え、選手、保護者、審判、チーム関係者、ファン・サポーターを含めたサッカー界全体での取り組みとしてその根絶に取り組む。

【施策の全体像】

- | | |
|-------|--|
| 施策区分① | 啓発・教育の徹底（指導者） |
| 施策区分② | 周囲の牽制機能の強化（選手・保護者・審判・チーム関係者・ファン・サポーター） |
| 施策区分③ | クラブによるけん制（クラブ） |
| 施策区分④ | より厳正な対処（協会・連盟） |

報告事項

1 第11回EAFF総会(4月18日開催).....	P37	9 JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー認定.....	P39
2 第69回EAFF理事会(4月18日開催).....	P37	10 指導者ライセンス認定.....	P39
3 第1回AFC理事会(5月10日開催).....	P37	11 審判員・審判指導者の海外派遣.....	P40
4 2023/24サッカー競技規則改正.....	P37	12 JFAシニアサッカーフェスティバル in 広島「第2回全国高校サッカーOB交流会(8人制)」開催.....	P40
5 JFA・Jリーグ特別指定選手制度.....	P37	13 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新).....	P40
6 公認指導者研修会[サッカー4種指導者向け フットサル研修].....	P38	14 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(新規).....	P40
7 公認指導者研修会[障がい者サッカーコース].....	P38	15 裁定委員会に関する懲罰.....	P40
8 小学校体育サポート研修会.....	P39		

第11回EAFF総会(4月18日開催)

第11回EAFF総会が2023年4月18日にオンラインで行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1)第10回EAFF総会(2022年4月1日/カタール・ドーハで開催)議事録を承認
- (2)2022年EAFF活動報告を承認
- (3)2022年財務報告および2022年監査報告書を承認
- (4)2023年予算を承認
- (5)EAFF規約修正案およびEAFF選挙管理規程修正案の承認
- (6)EAFF理事会の推薦に基づき、以下の独立委員会委員を選出
 - ①EAFF規律および倫理委員会
委員長 : Mr. CHAN Hiu Feng (香港)
副委員長 : Mr. CHEN Cong (中国)

委員 : 播磨謙悟(日本)、Mr. Danilo M. RAPADAS(グアム)、
Mr. HONG Chan Gi(韓国)

②EAFF不服申立委員会

委員長 : Mr. Steve P. PIXLEY(北マリアナ諸島)
副委員長 : Mr. LEONG Chi Wai(マカオ)
委員 : Mr. BATZAYA Ganbat(モンゴル)

③EAFF選挙管理委員会

委員長 : Mr. CHAN Hiu Feng
副委員長 : Mr. Danilo M. RAPADAS
委員 : Mr. BATZAYA Ganbat, Mr. CHEN Cong, Mr. HONG Chan Gi

※()内は所属加盟協会

第69回EAFF理事会(4月18日開催)

第69回EAFF理事会が2023年4月18日にオンラインで行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1)EAFF規約(2022年版)第31.13条に則り、EAFF会長代行にEAFF田嶋幸三会長を任命

- (2)第68回EAFF理事会(2022年11月11日/北マリアナ諸島・サイパンで開催)議事録を承認
- (3)第19回EAFF競技会委員会の報告
- (4)第3回EAFFタスクフォース会議の報告
- (5)第11回EAFF法務委員会の報告

第1回AFC理事会(5月10日開催)

第1回AFC理事会が2023年5月10日にカタール・ドーハで行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1)AFC臨時総会2023開催案(2023年10月18日/オンライン開催)を承認
- (2)AFC司法機関候補者リストを決定し、AFC規律および倫理委員会、AFC不服

- 申立委員会、AFCエントリーコントロールボディの各委員について次回臨時総会で選挙を行うことを決定
- (3)AFCアニュアルアワードを2023年10月31日にカタール・ドーハで行うことを決定

2023/24サッカー競技規則改正

2023/24のサッカー競技規則を改正する。
※詳細はJFA公式サイト参照



JFA・Jリーグ特別指定選手制度

- (1)選手 : 木戸柊摩(きど しゅうま)
所属チーム : 大阪体育大学サッカー部
受け入れ先 : 北海道コンサドーレ札幌
所属歴 : CASCABEL SAPPORO U-12
コンサドーレ札幌U-15
北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道コンサドーレ札幌U-18
大阪体育大学学生会サッカー部
認定日 : 2023年3月28日

受け入れ先 : アビスパ福岡
所属歴 : 大分中学校
大分高校サッカー部
福岡大学サッカー部
認定日 : 2023年3月28日

- (2)選手 : 重見柊斗(しげみ まさと)
所属チーム : 福岡大学サッカー部

- (3)選手 : 相馬丞(そうま じょう)
所属チーム : 仙台大学サッカー部
受け入れ先 : モンテディオ山形
所属歴 : S・F・C ジェラーレ
モンテディオ山形ジュニアユース村山
モンテディオ山形ユース

次ページ左上へ続く

仙台大学サッカー部
 認定日 : 2023年4月4日

(4)選手 : 関口凱心(せきぐち かいしん)
 所属チーム : 山梨学院大学サッカー部
 受け入れ先 : 大宮アルディージャ
 所属歴 : 柳崎サッカークラブジュニア
 大宮アルディージャジュニアユース
 私立西武台高校
 山梨学院大学サッカー部
 山梨学院大学サッカー部ブレイブス
 山梨学院大学サッカー部ギャラクシース
 山梨学院大学サッカー部
 認定日 : 2023年4月4日

(5)選手 : 高木 謙(たかぎ せん)
 所属チーム : 阪南大学サッカー部
 受け入れ先 : 清水エスパルス
 所属歴 : FCおきつ
 SC大阪エルマーノサッカークラブ
 阪南大学高校サッカー部
 阪南大学サッカー部
 認定日 : 2023年4月4日

(6)選手 : 長澤シヴァタフアリ(ながさわ しばたふあり)
 所属チーム : 関東学院大学体育部連合会サッカー部
 受け入れ先 : サガン鳥栖
 所属歴 : 横河武蔵野フットボールクラブジュニア
 横河武蔵野フットボールクラブジュニアユース
 東京武蔵野シティフットボールクラブU-15
 東京武蔵野シティフットボールクラブU-18
 関東学院大学体育部連合会サッカー部
 認定日 : 2023年4月4日

(7)選手 : 前田翔菜(まえだ しょうま)
 所属チーム : 常葉大学サッカー部
 受け入れ先 : 藤枝MYFC
 所属歴 : 西益津サッカースポーツ少年団
 NPO藤枝東FCジュニアユース
 静岡市立清水桜が丘高校サッカー部

常葉大学サッカー部
 認定日 : 2023年4月4日

(8)選手 : 梅木 怜(うめき れい)
 所属チーム : 帝京高校
 受け入れ先 : FC今治
 所属歴 : ミラグロツク海南ジュニア
 NPO法人ミラグロツクカインانسスポーツクラブ
 帝京高校
 認定日 : 2023年4月11日

(9)選手 : 横山夢樹(よこやま ゆめき)
 所属チーム : 帝京高校
 受け入れ先 : FC今治
 所属歴 : FCトッカーノ
 FCトッカーノU-15
 帝京高校
 認定日 : 2023年4月11日

(10)選手 : 安斎颯馬(あんざい そうま)
 所属チーム : 早稲田大学ア式蹴球部
 受け入れ先 : FC東京
 所属歴 : 東根少年サッカークラブ
 FC BONOS MEGURO
 FC東京U-15深川
 青森山田高校
 早稲田大学ア式蹴球部
 認定日 : 2023年4月11日

(11)選手 : 高崎天史郎(たかさき てんしろう)
 所属チーム : QUON FD
 受け入れ先 : FC町田ゼルビア
 所属歴 : F・C・ルイ・ラモス・ヴェジット
 DREAMFC
 セレッソ大阪U-12
 ガンバ大阪ジュニア
 センアーン神戸ジュニア
 千里丘FC
 QUON FD
 認定日 : 2023年4月18日

公認指導者研修会 [サッカー4種指導者向け フットサル研修]

(1)本協会が推奨する学習指導要領に沿った体育授業サポート研修会を、公認指導者研修会(リフレッシュ研修会)として開催した。

日時 : 2023年2月4日(土) 12:30~17:00
 会場 : 岩手大学 学生センター A棟G1大教室・第1体育館(岩手県盛岡市)
 主管 : 公益社団法人岩手県サッカー協会
 講師 : 鎌田安久
 内容 : 体育での「サッカー」の教授法、基本プログラムとそのポイント
 受講者数 : 41名
 開催レポート : <https://www.jfa.jp/news/00031594/>

(2)フットサルにも取り組んでいる4種チームの指導者を主な対象とした公認指導者研修会(リフレッシュ研修会)を開催した。2023年度からは各FA主管でも開催する。

日時 : 2023年2月6日(月) 18:15~21:30
 場所 : 高円宮記念JFA夢フィールド(千葉県千葉市美浜区)
 講師 : 前川義信(JFAフットサル指導者養成ダイレクター)
 小西鉄平(JFAフットサルテクニカルダイレクター・普及ダイレクター)
 内容 : サッカーとフットサルの親和性と相違
 フットサルからの学びをサッカーに
 受講者数 : 25名
 開催レポート : <https://www.jfa.jp/news/00031571/>

公認指導者研修会 [障がい者サッカーコース]

(1)目的

- 「障がい者サッカー」の指導の基本を理解する。
 =サッカー指導の知識・経験をどのように障がいのある選手に適用できるかを知る。
- 今後の活動において「障がい者サッカー」に関わりを持つ機会とする。
 =サッカー指導の知識や経験、情熱にプラスして、どのようにしたら「障がい者サッカー」に有益かを考える。

(2)開催概要(2023年1~3月開催分として報告)

①日程 : 2023年1月9日(月祝)
 会場 : 静岡産業大学(静岡県磐田市)
 主管 : 一般財団法人静岡県サッカー協会
 受講者数 : 15名
 開催レポート : <https://www.jfa.jp/news/00031481/>

左ページ左上へ続く

②日程 : 2023年2月18日(土)～19日(日)
 会場 : IFAフットボールセンター(茨城県水戸市)
 主管 : 公益財団法人茨城県サッカー協会
 受講者数 : 19名

開催レポート: <https://www.jfa.jp/news/00031626/>

※リフレッシュポイント付与をしない形で以下のJクラブでも開催した。
 2023年1月11日(水) セレソン大阪(受講者:14人)

小学校体育サポート研修会

(1)目的

小学校の体育の授業において、以前は「サッカー」が必修であったが、現在は「ゴール型」(サッカー、バスケットボール、ハンドボール、ラグビー)からの選択制となっている。より多くの学校やクラスでサッカーが授業に採り入れられるよう、新学習指導要領に沿った、JFAが推奨する内容(※)を伝える場として、小学校の教員を対象に「体育授業サポート研修会」を開催している。同研修会は、サッカー未経験の教員でもサッカーや児童とのふれあいを楽しめる授業ができる内容となっている。

2022年度(2022年4月～2023年3月)の開催は計121回、延べ2,351人の教員らが受講した。

※「新・サッカー指導の教科書」

<http://www.toyokan.co.jp/book/27/b454047.html>

(2)開催概要(2023年1～3月開催分として報告)

	日付	都道府県	実施校等	受講人数	備考
95	1月5日	長崎県	壱岐市サッカー協会主催	10	教員集合型
96	1月6日	神奈川県	座間市立栗原小学校	17	
97	1月6日	佐賀県	多久市立東原庫舎西深校	18	
98	1月6日	佐賀県	多久市立東原庫舎中央校	12	
99	1月11日	宮城県	宮城教育大学	39	教員集合型
100	1月11日	東京都	世田谷区立多聞小学校	29	
101	1月12日	千葉県	松戸市立上本郷小学校	23	

	日付	都道府県	実施校等	受講人数	備考
102	1月13日	神奈川県	伊勢原市立比々多小学校	22	
103	1月16日	岡山県	倉敷市立児島小学校	25	
104	1月17日	新潟県	上越教育大学	21	教員集合型
105	1月19日	大阪府	交野市立星田小学校	15	
106	1月20日	大阪府	四條畷市立田原小学校	13	
107	1月20日	佐賀県	鹿島市立明倫小学校	22	
108	1月27日	兵庫県	西宮市立瓦林小学校	27	
109	1月27日	佐賀県	唐津市立名護屋小学校	12	
110	2月3日	神奈川県	茅ヶ崎市立柳島小学校	20	
111	2月4日	福岡県	桂川町立桂川小学校	9	
112	2月10日	神奈川県	伊勢原市立石田小学校	19	
113	2月11日	長崎県	新上五島町立北魚目小学校	17	※114と合同開催
114	2月11日	長崎県	新上五島町立有川小学校	—	※113と合同開催
115	2月13日	北海道	深川市立一巳小学校	12	
116	2月21日	千葉県	富里市教育研究会 体力向上研究部研修会	12	教員集合型
117	2月22日	北海道	小清水町立小清水小学校	25	
118	3月9日	北海道	美唄市立中央小学校	14	
119	3月16日	福岡県	直方市立感田小学校	16	
120	3月20日	北海道	八雲町スポーツ少年団本部主催	21	教員集合型
121	3月22日	佐賀県	多久市立東原庫舎東部校	12	

※番号は2022年4月からの通し番号(実施回数)

※教員集合型:教育委員会等が主催し、複数の小学校の教員を集めて開催する形
 大学では授業の一環とするなど、教員を目指す学生等が受講

JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー認定

下記の団体を「JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー」として新たに認定した。

【JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー】

※【】内は主な活動場所/賛同テーマ・申し込み順

認定日:2023年1月18日

- (1)オール青山スポーツコミュニティ[東京都/引退なし、障がい者サッカー、女子サッカー、施設の確保、社会課題への取り組み]

認定日:2023年2月1日

- (1)くわがたFC[茨城県/補欠ゼロ・女子サッカー]
 (2)一般社団法人グローバルブリッジプラス[東京都/社会課題への取り組み]

認定日:2023年2月15日

- (1)一般社団法人アレスグート[静岡県/引退なし、障がい者サッカー、女子サッカー、社会課題への取り組み]

認定日:2023年3月15日

- (1)一般社団法人アスルクラロススポーツクラブ[静岡県/引退なし、補欠ゼロ、障がい者サッカー、女子サッカー、施設の確保、社会課題への取り組み]

- ・2023年度認定団体数 : 247団体
- ・2022年度からの更新認定団体数: 219団体(237団体中)※更新は7月28日で完了
- ・2023年度の新規認定団体数 : 28団体

テーマ別

- ・引退なし : 149団体
- ・補欠ゼロ : 175団体
- ・障がい者サッカー : 114団体
- ・女子サッカー : 128団体
- ・施設の確保 : 65団体
- ・社会課題への取り組み: 118団体

指導者ライセンス認定

下記の指導者養成講習会を修了し技術委員会が適格と認められた者に対してライセンスを認定した。

【2022年度フットサルA級コーチ養成講習会(9名)】

小倉勇
 梶本翔平
 高橋健介
 村松裕樹

(複数年受講者)

萩窪孝
 狩野新
 庄司紘行
 豊島明
 山田亜希子

審判員・審判指導者の海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
Women's Olympic Football Tournament Paris 2024 Preliminary Competition - AFC -Round1 GroupA	審判員	杉野杏紗、中本早紀	4月5日～11日	タシュケント
Women's Olympic Football Tournament Paris 2024 Preliminary Competition - AFC -Round1 GroupE	審判員	小泉朝香	4月5日～11日	ヒサル／タジキスタン
AFC U17 Women's Asian Cup Indonesia 2024™ Qualifiers Round1, GroupG	審判員	兼松春奈	4月22日～26日	グアム
AFC U17 Women's Asian Cup Indonesia 2024™ Qualifiers Round1, GroupB	審判員	小泉朝香、中本早紀	4月24日～28日	ウランバートル／モンゴル
32nd Southeast Asian Games Cambodia 2023, Football Competition	審判員	飯田淳平、浜本祐介	4月27日～5月17日	プノンペン／カンボジア
AFC Men Football Referees Recruiting 2022 : 3rd Assessment Visit	審判指導者（リクルーター）	石山昇	4月26日～28日	クアラルンプール／マレーシア
AFC U17 Women's Asian Cup Indonesia 2024™ Qualifiers Round1, GroupE	審判指導者（インストラクター）	深野悦子	4月26日～30日	ヒサル／タジキスタン

JFAシニアサッカーフェスティバル in 広島「第2回全国高校サッカーOB交流会（8人制）」開催

名称 : JFAシニアサッカーフェスティバル in 広島
「第2回全国高校サッカーOB交流会（8人制）」

主催 : (公財)日本サッカー協会、(一社)中国サッカー協会

主管 : (公財)広島県サッカー協会

後援 : 広島県、(公財)広島県スポーツ協会、(一社)共同通信社、(一社)日本サッカー名蹴会

協賛 : 未定

協力 : 株式会社モルテン

開催期日 : 2023年5月26日（金）～28日（日）
5月26日（金）懇親会
5月27日（土）フレンドリーマッチ（2試合）
5月28日（日）フレンドリーマッチ（2試合）

会場 : ゼロバランスフィールド（予定）

参加資格 : 1983（昭和58）年4月1日以前生まれ（40歳以上）の選手によって構成された高校サッカーOBチームであること。本大会の開催主旨はシニア世代の普及が目的であるため、申し込み時の2023年度（公財）日本サッカー協会「シニア」種別での加盟登録につ

いては問わない（登録者が試合出場する場合は、最大3名以内とする）。また、他校との合同チーム編成および男女混合チームの参加も可とする。未登録の女性の場合は年齢を問わない。なお、未登録の選手については、今後の加盟登録について積極的に対応することとする。

参加チーム数 : 参加チームは、[0-40（40歳代）8チーム、0-50（50歳代）8チーム、0-60（60歳以上）8チーム]24チームとする。ただし、参加チーム数が満たない場合は、開催県で補充する場合がある。また、参加希望数がそれぞれの年代枠を超える場合は、(一社)中国サッカー協会で抽選を行い決定する。

競技方法 : (1) 試合形式はリーグ戦を原則とするが、参加チーム数が確定後に決定し連絡する。
(2) 試合時間は20分（10分－5分－10分）とし、ハーフタイムのインターバル（前半終了から後半開始まで5分間）とする。
(3) 試合球は原則として軽量球5号（約400g）を使用する。
(4) 各カテゴリーの優勝チームは表彰する。

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認（更新）

申請者（施設所有者）：出雲市
施設名 : 出雲運動公園多目的運動場（島根県出雲市矢野町999番地）
使用製品 : コウフ・フィールド株式会社 Desso iDNA X 60-16
公認期間 : 2023年6月12日～2025年6月11日
公認番号 : 第196号

<特記事項>
・使用製品は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく製品検査（ラボテスト）を完了している。
・当該施設は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく現地検査（フィールドテスト）を実施し、基準を満たしている。

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認（新規）

(1) 申請者（施設所有者）：有田市
施設名 : 有田市健康スポーツ公園 BIG SMILE PARK 多目的グラウンド（愛称 えみくるフィールド）（和歌山県有田市初島町浜1665番地）
使用製品 : 美津濃株式会社 MS Craft AG Be
公認期間 : 2023年5月18日～2026年5月17日
公認番号 : 第268号

(2) 申請者（施設所有者）：府中市
施設名 : 府中市上下運動公園（広島県府中市上下町上下2400番地1）
使用製品 : MCCスポーツ株式会社 アストロピッチDS E-50 XC N01
公認期間 : 2023年5月18日～2026年5月17日
公認番号 : 第269号

(3) 申請者（施設所有者）：新富町
施設名 : 新富町フットボールセンター 西グラウンド（宮崎県児湯郡新富町大字三納代1750番地）
使用製品 : 積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2055RS+U-18PSD75-E (Be)
公認期間 : 2023年5月18日～2026年5月17日
公認番号 : 第270号

<特記事項>
・使用製品は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく製品検査（ラボテスト）を完了している。
・当該施設は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく現地検査（フィールドテスト）を実施し、基準を満たしている。

裁定委員会に関する懲罰

裁定委員会（委員長：山田秀雄）より報告された懲罰案件について報告する。公表内容は以下の通り。なお、公表期間は原則通り3年とする。

【事案1】

- 当事者
都道府県協会の理事
- 懲罰の種類

- 無期限の公的職務の禁止
- 懲罰の決定日
2023年4月25日
- 懲罰の理由
懲罰規程34条第1項（8）
- 事案の概要
領収書の偽造等による当該都道府県協会の財産の横領

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていききっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

🏆 日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトスタンドクラッチで体を支えながらプレーします。

🏆 日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

🏆 日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

🏆 日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

🏆 日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

🏆 日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

🏆 日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



パートナー

住友ベークライト



東京海上日動

支援団体



日本サッカー後援会

Bewith
CUSTOMER INSIGHT ORIENTED

MSOL

三菱商事

第1戦

U-19日本女子代表 3 (前半1-0 後半2-0) 0 U-19カメルーン女子代表

●2023年5月16日 18:00 ●Parc Des Sports ●試合時間:90分

日本(監督:狩野倫久):[GK](21)鹿島彩莉 [DF](2)柏村菜那(16)中谷莉奈(17)古賀塔子(22)白垣うの<→77'(6)白沢百合恵> [MF](5)林愛花<→65'(9)氏原里穂菜>(8)角田楓佳(13)猪瀬結子<→45'(15)栗本悠加>(14)谷川萌々子(24)樋渡百花 [FW](4)根府桃子<→65'(12)笹井一愛>

得点 39' 谷川萌々子(1-0)、55' 樋渡百花(2-0)、64' 栗本悠加(3-0)

警告 21' 白垣うの

第2戦

U-19日本女子代表 4 (前半3-0 後半1-0) 0 U-19パナマ女子代表

●2023年5月19日 17:00 ●Parc Des Sports ●試合時間:90分

日本(監督:狩野倫久):[GK](18)岩崎有波 [DF](2)柏村菜那<→45'(16)中谷莉奈>(5)林愛花<→45'(17)古賀塔子>(6)白沢百合恵(13)猪瀬結子 [MF](7)榊原琴乃(9)氏原里穂菜<→64'(8)角田楓佳>(11)大島暖菜(15)栗本悠加<→45'(14)谷川萌々子>(20)小川由姫 [FW](12)笹井一愛<→64'(4)根府桃子>

得点 20' 笹井一愛(1-0)、25' 榊原琴乃(2-0)、37' 氏原里穂菜(3-0)、90+1' 根府桃子(4-0)

警告 79' 谷川萌々子

第3戦

U-19日本女子代表 7 (前半2-0 後半5-0) 0 U-19フランス女子代表

●2023年5月21日 18:00 ●Parc Des Sports ●試合時間:90分

日本(監督:狩野倫久):[GK](1)大熊茜 [DF](2)柏村菜那<→70'(13)猪瀬結子>(6)白沢百合恵<→45'(9)氏原里穂菜>(16)中谷莉奈(17)古賀塔子(22)白垣うの [MF](8)角田楓佳<→45'(5)林愛花>(12)笹井一愛<→57'(20)小川由姫>(14)谷川萌々子(24)樋渡百花<→45'(4)根府桃子> [FW](15)栗本悠加

得点 6'、86' 谷川萌々子(1-0)(6-0)、22' 笹井一愛(2-0)、56' 栗本悠加(3-0)、60'、82' 氏原里穂菜(4-0)(5-0)、87' 小川由姫(7-0)

フットサル日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

<スタッフ>

○監督:須賀雄大(NCS) ○コーチ:加藤正美(JFAフットサルインストラクター/バルドラル浦安ラス・ボニータス) ○GKコーチ:三浦拓(JFAフットサルGKプロジェクト/北海道文教大附属高校) ○フィジカルコーチ:内部亮(JFAフットサルフィジカルプロジェクト/アールズベイ)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	見矢明日香	SWHLレディース西宮	FP	鈴木心菜	神奈川大学
	中田風咲	SWHLレディース西宮		高木紀花	バルドラル浦安ラス・ボニータス
	福田みのり	大商学園高校		合田ゆい	バディフットサルクラブフィオーレ
FP	岩崎裕加	フウガドールすみだレディース	田中咲波	ボセアマドールレディース	
	高尾純奈	福井丸岡ラック	長谷川詩花	さいたまサイコロ	
	玉川華帆	フウガドールすみだレディース	枝廣史音	広島文教大附属高校	
	中島菜月	アルコ神戸	永松美祐	十文字高校	
	櫻田真衣	アルコ神戸	横川四葉	福井丸岡ラックサテライト	
	矢津田明莉	エスポラーダ北海道イルネーヴェ	小林愛心	福井丸岡ラックサテライト	
	金井里和	エスポラーダ北海道イルネーヴェ			

<スケジュール>

5月1~2日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
3日 練習試合 vs バルドラル浦安ラス・ボニータス(高円宮記念JFA夢フィールド)

U-19フットサル日本選抜 Fリーグオーシャンカップ2023

※57ページに関連記事あり

<スタッフ>

○団長:前川義信(JFAフットサル育成ダイレクター) ○監督:木暮賢一郎(NCS) ○コーチ:高橋健介(NCS) ○GKコーチ:内山慶太郎(NCS) ○アシスタントコーチ:鈴木拓也(JFAフットサルインストラクター/神戸ハーバーフットボールクラブ)、阿久津貴志(JFAフットサルGKプロジェクト/湘南ベルマーレ) ○フィジカルコーチ:内部亮(JFAフットサルフィジカルフィットネスプロジェクト/アールズベイ)、佐藤亮(JFAフットサルフィジカルフィットネスプロジェクト/大阪成蹊大学) ○テクニカルスタッフ:林誠晃(東京国際大学)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	物部呂敏	名古屋オーシャンズサテライト	FP	ALA 春日陵河	フウガドールすみだファルコンズ
	入江悠斗	フウガドールすみだファルコンズ		PIVO 浅野岬	聖和学園高校
FP	ALA FIXO 山下敦史	名古屋オーシャンズサテライト	ALA 片山聖	湘南ベルマーレフットサルクラブロンドリーナU-18	
	ALA 鎌野憲佑	湘南ベルマーレフットサルクラブロンドリーナ	PIVO 祖父江隆ノ介	ベスカドーラ町田U-18	
	FIXO 伊集龍二	名古屋オーシャンズサテライト	ALA 宮田惇平	フウガドールすみだファルコンズ	
	ALA FIXO 鈴木大輝	大阪成蹊大学	ALA 青島駿平	ベスカドーラ町田U-18	
	FIXO 木村慎也	ベスカドーラ町田U-18	ALA 羽生恒平	フウガドールすみだファルコンズ	

<スケジュール>

5月12~15日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
16日 Fリーグオーシャンカップ2023 vs Y.S.C.C.横浜(エスフォルタアリーナ八王子)

サッカーe日本代表 アジア・オセアニア2次予選「FIFa Nations Online Qualifiers 2023 Main Stage」/アジア・オセアニア最終予選「FIFa Nations Playoffs 2023」

<選手>

プレーヤーネーム	名前	所属
黒豆(kuromame)	森本貴仁	無所属
エビール※1	海老原律	アビスパ福岡
youxme※2	武笠秀星	Blue United eFC
Agu	中島奨	無所属
Web Nasri	青木太一	鹿島アントラーズ

※1:2023シーズンのe日本代表として、3月27日に招集
※2:2022シーズンのe日本代表として、3月26日まで活動

<大会方式>

[FIFAE Nations Online Qualifiers 2023 Main Stage]

●グループステージ

- ・アジア地域から出場の13チームを二つのグループに分け、同グループの各チームと各2試合対戦
- ・試合ごとに勝ち点(勝利:3/分け:1/負け:0)が付与され、グループステージ終了時点で各グループの勝ち点の高い上位4チーム、計8チームがノックアウトステージへ進出する

●ノックアウトステージ

- ・8チームのうち上位6チームが[FIFAE Nations Playoffs 2023]に進出する
- ・2試合目終了時点で同点の場合は、延長戦を行いそれでも決しない場合はPK戦を行う
- ・準々決勝で勝利した4チームはPlayoffsへの進出が決定し、敗れた4チームは2nd チャンス 準々決勝に進む
- ・2ndチャンス準々決勝で勝利した2チームはPlayoffsへの進出となり、負けた2チームは大会敗退となる

[FIFAE Nations Playoffs 2023]

出場8カ国中、4カ国が[FIFAE Nations Cup 2023]に進出

[FIFAE Nations Online Qualifiers 2023 Main Stage(日本の結果のみ)]

試合日	ステージ	対戦チーム	選手	試合結果
2023年 4月13日	MATCH1/Game1	eチャイニーズ・タイペイ代表	Web Nasri / Agu	○ 5-0
	MATCH2/Game1	eシンガポール代表	Web Nasri / Agu	○ 4-0
	MATCH3/Game1	eニュージーランド代表	Web Nasri / Agu	○ 3-2
	MATCH4/Game1	eフィリピン代表	Web Nasri / Agu	● 0-1
	MATCH5/Game1	e香港代表	Web Nasri / Agu	○ 2-1
	MATCH7/Game1	eブルネイ・ダルサラーム代表	Web Nasri / Agu	○ 4-2
	MATCH1/Game2	eチャイニーズ・タイペイ代表	Web Nasri / Agu	○ 1-0
2023年 4月14日	MATCH2/Game2	eシンガポール代表	Web Nasri / Agu	△ 3-3
	MATCH3/Game2	eニュージーランド代表	Web Nasri / Agu	● 1-3
	MATCH4/Game2	eフィリピン代表	Web Nasri / Agu	○ 3-2
	MATCH5/Game2	e香港代表	Web Nasri / Agu	● 0-1
	MATCH7/Game2	eブルネイ・ダルサラーム代表	Web Nasri / kuromame	○ 3-0

※MATCH6は対戦なし

[FIFAE Nations Playoffs 2023(日本の結果のみ)]

試合日	ステージ	対戦チーム	選手	試合結果
2023年 5月19日	Winner Bracket Round 1/Game1	e韓国代表	Web Nasri / kuromame	○ 3-1
	Winner Bracket Round 1/Game2	e韓国代表	Web Nasri / kuromame	△ 0-0
	Winner Bracket Round 2/Game1	eシンガポール代表	Web Nasri / kuromame	● 0-1
	Winner Bracket Round 2/Game2	eシンガポール代表	Web Nasri / kuromame	△ 0-0
	Loser Bracket Round 2/Game1	eインド代表	Agu / kuromame	△ 1-1
	Loser Bracket Round 2/Game2	eインド代表	Agu / kuromame	● 0-1

2023ナショナルトレセンU-14 前期

概要：個の育成の充実を図るトレセンの役割は高いレベルの指導・環境と選手同士の刺激による活動から得たものを自チームに還元していくことや指導者へのJFAの発信機会として重要度を増している。そこで、選手育成・強化の観点から、より多くの選手に質の高いトレーニング機会を与えるために、前期は東日本、西日本の2会場開催とし、後期は地域対抗戦(実施形式に関して現在検討中となっており、変更可能性あり)を実施する予定。

目的：日本サッカーの強化・発展のため、優秀な選手の発掘・育成を図る
全国の選手・指導者の交流を図る
選手・指導者のレベルアップを図る
トレセン(トレーニングセンター)制度の充実・発展を図る

主催：公益財団法人日本サッカー協会
協賛：キリンホールディングス株式会社、アディダス ジャパン株式会社、株式会社モルテン、ニチバン株式会社
指導：公益財団法人日本サッカー協会 技術委員会(技術委員・ナショナルコーチングスタッフ・JFAコーチ)
地域トレセンU-14 指導スタッフ

期間：2023年5月18日(木)~5月21日(日) 3泊4日

参加地域/開催場所

【東日本】参加地域：東北・関東・北信越・東海/Jヴィレッジ

【西日本】参加地域：北海道・関西・中国・四国・九州/J-GREEN堺・DREAM CAMP

選手参加資格

- ①本協会加盟登録選手(外国籍選手でもその選手の参加が他の選手にプラスと考えられる場合、参加を承認する)
- ②2009(平成21)年1月1日以降出生の者
- ③日常的にトレセンで活動している者

※その他、スケジュール等の詳細についてはJFA公式ウェブサイト参照

【コーチ】

地域	役職	名前	所属
北海道	コーチ	田中拓也	根室市立光洋中学校サッカー部
東北/AC福島	コーチ	堀井彰(岩手県)	水沢中学校サッカー部
東北/AC福島	コーチ	川邊雅希(宮城県)	宮城県U-15
関東	コーチ	澤田博之(群馬県)	岡南前橋
北信越	コーチ	吉川裕紀(福井県)	HOKURIKU U-15
東海	コーチ	永田伸輔(愛知県)	享栄高校
東海	コーチ	名和隆彰(岐阜県)	各務原市立藤原中学校
関西	コーチ	池田昌弘(大阪府)	セレッソ大阪U-15
中国	コーチ	田原俊輔(島根県)	ボアソルト美都FC
四国	コーチ	和泉茂徳(高知県)	高知県FAコーチ
九州	コーチ	齊藤兼郎(徳島県)	徳島ヴォルティスジュニアユース
九州	コーチ	浦弘樹(鹿児島県)	奄美市立金久中学校

【選手】

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
北海道	GK	庄林凜太郎	北海道	根室市立光洋中学校サッカー部
北海道	FP	北川聖也	北海道	HKD FOOTBALL CLUB
北海道	FP	山本侑太	北海道	アンフィニMAKI.FC
北海道	FP	原口悠生	北海道	北海道コンサドーレ室蘭U-15
北海道	FP	対馬夢胡	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	古川蒼空	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	松坂泰志	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
東北/AC福島	GK	佐々木翔大	秋田県	ブラウブリッツ秋田U-15
東北/AC福島	GK	齋藤隼乃心	福島県	JFAアカデミー福島
東北/AC福島	FP	森明陽盛	青森県	青森山田中学校
東北/AC福島	FP	森悠貴	福島県	JFAアカデミー福島
東北/AC福島	FP	武谷快地	福島県	JFAアカデミー福島
東北/AC福島	FP	安部慎尊	宮城県	ベガルタ仙台ジュニアユース
東北/AC福島	FP	佐藤勝太	山形県	モンテディオ山形ジュニアユース
東北/AC福島	FP	土居俊太	福島県	SHOSHIFC U-15
東北/AC福島	FP	黒木蓮	秋田県	ブラウブリッツ秋田U-15
東北/AC福島	FP	高久達成	宮城県	ベガルタ仙台ジュニアユース
関東	GK	藤田侘臣	茨城県	鹿島アントラーズジュニアユース
関東	GK	小澤拓向	東京都	FC町田ゼルビアジュニアユースU-14
関東	FP	伊藤優	東京都	三菱養和SC巣鴨ジュニアユース
関東	FP	滝澤同生	茨城県	鹿島アントラーズジュニアユース
関東	FP	川村求	東京都	横浜武蔵野FC U-15
関東	FP	小笠原央	茨城県	鹿島アントラーズジュニアユース
関東	FP	押江颯人	埼玉県	FC LAVIDA U-14
関東	FP	小杉将太	千葉県	VIVAIO船橋ジュニアユース
関東	FP	十河晟央	神奈川県	川崎フロンターレU-15生田
関東	FP	今村涼矢	神奈川県	横浜F・マリノスジュニアユース
関東	FP	熊澤結人	茨城県	鹿島アントラーズつくばジュニアユース
関東	FP	伊藤大貴	東京都	三菱養和SC巣鴨ジュニアユース
関東	FP	石渡智也	茨城県	鹿島アントラーズジュニアユース
関東	FP	池田颯太	神奈川県	横浜FCジュニアユース
関東	FP	高木瑛人	茨城県	鹿島アントラーズジュニアユース
関東	FP	相馬陸人	東京都	FC東京U-15むさし
関東	FP	熊田佳斗	埼玉県	大宮アルディージャU-15
関東	FP	泉晴行	神奈川県	横浜FCジュニアユース
関東	FP	長田愛登斗	東京都	三菱養和SC調布ジュニアユース
関東	FP	原田稔潤	東京都	東京ヴェルディジュニアユース
関東	FP	橋本凜菜	東京都	FC東京U-15むさし
関東	FP	相原清人	山梨県	フォルツワSCジュニアユース
北信越	GK	佐藤空斗夢	新潟県	アルビレックス新潟U-15
北信越	FP	中村れい	福井県	坂井フェニックス丸岡ジュニアユース
北信越	FP	大野田和希	長野県	松本山雅FC U-14
北信越	FP	遠藤琉加	新潟県	長岡JYFC U-15
北信越	FP	林純平	長野県	松本山雅FC U-14
北信越	FP	藤谷琉	石川県	ツエーゲン金沢U-15
北信越	FP	下澤劉矢	石川県	ツエーゲン金沢U-15
北信越	FP	長谷川蒼羽	新潟県	アルビレックス新潟U-15
東海	GK	山田竜之介	静岡県	清水エスパルスジュニアユース
東海	FP	八色隼人	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	森田一輝	静岡県	NPO藤枝東FCジュニアユース
東海	FP	中谷桜太郎	静岡県	ジュビロ磐田U-15
東海	FP	澤田卓磨	静岡県	清水エスパルスジュニアユース
東海	FP	影原望	静岡県	ジュビロ磐田U-15
東海	FP	安藤瑠宮	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	西青木佐泰	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	齋藤太陽	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	西村勇吹	愛知県	知多JY
東海	FP	西野陽向	静岡県	ジュビロ磐田U-15
東海	FP	小枝翔太郎	静岡県	ジュビロ磐田U-15
東海	FP	高尾勇輝	岐阜県	FC岐阜U-15

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
東海	FP	池田歩弘	愛知県	名古屋グランパスU-15
関西	GK	塩本一心	兵庫県	サレハFCジュニアユース
関西	GK	木全皓志郎	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	三上夢来	和歌山県	FC JUNRELO VIVO ジュニアユース
関西	FP	エセモクエ・チメツエ海	大阪府	セレッソ大阪西U-15
関西	FP	永添功樹	大阪府	セレッソ大阪U-15
関西	FP	田村駿弥	京都府	京都サンガF.C.U-15
関西	FP	滝川颯馬	京都府	京都サンガF.C.U-15
関西	FP	松本空	大阪府	セレッソ大阪U-15
関西	FP	尾崎智也	大阪府	セレッソ大阪U-15
関西	FP	東海蒼空	兵庫県	ヴィッセル神戸伊丹U-15
関西	FP	佐々木陽生	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	長谷川貴也	大阪府	セレッソ大阪西U-15
関西	FP	岡崎葵	大阪府	セレッソ大阪西U-15
関西	FP	岡本新大	大阪府	ガンバ大阪ジュニアユース
関西	FP	阿部篤矢	京都府	京都サンガF.C.U-15
関西	FP	樋口僚哉	京都府	京都サンガF.C.U-15
中国	GK	岡野泰護	岡山県	朝日塾中学校
中国	FP	名倉侑汰	広島県	サンフレッチェ広島ジュニアユース
中国	FP	田中優翔	広島県	サンフレッチェ広島ジュニアユース
中国	FP	市川宙	広島県	サンフレッチェ広島ジュニアユース
中国	FP	平松晃	岡山県	ファジアーノ岡山U-14
中国	FP	佐賀悠真	岡山県	ファジアーノ岡山U-14
中国	FP	堤清史郎	岡山県	ファジアーノ岡山U-14

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
中国	FP	長棟琥太郎	山口県	レノファ山口U-15
中国	FP	若岡宏達	広島県	サンフレッチェ広島ジュニアユース
四国	GK	天塔笙太	香川県	カマタマーレ讃岐U-15
四国	FP	谷本理駆	徳島県	徳島ヴォルティスジュニアユース
四国	FP	中島俊太	徳島県	徳島ヴォルティスジュニアユース
四国	FP	仙波隼太郎	愛媛県	愛媛FC U-15
四国	FP	高橋成海	徳島県	徳島ヴォルティスジュニアユース
四国	FP	宮武玲葵	香川県	カマタマーレ讃岐U-15
四国	FP	竹内陽	徳島県	徳島ヴォルティスジュニアユース
九州	GK	北田旺佑	大分県	大分トリニータU-15
九州	FP	田崎春空	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	品川維風	福岡県	アビスパ福岡U-15
九州	FP	直野葵	熊本県	ソレッソ熊本
九州	FP	萩原健斗	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	弓場颯	大分県	大分トリニータU-15宇佐
九州	FP	松尾純貴	鹿児島県	神村学園中等部
九州	FP	石田慶次	福岡県	アビスパ福岡U-15
九州	FP	山根瑠久	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	児玉祐	鹿児島県	神村学園中等部
九州	FP	吉田琥牙	佐賀県	サガン鳥栖U-15唐津
九州	FP	小園晟之朗	鹿児島県	神村学園中等部
九州	FP	井手幹太	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	野口魁斗	熊本県	ソレッソ熊本
九州	FP	宮崎叶	熊本県	ソレッソ熊本

JFA 第23回全日本O-60サッカー大会

JFA 第23回全日本O-60サッカー大会は1964(昭和39)年4月1日以前生まれの2023年度JFA登録選手によって構成されたチームに参加資格が与えられ、JFAの主催で5月12日~14日に宮崎県宮崎市で開催された。

※関連記事は53ページに掲載

■1次ラウンド

順位	グループA	宮崎	安曇野	岡山	とちかち	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	宮崎ドリームフットボールクラブ(開催地/宮崎)		0△0	0△0	3○0	5	1	2	0	3	0	3
2	アルフット安曇野シニア(北信越/長野)	0△0		0△0	3○0	5	1	2	0	3	0	3
3	シニア岡山FC(中国2/岡山)	0△0	0△0		1○0	5	1	2	0	1	0	1
4	とちかち六十雀サッカークラブ(北海道1)	0●3	0●3	0●1		0	0	0	3	0	7	-7

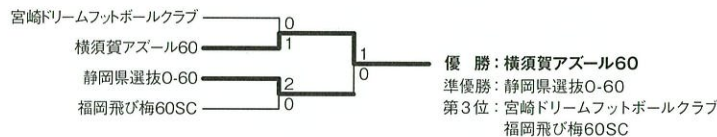
順位	グループB	横須賀	兵庫	徳島	福島	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	横須賀アズール60(関東2/神奈川)		0△0	3○1	3○0	7	2	1	0	6	1	5
2	兵庫県シニア60選抜(関西1/兵庫)	0△0		2○0	1○0	7	2	1	0	3	0	3
3	徳島カバロスシニア(四国2/徳島)	1●3	0●2		0△0	1	0	1	2	1	5	-4
4	FCプリメーロ福島レジェンド(東北1/福島)	0●3	0●1	0△0		1	0	1	2	0	4	-4

順位	グループC	静岡	ニコルス	室蘭	香川	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	静岡県選抜O-60(東海/静岡)		1○0	3○0	1○0	9	3	0	0	5	0	5
2	2018 ニコルスシニア(関西2/大阪)	0●1		1○0	2○0	6	2	0	1	3	1	2
3	室蘭シニア60サッカークラブ(北海道2)	0●3	0●1		2○0	3	1	0	2	2	4	-2
4	香川シニア60(四国1/香川)	0●1	0●2	0●2		0	0	0	3	0	5	-5

順位	グループD	福岡	PET60	岩手	広島	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	福岡飛び梅60OSC(九州/福岡)		1○0	3○0	1○0	9	3	0	0	5	0	5
2	PET60(関東1/東京)	0●1		2○0	3○0	6	2	0	1	5	1	4
3	岩手セレクト60(東北2/岩手)	0●3	0●2		1○0	3	1	0	2	1	5	-4
4	広島県シニア60合同チーム(中国1/広島)	0●1	0●3	0●1		0	0	0	3	0	5	-5

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■決勝ラウンド



【参加選手】

<とちかち六十雀サッカークラブ> 監督:野崎晃
紀井親浩、大友達行、鈴木彦司、菊地芳男、増田徹、瓜屋隆司、宗像三博、須貝正人、松尾国彰、根本和也、岸浪卓見、原田寿彦、中本雷二、氏家正規、辻上敏宏、野崎晃、遠藤澄明、高橋伸明、千葉靖、松久芳男、菅原洋一、鈴木範明、太田康成、由利孝行

<室蘭シニア60サッカークラブ> 監督:伊藤公
今野裕、小西浩一、平野光広、近藤勝治、齋藤諒、打矢徹雄、結城幹也、土橋史人、平石達也、黒川祐二、伊藤公、山口亮、舟越敏昭、横山秀人、山内一徳、佐藤光一、北敬一、加賀谷信男、野村昭彦、橋秋生、松本敦夫、嶋原洋二

<FCプリメーロ福島レジェンド> 監督:住吉哲也
望月清志、加藤隆之、鈴木智也、小林智志、諸野哲夫、佐藤典生、北郷光宏、柳本義仁、菅野昌宏、丹野英雄、宗形俊二、高橋陸、住吉哲也、橋本正光、大金浩美、原竹博、小池清志、川尻敏弘、木村智良、榎田正則、中島浩道、橋本好章、若松幸一、奥川喜一、吉田敏行

<岩手セレクト60> 監督:柴田充
松浦徹、高橋盛幸、三好健志、菅原孝、遠藤昭人、中平弘、朝倉健、照井均、菊池純一、田高辰己、米澤民夫、藤原孝二、柴田充、佐々木仁、坂本玄、沖館和男、村上丈文、熊谷裕幸、澤村一行、高橋哲也、山口修、関友見

<PET60> 監督:中野茂
西尾泰一、松田薫二、菅又哲男、大重伸一、杉本真、星川邦昭、妙中貴彦、太田豊明、渡沼光章、内野真理、杉澤直樹、鈴木靖明、大貫啓一、岡本嘉章、笠口康史、丸山剛生、鈴木健広、七條一郎、野口智久、野村大介、大田武彦、近藤良一、浅野敏昭、加瀬仁、四ヶ所大亮

<横須賀アズール60> 監督:河合克也
鈴木政人、河合健、北尾忠彰、藤原和、片倉建、高村義明、近藤誠、新川茂、丸山康浩、大塚真実、石塚太、塩浦健吾、竹内浩之、伊藤永司、石田由喜夫、松本隆行、牧田有史、千葉重夫、磯崎幸正、横山格郎、中川原裕、宮下真人、加藤修

<アルフット安曇野シニア> 監督:赤羽岳彦
藤本満、衣川裕之、柳澤尚臣、内田信一、海沼文彦、宮沢文敏、小林克也、海沼靖司、丸山哲也、松浦文哉、望月秀明、内田博章、田中久登、小野巖、中山俊郎、奥原純男、赤羽亨、花村寿彦、高橋耕司、伊藤雅文、中村尚文、柴田謙二、赤羽岳彦、麻田記良、萩原由治

<静岡県選抜O-60> 監督:石上信之
櫻井美紀雄、岐崎豊樹、袴田進吾、大木暢茂、前島祥彦、谷澤正、杉村太志、種本哲也、太田弘志、吉盛浩、大塚智久、森脇久晃、大石徹、及川浩二、安間和仁、岡本知之、池谷太志、水島弘史、宮松正治、増田寿和、杉本貞章、齋藤昌文、海野真

<兵庫県シニア60選抜> 監督:川元正人
飼馬昌二、林祐介、柳沢徹史、下入佐勝文、松本修、阪西豊、木下博、永江一臣、飲峯慎仁、杉浦弘、岡崎有三、嶋田欣生、下前喜己、山本秀史、吉田透、松山伸、八木清浩、西田豊和、船木茂治、島貴彦、佐保宏典、奥村芳彦、金在圭、鈴木聖一郎、林康裕

<2018 ニコルスシニア> 監督:鈴木博
荒尾浩、山田誠志、永井裕章、木村祐士、大平浩也、阪倉達也、本田雄士、両宮良二、関野二、佐伯義昭、池下泰徳、近藤伸彦、小松晃二、出口都彦、灰藤雄二、中野剛、三木健一、田中公基、金森秀一、鳥越博之、鈴木博、原田栄三、佐和浩之、小泉逸郎、國領善樹

<広島県シニア60合同チーム> 監督:野曾原増登
足立賢治、田中恒春、宇佐川宏、中倉照郎、山岡正彦、和木清一、恵美紀行、江島憲四郎、吉井浩、小林憲昭、酒井淳治、茶島純一、岡谷和彦、塩本晃三、澤井清則、猿澤茂、三浦義夫、楚輪司、有働廣士、向修一、宮本浩幸、石田兼二、山田雅彦、重村哲也、石川敏宏

<シニア岡山FC> 監督:大森正
近藤清弘、川村清吾、福永淳二、末長誠、村木健一、木口由紀夫、徳永淳、永瀬一雄、中田和宏、笹田公夫、高杉整二、上田勝彦、森池正、永友則雄、青山泰久、清田弘幸、矢野官史、沖昌幸

<香川シニア60> 監督:植田一彦

新延秀信、植田一彦、山田淳、木村和泰、塚田蒼浩、長尾庄司、伊藤寿、梶原敏彦、山根康彦、長尾誠仁、原田隆司、佐々木登、木戸大祐、上田新、木村和宏、松谷恭秀、高口健雄、山本宏司、福島由樹、天雲和千、白井仁志、七條強、近藤尊志、吉田賢二郎

<徳島カバロスシニア> 監督:後藤田昭二

小林孝司、横山雅彦、大谷修二、森本貴文、田中秀男、篠塚久、広永清隆、敷島義浩、長池光彦、武田孝、森本俊文、玉谷正治、中川隆広、青木敬治、溝重孝、柴田政美、工藤俊二、富永賢、岡野耕二、岡田佳造、野上隆一、吉田満彦、田村雅則、近藤通宏

<福岡飛び梅60SC> 監督:大塚哲雄

山口裕三、金井忠夫、宮田清徳、高尾修一、大塚充敏、山田裕治、井手橋和義、岡崎雄一、高木司美、原田克己、佐村良夫、本庄徹哉、池末英之、佐潟久志、岩本英文、能野知学、松永謙、野崎浩之、大井成元、藤川正登、吉田都夫、鶴原一徳、永翁秀一、神吉彰、山下英一

<宮崎ドリームフットボールクラブ> 監督:秋吉伸洋

後藤道夫、谷之木精恒、久木元伸行、山田孝一、長沢成人、鬼塚英樹、指宿義隆、小野智充、永友教治、畑中和良、宇都宮茂樹、新坂清典、甲斐隆彦、加藤保夫、富永貴久、藤田春利、中川勝博、秋吉伸洋、谷水清文、五六和明、坂本幹夫、中山新吾、橋本健治、前村賢一、吉野卓哉

JFA 第17回全日本O-70サッカー大会

JFA 第17回全日本O-70サッカー大会は1954(昭和29)年4月1日以前生まれの2023年度JFA登録選手によって構成されたチームに参加資格が与えられ、JFAの主催で5月12日~14日に宮崎県宮崎市で開催された。

※関連記事は52ページに掲載

■1次ラウンド

順位	グループA	豊東	宮崎	信州	苫小牧	勝	分	負	得点	失点	差
1	SFL豊東70 (関東1/東京)	100	300	600	9	3	0	0	10	0	10
2	宮崎選抜O-70 (開催地/宮崎)	0●1	201	200	6	2	0	1	4	2	2
3	信州感々サッカー クラブ(北信越/長野)	0●3	1●2	201	3	1	0	2	3	6	-3
4	苫小牧シニア70サ ッカークラブ(北海道)	0●6	0●2	1●2	0	0	0	3	1	10	-9

順位	グループC	兵庫	愛知	高知	岡山	勝	分	負	得点	失点	差
1	兵庫県シニア70選 抜(関西/兵庫)	300	300	100	9	3	0	0	7	0	7
2	愛知県選抜O-70 (東海2/愛知)	0●3	200	400	6	2	0	1	6	3	3
3	高知昭和OB会サッ カークラブ(四国/高知)	0●3	0●2	100	3	1	0	2	1	5	-4
4	シニア岡山FC(中国 /岡山)	0●1	0●4	0●1	0	0	0	3	0	6	-6

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

【参加選手】

<苫小牧シニア70サッカークラブ> 監督:明村享

佐藤義雄、伊藤俊一、明村享、中川春政、田村光男、笹川義晴、成田廣道、新見敏朗、坂口友昭、西村強、清野裕、石田秋雄、菊池義男、渡辺裕文、熊原清美、岡本信二、奥寺啓二、曾我啓二、森信一

<岩手70> 監督:竹田秀明

小渡繁雄、尾美裕功、小嶋肇之、鈴木正幸、大平弘峻、杉原千春、照井健介、江釣子卓也、小野稔、齋藤則雄、竹田秀明、工藤英洋、菊池卓郎、佐々木清徳、佐藤訓文、村馬正孝、金子文雄、似内宥治、河野貴治、高橋孝志、川村喜一、湯澤源一郎、川下昭夫

<SFL豊東70> 監督:吉川誠

富藤有三、和知章、吉田和彦、柴田肇、山崎正己、佐伯憲二、野田順弘、千田政博、熊谷信彦、成染秀、小俣晴男、英不二男、吉川誠、深澤光賢、坂井正雄、坂本嘉和、金商載、馬場英治、谷内広美、大平敬志、Thomas Adrian、鈴木晴彦、林道男、中川雅賢、加瀬博文

<アスレチッククラブちば> 監督:今橋一

和田四郎、増田雅博、生野宏、大野修、井田龍夫、岡田伸一、川畑博、菊池和嘉、和泉孝男、経澤要、高田守男、川北信幸、菊池均、時田芳則、牧野敏和、加賀敦雄、松本要子、武蔵敏直、松谷喜久雄、犬童伸平、今橋一、神谷信久、増田仁、工藤孝志

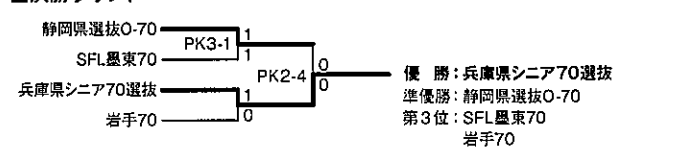
<信州感々サッカークラブ> 監督:白澤省吾

手塚郁夫、小宮山信雄、木島幸人、青柳道雄、鳥羽孝和、降幡清治、内藤盛雄、石田義雄、金物寿久、宮川俊晴、西村武博、内藤亮司、中和昌成、平林正光、二タ村朝比古、大日向栄一、小出栄、内川尊文、箕輪篤男、松田正巳、宮川隆一、遠藤祐司、唐澤陽司、三井隆夫、西原光男

<静岡県選抜O-70> 監督:萩原喜久雄

松下博、増田洋、鈴木啓、山田眞典、高野茂、佐藤三郎、中田文彦、米村高崇、仁藤悦史、吉川之和、山川悟、戸塚尚登、穂谷領則、深澤保之、杉山道明、深澤嘉則、平岡伸之、伊藤敏敏、石原孝一、岡村高邦、中村榮之、市川雅司

■決勝ラウンド



<愛知県選抜O-70> 監督:松原功

公文昌人、小原正、大石光夫、大伴敬三、植野均、葛山幹、越山彰、神谷康治、池谷吉男、伊藤公二、金光秀登世、渡辺輝久、田中泰、恒川正雄、村山勝重、新城清嗣、松原功、佐賀昭雄

<兵庫県シニア70選抜> 監督:清澤崇

福井茂樹、増見照夫、中西徹、岩附保夫、岡部俊治、谷口雄二、武田卓、八木重光、中村実、吉本一仁、笠谷直人、細谷一郎、松永正利、田中正朗、岡中正安、児玉修也、角富幸博、丹羽昇、塚元重範、奥石忠良、南本龍生

<シニア岡山FC> 監督:永瀬一雄

矢木秀雄、高橋岳義、加門康豊、長尾卓志、仁科公仁、藤野昇、山下浩、築澤安彦、小野晋輔、若林隆信、三田村純行、下田孝志、田中恭自、西誠、多久守、鈴木一満、柴岡富美男

<高知昭和OB会サッカークラブ> 監督:寺尾隆

吉永洋一、福川元多賀、田村俊介、宮成武人、桜井良一、中村俊一、川嶋之廣、藤本遠三、岩崎圭介、濱田勲、岡崎日出喜、山下啓一、川村一成、河本雅彦、小嶋求、國見志郎、大原賢三、竹崎謙、川村哲夫、倉橋楠雄、寺尾隆、中島敏彦

<福岡六十雀フットボール倶楽部> 監督:長野兵馬

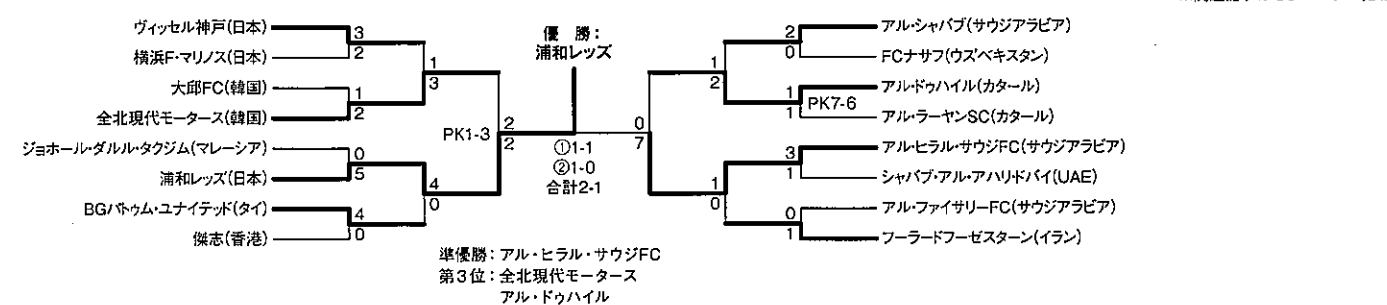
坂本好男、福井友義、市川康次、有働克彦、福田忠秀、二宮弘泰、堤仁史、白石英二、中山剛、塩出健治、三原幸三郎、井島孝、二ノ宮重幸、小林賢一、藤崎憲一、永岡秀人、篠原善信、田島静雄、岩下浩二、折井正人、井上辰馬、長野兵馬、日高正、天本守

<宮崎選抜O-70> 監督:松崎博美

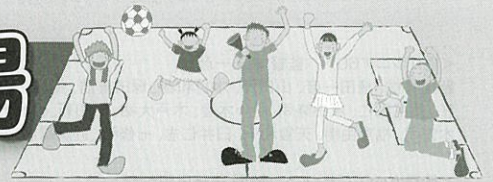
村上雅晴、寺田博己、寺田巧、樋口和夫、井手口順、宮本親治、敷石輝幸、寺坂正義、小泉陽一、高橋国兼、川村信三、日高広道、楠元茂樹、東克巳、坂下義文、長浜信義、上原三朗、松崎博美、小池光貴、落合秀人、宮越祥二郎、山本孝敏、田中昇、齊田朗充、竹田哲治

AFCチャンピオンズリーグ2022 ノックアウトステージ

※関連記事は56ページに掲載



サッカーファミリー広場



One Shot

今月のワンショット



AFCチャンピオンズリーグ2022で浦和レッズが3度目の優勝を飾った(大会レポートは56ページに掲載)。

アウェイで行われたアルヒラル(サウジアラビア)との決勝第1戦では、先制されながらも後半に興梶慎三が同点ゴールを奪取し、1-1の引き分けに持ち込んだ。ホームで迎えた5月6日の第2戦、約6万人のサポーターが見守る中、浦和は1-0で勝利し、アジア王者のタイトルを獲得した。72分に交代してベンチから仲間の戦いを見守っていた興梶は、優勝が決定した瞬間ベンチから飛び出した。第1戦でゴールを挙げ、ACL通算27得点として日本選手の大会通算得点記録を更新した男は、喜びをかみ締めながらも「J1リーグのタイトル。レッズはそれに最も飢えている」と次のターゲットを見据えていた。

ウォーキングフットボール ルール説明会(オンライン)を開催中

日本サッカー協会(JFA)は、JFAが推奨するウォーキングフットボールのルールをオンラインで説明している。次回の実施予定は7月3日(月)で参加料は無料。

ウォーキングフットボールは、歩いて行うサッカーのこと。JFAでは「非接触(ボールを取りにいかない)」という日本独自のルールを導入し、サッカー未経験者や運動が苦手な方、障がいがある方も老若男女問わず誰もが楽しんでプレーできるように実施している。

●ウォーキングフットボールについての詳細
はこちら

https://www.jfa.jp/grass_roots/walkingfootball/



【開催概要】

開催日時: 2023年7月3日(月) 18:30~19:30

申込方法: JFAアプリ「JFA Passport」のイベントページから申し込み

<https://passport.jfa.jp/mypage/login>

※ログインにはJFA IDが必要となります。
JFA IDは無料で取得できます。



【問い合わせ先】

公益財団法人日本サッカー協会 47FA普及推進部普及推進グループ
ウォーキングフットボール担当: jfa_walkingfootball@jfa.or.jp



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会(JFA)は、東日本大震災などで被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行(0005) 渋谷支店(135)
普通預金 口座番号0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口座
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会(JFA)は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法:

【電話】03-5276-8838

【フォーム】https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0Trv0-Leh64Nomkz4YOCQAVouVhhmWtVs3EGjW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link

利用時間: 平日12:00~18:00(土日祝、年末年始等除く)



スポーツ 夢 実現!!

アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

MIZUMA

「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

毎日の体づくりの基本に

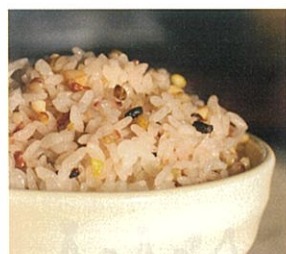
1小袋につき
アミノ酸
4,284
mg



穀物の力
スポーツ雑穀米



16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜鉛	2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	パントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんぱく構成アミノ酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

食品から得られる運動前のエネルギー補給・
運動後のリカバリーに

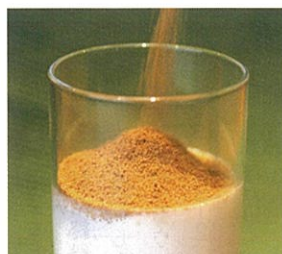
1小袋につき
アミノ酸
3,788
mg



穀物の力パウダー



16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)		亜鉛	
エネルギー	384kcal	亜鉛	2.1mg
たんぱく質	20.1g	ビタミンB6	0.37mg
脂質	6.7g	ビタミンB12	2.36μg
糖質	57.2g	ナイアシン	1.7mg
食物繊維	7.0g	パントテン酸	1.16mg
食塩相当量	0.4g	γ-アミノ酪酸	7mg
カリウム	1,600mg	たんぱく構成アミノ酸	18.940mg
カルシウム	220mg	総ポリフェノール	830mg
マグネシウム	190mg		
鉄	4.9mg		

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。 ※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。

ベストアメニティ

〒830-0102 福岡県久留米市三潴町田川32-3

TEL 0120-580-359

ご注文・お問合せは
こちらから →



天皇杯 JFA 第103回全日本サッカー選手権大会が開幕。
5月20日、21日に各地で1回戦が行われた。



日本一を決する戦いがスタート!

大会公式アンバサダーに 三苫薫選手が就任

日本一の座を懸けた天皇杯 JFA 第103回全日本サッカー選手権大会の戦いが始まった。今大会も例年同様、出場88チームが

ノックアウト方式で優勝を争う。都道府県予選には2304チームが参加した。その予選を勝ち抜いた各都道府県の代表47チームにアマチュアシードのHonda FCを加えた48チームが1回戦を戦い、2回戦からJ1とJ2の全チームが参戦

する。ラウンド16(4回戦)終了後に準々決勝の組み合わせ抽選を行い、決勝までの道筋が決まる。初出場は、B TOP 北海道(北海道)、クリアソン新宿(東京都)、AS・Laranja Kyoto(京都府)の3チーム、最多出場は71回のサンフレッチェ広島だ。今大会で史上初めて「公式アンバサダー」が採用され、三苫薫選手(ブライトン・アンド・ホーヴ・アルビオンFC/イングランド)が就任した。三苫選手は、筑波大学在学中に出場した第97回大会の2回戦でベガルタ仙台を相手に2得点を挙げてジャイアントキリングの立役者になるなど、チームのベスト16進出に貢献。また、川崎フロンターレに加入した2000年度の第100回大会では、準決勝と決勝でゴールを決め、チームの天皇杯初優勝に貢献した。「天皇杯での経験が今の自分の礎になっている」と話す三苫選手は、今後、応援メッセージなどを通じて大会をPRしていく。5月13日には、2023明治安田生命J2リーグ第15節のヴァンフォーレ甲府対ジェフユナイテッド千葉の試合前に天皇杯の返還式が行われた。前回大会で初優勝を果たした甲府の須貝英大キャプテンから日本サッカー協会(JFA)に天皇杯が返され、開幕の準備が整った。

JFL勢が好スタート

返還式から1週間後の5月20日、21日に各地で1回戦が行われた。好調な滑り出しを見せたのは日本フットボールリーグ(JFL)勢だった。

今年、MIOびわこ滋賀から改称したレイラック滋賀(滋賀県)は、今年4月1日にオープンした平和堂HATOSスタジアムにJ3のアスルクラロ沼津(静岡県)を迎え、サッカーではこけら落としとなる試合を戦った。Jリーグの実力を見せつける相手に試合を支配され、58分に先制を許したが、75分にカウンターアタックから同点に。1-1で延長戦に突入し、PK戦にもつれ込むかと思われたアディショナルタイム、左サイドからのクロスに平尾



試合終了間際に勝ち越した岐阜。上野優作監督は「チーム全体で勝つというところを見せられた」と振り返った



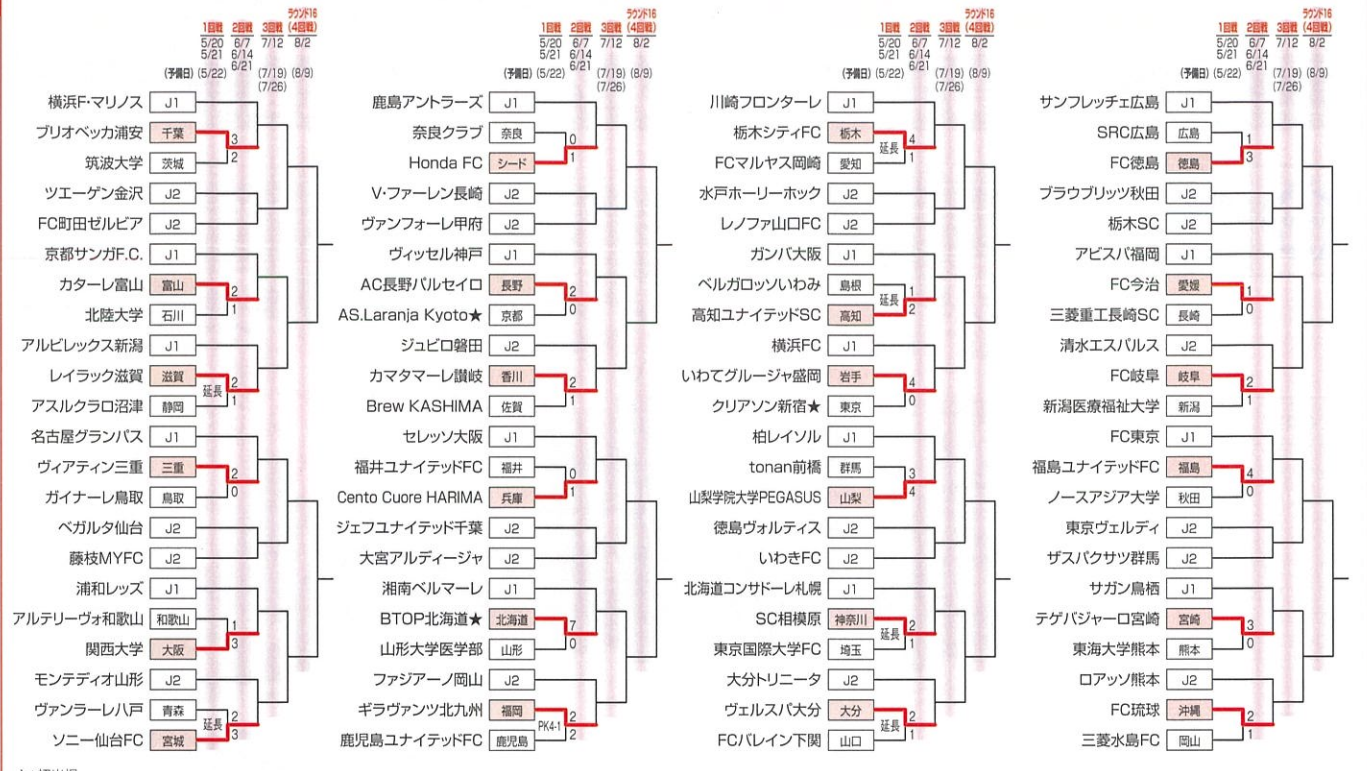
4-0で初戦を突破した盛岡。J1の横浜FCと2回戦で対戦する

壮が合わせて2-1で勝利をもの取った。

ヴァイアティン三重(三重県)はガイナーレ鳥取(鳥取県)と対戦。前半アディショナルタイムに得点すると、試合終盤に追加点を奪って2-0で勝利した。ソニー仙台FC(宮城県)もヴァンラーレ八戸(青森県)に3-2、Hondaは奈良クラブ(奈良県)に1-0と、それぞれJ3のチームから白星を挙げた。ブリオベッカ浦安(千葉県)、高知ユナイテッドSC(高知県)、ヴェルスパ大分(大分県)を含めJFL所属チームは出場9チーム中7チームが2回戦に勝ち上がった。

J3は11チームが2回戦へ

今回、都道府県代表の三分の一



その長野とJ3リーグで同勝ち点の2位、第10節終了時点)につけるカタール(富山(富山県)は北陸大学(石川県)と対戦。序盤から主導権を握り、34分、49分に得点を挙げて2点をリードする。67分に1点を返されたが、2-1で2回戦進出を決めた。

唯一のJ3同士



初出場のクリアソン新宿は、好機もつくったが悔しい結果に終わった

を占めるJ3の16チームは、プロの意地を見せて11チームが勝利を収めた。

いわてグルージャ盛岡(岩手県)は、初出場の新宿と対戦。「良い守備から良い攻撃を狙っていた」という松原良香監督の言葉通り、13分に素早い仕掛けから先制すると、その3分後にはドウグラス・オリヴェイラが相手DFからボールを奪って追加点を挙げた。後半、新宿は選手交代で攻撃の活性化を図るが、勢いで上回る盛岡が73分、84分と得点を重ねて4-0で勝利した。

同じく初出場のKyotoと戦ったAC長野パルセイロ(長野県)は、終始試合を優位に進め、22分、82分にそれぞれCKからヘディングシュートを決めて2回戦に駒を進めた。

の対戦となったギラヴァンツ北九州(福岡県)と鹿児島ユナイテッドFC(鹿児島県)の一戦は、PK戦にもつれ込む接戦となった。1-1で迎えた延長戦、前半に鹿児島が追加点を奪うも、1-15分に大石悠介のゴールで北九州が追い付く。PK戦ではGK吉丸絢梓の好セーブもあり、4-1と北九州に軍配が上がった。

大学勢は苦戦

ジャイアントキリングを演じて大会を沸かせてきた大学勢は、今大会では苦戦を強いられている。

2年連続33回目の出場となる筑波大学(茨城県)は、浦安に2度追い付きながらも、79分に決勝点を奪われた。昨年度の全日本大学サッカー選手権大会のファイナリスト、新潟福祉医療大学(新潟県)は、J3のFC岐阜(岐阜県)に1-2。山形大学医学部(山形県)も初出場のBTOPに0-7で敗れるなど、出場9チーム中7チームが初戦敗退となった。

大学勢で2回戦に進出したのは、アルテリウオ和歌山(和歌山県)を3-1で下した関西大学(大阪府)と、tonan前橋(群馬県)との乱打戦を4-3で制した山梨学院大学PEGASUS(山梨県)。それぞれ2回戦でJ1チームに挑む。

決勝は12月9日、国立競技場で行われる。約7カ月に及ぶ戦いを制し、日本一の座をつかむのはどのチームか――。

天皇杯 JFA 第103回全日本サッカー選手権大会

主催: 公益財団法人日本サッカー協会
公益社団法人日本プロサッカーリーグ

大会方式: 88チームによるノックアウト方式
出場チーム: J1/18チーム、J2/22チーム、アマチュアシード/1チーム(JFL選出/Honda FC)、都道府県代表/47チーム

日程:

- [1回戦] 5月20日(土)、21日(日)[予備日 5月22日(月)]
- [2回戦] 6月7日(水)、14日(水)、21日(水)
- [3回戦] 7月12日(水)[予備日 7月19日(水)、26日(水)]
- [ラウンド16] 8月2日(水)[予備日 8月9日(水)]
- [準々決勝] 8月30日(水)[予備日 9月13日(水)]
- [準決勝] 10月8日(日)
- [決勝] 12月9日(土)



JFA 第17回全日本O-70サッカー大会



【大会概要】

5月12日から14日、宮崎県宮崎市で開催。各地域から選出された12チームが3グループに分かれてリーグ戦(1次ラウンド)を行い、各グループ1位チームと、各グループ2位の中で成績上位の1チームが決勝ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で優勝を決する。

兵庫県シニア70選抜が 前回大会の雪辱を果たして優勝!

2023年4月、宮崎県宮崎市にオープンした屋外型トレーニングセンター「アミノバイタルトレーニングセンター宮崎」のこけら落としとして開催された今大会、初日は1次ラウンドの第1戦、2日目は同じく第2戦と第3戦、最終日には準決勝と決勝という日程で熱戦が繰り広げられた。

グループAでは、SFL墨東70(関東1/東京都)が地域予選からの無失点を継続し、3連勝で1位通過。グループCでは、前回大会の準優勝チーム、兵庫県シニア70選抜(関西/兵庫県)が同じく3戦全勝で決勝ラウンド進出を決めた。

波乱が起こったのは、グループBだった。前回大会を制したアスレチッククラブちば(関東2/千葉県)が本来の力を発揮できずに1分け2敗の最下位で敗退。前回大会ベスト4だった静岡県選抜O-70(東海1/静岡県)が2勝1分けで決勝ラウンドに駒を進めた。

準決勝に進む残り1枠は、各グループ2位のうち成績上位チームが獲得する。グループAの宮崎選抜O-70(開催地)、グループBの岩手70(東北/岩手県)、グループCの愛知県選抜O-70(東海2/愛知県)が2勝1敗の勝ち点6で並んだが、得失

点差でリードした岩手が最後の切符を手に入れた。

墨東と静岡の準決勝は、互いに譲らず1-1のままPK戦へ。最後は静岡4人目の山川悟が決めて3-1とし、決勝進出を果たした。

もう一方の準決勝は、兵庫対岩手という昨年の準決勝と同じ顔合わせとなった。後半、兵庫がゴール正面でFKを得ると、これを岡中正安が直接決めて先制する。兵庫がこの1点を最後まで守り切り、決勝に進んだ。

決勝は兵庫が試合の主導権を握ったものの、静岡も意地を見せる一進一退の展開となった。スコアレスのままPK戦へ進むと、最後は兵庫の5人目、松永正利が決めて兵庫が4-2で勝利をつかんだ。兵庫の清澤崇監督は試合後、「昨年のリベンジで日本一を目指してやって来た。達成できて非常にうれしく思う」と満面の笑みを見せた。



静岡県選抜O-70は準決勝、決勝と2試合連続でPK戦にもつれた。GKの活躍もあり決勝へ



墨東70は1次ラウンドで10得点と攻撃陣が爆発。ベスト4に進出した



大会2日目は雨中の戦いになるもはつらつとしたプレーを見せた。写真は静岡県選抜O-70対アスレチッククラブちば



岩手70(ユニフォーム青)は得失点差がものを言い、2位で決勝ラウンド進出を果たした

JFA 第23回全日本O-60サッカー大会



【大会概要】

5月12日から14日、宮崎県宮崎市で開催。各地域から選出された16チームが4グループに分かれてリーグ戦(1次ラウンド)を行い、各グループ1位チームが決勝ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で優勝を決定する。

熱戦を制した横須賀アズール60が初優勝!

1次ラウンドは初戦から激戦が繰り広げられた。その中で最も拮抗していたのがグループAだった。最終節では、勝ち点や得失点などあらゆるポイントが並び、共に首位に立った宮崎ドリームフットボールクラブ(開催地)とアルフット安曇野シニア(北信越/長野県)が直接対決した。試合はスコアレスドローで終了。フェアプレーポイントに至るまで両チームの成績が並んだため、抽選の末、地元の宮崎が準決勝に進んだ。グループAは最終節で勝利したシニア岡山FC(中国2/岡山県)を含め、3チームが勝ち点5で並ぶ大激戦だった。

グループBでは、優勝経験のある兵庫県シニア60選抜(関西1/兵庫県)を横須賀アズール60(関東2/神奈川県)が抑えて首位通過を果たす。O-50の全国大会で準優勝経験のある実力者を擁する横須賀は、初戦で兵庫と引き分けた後は勝利を重ねた。グループDは、激戦区の関東で第1代表となったPET60(関東1/東京都)を福岡飛び梅60SC(九州/福岡県)が抑えて3連勝。グループCの静岡県選抜O-60(東海/静岡県)も3戦全勝でベスト4進出を決めた。

準決勝では、静岡がセットプレーなどで福岡から2点を奪

取って勝利。地元の大応援に応えたい宮崎はGKの好プレーで危機を免れるなど奮闘したが、横須賀に0-1で惜敗した。

決勝も勝利への執念がにじみ出る一戦となった。静岡と横須賀は互いに球際で激しく戦い、チャンスも創出。緊迫した展開が続いたが、後半開始5分、クロスから横須賀がシュートを決めて先制に成功する。両チーム共に交代カードを次々と切って攻防を繰り広げるがスコアは動かず、横須賀が1-0で静岡を下して日本一に輝いた。

O-50で2度、準優勝した経験がある宮下真人選手(横須賀)は試合後、「O-40年代から20年ほどかけて、やっと優勝できた」と男泣き。「『あと一つ』で目標に届かなかった思いが今回実ったのだと、今はそう思いたい」と、タイトル獲得の喜びをかみ締めた。



クラブ創立40周年の節目に優勝した横須賀アズール60。決勝では磯崎幸正(写真)が決勝点を決めた



アルフット安曇野シニアは1次ラウンドで同率1位となるも、抽選で涙をのんだ



静岡県選抜O-60は安定した戦いぶりで1次ラウンド3連勝。準決勝も2-0で快勝した



開催地代表の宮崎ドリームフットボールクラブは地元の応援を受けて準決勝に進出

サッカーの醍醐味

今もなお現役でサッカーを楽しむ先輩たちはサッカーの魅力はどう感じているのか。JFA 第17回全日本O-70サッカー大会とJFA 第23回全日本O-60サッカー大会に参加した選手たちに「あなたにとってサッカーとは？」を聞いた。 ※所属チーム、年齢は大会当時

ひとつは縁だと思います



60代は会社務めをしていた人たかも定年退職という年齢になっていきます。ですから、サッカーという縁でつながっている人たちが、60代以降の生活をしていくにあたって本当の友だちになっていきますよね。同年代もそうですし、先輩や下の年代の選手たちと一緒に過ごせるのがいいですね。サッカーでつながる縁を大切にしていきたいです。

刀山雅彦さん
(広島県シニア60合同チーム/64歳)

最高の存在ですね



岡本信二さん
(苫小牧シニア70サッカークラブ/72歳)

北海道に帰ればO-60の大会にも出ています。サッカーがあるから仕事も頑張れます。昔は対戦相手だった人たちとも集まって、仲間になれるのもいいですね。遠征も修学旅行みたいなものです。宮崎に来るのも今回が3回目。ねりんピックなどでもあちこちに行きました。連戦だと、前の晩に一杯(お酒を)飲んで頑張ろうとなれますし、サッカーは最高です。

望月清志さん
(FCプリメーロ福島レジェンド/61歳)

自分の世界かな



サッカーは人生そのもののような気がします。家族も皆で応援してくれていますし、サッカー仲間もいっぱいいて、家族ぐるみの付き合いもしている。何か苦しいことがあったら相談できて、本当になくはない仲間です。退職して非常勤講師となった今も中学校で指導を続けており、子どもたちにもそうしたことを伝えられたらいいなと思っています。上手ではなくても高校や大学で続けたり、審判員をする子もいたり、教え子たちが「サッカーが好き」と言ってくれることがうれしいですね。

生きる目標になっています

目標があるから日々鍛錬できます。この年齢になると、一番の敵はオーバーワークですが、何もしないと3カ月くらいで体力が落ちていくのが分かります。元に戻すには10倍くらいかかるので、自分の体と相談しながら皆さんトレーニングをしています。東京はシニアチームが多いので、高校時代よりも試合をしているんじゃないかな。勝った負けたもあるし、試合後はお酒を飲みながら仲間と語り合える。これがなくなったら臍抜けになってしまいそうです(笑)。

自分の生活の一部ですね

サッカーがないとモチベーションが上がりません。中学校で教員をしていて、退職後も宮崎県サッカー協会やクラブで指導にあたっていますが、やはり自分でプレーする方が楽しいです。サッカーがない生活はあり得ないですし、生涯現役でいたい。JFAの方々の努力で、シニアになってもサッカーを楽しむ環境をつくってもらえていることはありがたいです。サッカーで幸せになるというコンセプトが、見事に実現されている気がします。

中山新吾さん
(宮崎ドリームフットボールクラブ/59歳)



柴田肇さん
(SFL墨東70/70歳)



生きがい
と言っているかな

松永正利さん
(兵庫県シニア70選抜/72歳)

60年近くずっとサッカーをしていますから、もはや生きがいですね。妻には「サッカーばかりして」と怒られますが、実業団を終えて兵庫県に来てからもずっと続けて、兵庫のサッカーを強くしたいという思いがありました。そういうチームをつくりたいと思い、0-40から0-70まで全てで優勝できています。今は兵庫県サッカー協会のシニア委員長として、下の年代の強化もしています。情熱は誰にも負けなつもりです。



家族に聞いたら
『お父さんの人生そのもの』
と言うでしょうね

伊藤博敏さん
(静岡県選抜O-70/71歳)

私としては趣味も仕事もある中でやっていて、サッカーが全てとは感じていないのですが、家族はこう言うと思います。体のどこかが痛くてもプレーしていると「プロじゃないだし、年齢もあるんだから」と。練習試合などがあると、家族との行事を終えてから合流することもあります。あるのは体の変化だけ。子どもの頃からサッカーへの情熱は変わっていないんです。

田中公基さん
(2018ニコルスシニア/62歳)

特技と言えるもの



一人の企業人、社会人として生活していると、いろいろなコミュニティの中でさまざまなやり取りがあり、決して良いことばかりがあるわけでもない。でも、大変なことも皆で乗り越えていきます。それはサッカーでも同じことだと思います。中学生からやっているサッカーは自分の特技ですし、このコミュニティで自分の力を出すことができます。企業とはまた違うそうした(力を発揮できる)場所があることは、うれしく、楽しいことです。

仲間をつくるための手段

子どもの頃から上を目指して頑張ってきました。しかし、学生を卒業したら、仲間をいかにつくれるかが大事だと思います。サッカーがあったからこそ、私はたくさんの仲間ができました。職業なども関係なく、仲間になれる、それが一番じゃないでしょうか。今回、準決勝で負けてしまった静岡県選抜とは、毎年のように対戦しています。藤枝市は大会会場になることが多いのでよく行きまですし、こうした全国大会で顔見知りがたくさんできるのも楽しいですね。

岩本英文さん
(福岡飛び梅60SC/61歳)



楽しみそのものです

若い時は「勝ちたい勝ちたい」と思っていました。70歳になっても、ちょっとでも上手になりたいという思いはあります。相手の選手を見て「こういうところが上手だな」と思ったら、真似したりしています。試合が終わった後に皆で過ごす楽しみもいろいろ。そのために一生懸命やっていますね。何でも、楽しくなければ趣味じゃないと思っています。

岡崎日出喜さん
(高知昭和OB会サッカークラブ/69歳)



CHAMPIONS AFC CHAMPIONS LEAGUE FINAL



浦和レッズが3度目のアジア王者に輝く! FIFAクラブワールドカップ出場権も獲得

アジアのクラブ王座を懸けたAFCチャンピオンズリーグ(ACL)2022東地区のノックアウトステージが8月18日からさいたま市(埼玉県)で開催され、日本からは浦和レッズ、ヴィッセル神戸、横浜F・マリノスの3チームが参戦。ラウンド16では、ヴィッセル神戸が横浜F・マリノスを破って準々決勝に進んだが、全北現代モータース(韓国)に延長戦で敗れて敗退。ラウンド16、準々決勝と快勝した浦和レッズが全北現代との準決勝でPK戦の末に勝利し、決勝に駒を進めた。

※大会結果は47ページに掲載

AFCチャンピオンズリーグ2022決勝は17年大会、19年大会に続いて浦和レッズとアルヒラル(サウジアラビア)の顔合わせとなった。

サウジアラビアのリヤドで行われた第1戦、主導権を握ったのはアルヒラルだった。浦和のマチエイ・スコルジャ監督が「開始20分はわれわれらしくなかった。狙っていたプレーからは程遠く、守備のときにかなり深いところまで押し込まれた」と振り返ったように、アウェイの浦和にとって苦しい時間が続いた。

13分には、左サイドからのクロスのアレクサンダー・シヨルトとGK西川周作が譲り合ってしまった。ファーストで合わされて失点。シヨルトは「クロスが入ってきて、ストライカーが自分の右側にいた。触るとオウンゴールになるかもしれない」と悔やんだ。だが、この失点によって浦和は攻めの姿勢を取り戻す。次第にボールを保持できるようになり、シヨルトカウンターを繰り返していくと53分、「スペースがあったので、背後は常に狙っていた」という興梠慎三に大久保智明がスルーパスを送る。これは相手DFにカットされたが、そのボールがポストに当たって跳ね返ったところを興梠が蹴り込んで、試合を振り出しに戻した。

その後も浦和は粘り強く守りながらカウンターを



決勝第1戦で貴重なアウェイゴールを挙げた興梠慎三。ACL通算27ゴール目となり、日本選手の大会通算得点記録を更新した

繰り返して、試合は1-1で終了。浦和は貴重なアウェイゴールをもぎ取ってホームに帰還した。

迎えた第2戦、勝つためには得点するしかないアルヒラルは、立ち上がりから猛攻を仕掛ける。こうした圧力に加えて浦和を苦しめたのが、風だった。前半、風下に回った浦和はクリアボールが強風で戻される場面が目立

ち、相手の攻撃をなかなか押し返せない。「風の影響もあって押し込まれ、精神的にも苦しく神経質になってしまい、普段ならつなげるところをリスク回避のために大きく蹴ることもあった」と小泉佳穂は分析する。しかし、なんとカスコアレでハーフタイムを迎える。後半開始早々、浦和にチャンスが巡ってくる。48分、岩尾憲が蹴ったFKが風に乗り、絶妙な軌道でマリウス・ホイブラテンに届くと、ホイブラテンのヘディングによる折り返しも風の影響を受けてゴールに向かう。相手選手がかき出そうとしたもののクリアできず、オウンゴールとなって浦和が先制した。岩尾は「今日は本当に風が大きな影響を与えたと思いますけど、自分たちの方に神風が吹いてくれた」と振り返った。



大会MVP(最優秀選手)には、攻守に貢献した浦和レッズの酒井宏樹が選出された

その後、アルヒラルの猛攻を跳ね返し続けた浦和が1-0で勝利。2試合合計2-1として3大会ぶり3度目のアジア制覇を成し遂げた。



産業名古屋オーションズが 5連覇達成 CUP 2023

F.LEAGUE OSHANS CUP 2023
¥3,000,000
丸大産業株式会社



Fリーグオーションカップ2023

5月15日から21日、Fリーグオーションカップ2023が開催され、日本フットサル界の2023・24シーズンの幕を開けた。今大会には、Fリーグディビジョン1（F1）の12チーム、Fリーグディビジョン2（F2）の9チームに加え、特別枠でU・19フットサル日本選抜と第23回フットサル地域チャンピオンズリーグ優勝のO・P・A、地域大学フットサルチャンピオンズリーグ優勝の立命館大学ユニ、そして第12回日本フットサル施設連盟選手権優勝のZOTT WASEDAも参戦した。

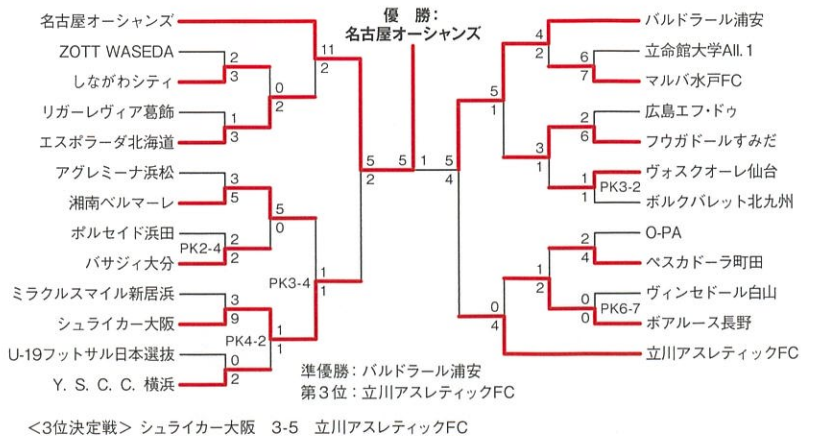
1次ラウンドはエスフォルタアリーナ八王子（東京都）で開催された。1回戦では、F2や特別枠のチームがF1のチームに挑む試合が多かったが、接戦になるケースもあった。それでもポルセイド浜田にPK戦の末に勝利したバサジ大分のようにF1勢が底力を示した。そんな中、F2のヴォスコオーレ仙台はPK戦でポルクバレット北九州を破り、2回戦に進出。昨季までF1に属していたポアールス長野も1回戦でヴィンセドル白山をPK戦で破ると、2回戦ではベスカドーラ町田に2-1で勝利し、F2勢で唯一の3回戦進出を果たした。

名古屋オーションズと準優勝の立川アスレティックFCが登場。名古屋は3連戦となったエヌポラーダ北海道に1-2と大差をつけて勝利すると、立川も、快進撃を見せた長野を4-0で破り、2大会連続の4強進出を決めた。

舞台をアダストリアみとアリーナ（茨城県）に変えた準決勝では名古屋が5-2でシュライカー大阪を破ったのに対し、立川はバルドラール浦安に4-5で敗れて決勝進出はならず。翌日の3位決定戦では立川が大阪を5-3で破った。

名古屋と浦安の決勝は、序盤から名古屋が圧倒的にボールを支配する。GKピレス・イゴールを中心に堅守を見せていた浦安だったが、第1ピリオド18分に安藤良平にゴールを許し先制される。ハーフタイムにフエンテス監督からCK時の攻略法を指示された名古屋は、第2ピリオド開始30秒でCKからアンドレシートが追加点を奪取。その後新加入の清水和也と金澤空の移籍後初ゴールもあり、名古屋が5-1で勝利した。今大会でも3試合で21得点を挙げる圧倒的な強さを見せた名古屋が大会5連覇、通算10度目の優勝を成し遂げて2023・24シーズン最初のタイトルを獲得した。

○大会結果



名古屋の攻撃をけん引したアンドレシート。決勝でもチームの2点目を挙げた。

Fリーグ2023-2024

開幕



©SHRIKER OSAKA

**Fリーグの2023-2024シーズンがスタートした。
FIFAフットサルワールドカップの前年となる今シーズン、
長い戦いを制するのはどのチームか。**

**今シーズンは試合数が増え
各会場で熱戦に期待**

日本フットサルリーグ（Fリーグ）の2023-2024シーズンは5月27日、全国各地で開幕を開けた。開幕前に行われたプレスカンファレンスでは、一般社団法人日本フットサル

リーグの藤口光紀理事長が「フットサルは日本が世界を引っ張れる種目」と、より多くの人たちを巻き込みながらリーグを発展させていくことを宣言した。

デヴィジョン1（F1）とデヴィジョン2（F2）が同じタイミングで開幕した昨シーズンとは異なり、今シーズンはF1が一足早く開幕する。来年にAFCフットサルアジアカップを控えていることから、例年よりも1カ月早い5月27日に開幕し、12チームによるホーム＆アウェイの2回戦総当たりのリーグ戦（レギュラーシーズン）を実施。全27節が終了した後、上位6チームと下位6チームの2グループに分かれて1回戦総当たりの「ファイナルシーズン」を戦う。レギュラーシーズン22節とファイナルシーズン5節を加えた27節の勝ち点の合計によって最終順位を決める。上位6チームと下位6チームとの間で順位が入れ替わることはない。ここ数年、コロナ禍でリーグの試合数が減っていたFリーグだが、今シーズンは試合数も増え、レベルの高い戦いが繰り広げられることが期待される。F2はF1の開幕から1週

間後となる6月4日に第1節が開催。今シーズンからは四国初のFリーグクラブ、ミラクルスマイル新居浜が新規参入する一方、デウソン神戸がリーグのクラブライセンス交付の条件を満たすことができずに不参加となり、昨シーズンに続き、全9クラブのホーム&アウェイによる2回戦総当たりのリーグ戦となる。F2の1位チームは、F1の12位のチームと2試合の入れ替え戦を行い、勝利したチームが来季F1で戦う権利を得ることとなる（引き分けの場合はF1のクラブが残留）。

新シーズン開幕日

3会場で1000人超を集客

F1のオープニングゲームは神奈川県の小田原アリーナで開催され、湘南ベルマーレとエスポラーダ北海道が対戦した。ホームの湘南はフットサルブラジル代表のロドリゴが移籍したほか、昨シーズンまでJリーグでプレーした菊池大介が加入。同クラブのアカデミーからトップチームに昇格した菊池は北海道戦でフットサル選手としてデビューした。試合はホームの湘

南が本田真琉虎洲のFリーグ通算200ゴールとなる先制点を含む10ゴールを記録。10-3というスコアで北海道を圧倒し、白星スタートを切った。

アリーナ立川立飛（東京都）では、立川アスレティックFCとフウガドールすみだの東京ダービーが行われた。ホームの立川が優勢に立って試合を進めたが、両チームとも組織的な守備で得点を許さず。フットサルでは珍しいスコアレスドローで勝ち点1を分け合っている。町田市立総合体育館（東京都）で行われたパスカドーラ町田と

湘南は北海道との開幕戦で快勝。湘南の堀内迪弥（写真左）は2得点を挙げた



Fリーグ2023-2024 ディビジョン1 大会概要

開催期間：2023年5月27日(土)～2024年1月14日(日)
 大会方式：レギュラーシーズン(2023年5月27日(土)～2023年12月10日(日))
 12チームによるホーム&アウェイ 2回戦総当たりリーグ戦
 ファイナルシーズン(2023年12月22日(金)～2024年1月14日(日))
 レギュラーシーズンの上位6チーム、下位6チームの2グループによる1回戦総当たりのリーグ戦

■ディビジョン1(12チーム)

- ・エスポラーダ北海道
- ・バルドラール浦安
- ・フウガドールすみだ
- ・しながわシティ
- ・立川アスレティックFC
- ・ベスカドーラ町田
- ・Y.S.C.C.横浜
- ・湘南ベルマーレ
- ・名古屋オーシャンズ
- ・シュライカー大阪
- ・ボルクバレット北九州
- ・バサジィ大分

Fリーグ2023-2024 ディビジョン2 大会概要

開催期間：2023年6月4日(日)～2023年12月24日(日)
 大会方式：9クラブのホーム&アウェイによる、2回戦総当たりリーグ戦

■ディビジョン2(9チーム)

- ・ヴォスクオーレ仙台
- ・マルバ水戸FC
- ・リガレヴィア葛飾
- ・ヴィンセドール白山
- ・ポアルース長野
- ・アグレミーナ浜松
- ・広島エフ・ドウ
- ・ボルセイド浜田
- ・ミラクルスマイル新居浜

●Fリーグ2023-2024ディビジョン1・2

入れ替え戦
 試合日程：2024年2月17日(土)・18日(日)
 大会方式：
 ・シーズン(F1：レギュラーシーズン・ファイナルシーズン、F2：リーグ戦)終了後、ディビジョン1の12位のチームとディビジョン2の1位のチームでディビジョン1・2入れ替え戦を行う。
 ・2試合を開催し、勝利チームがディビジョン1に残留または昇格する。



TACHIKAWA ATHLETIC F.C.

立川とすみだによる東京勢対決は互いの意地がぶつかり、スコアレスドローに

Y.S.C.C.横浜の一戦ではアウェイの横浜が5ゴールを奪い、町田の反撃を試合終了間際の1点に抑えて5-1で勝利。就任2年目となる鳥丸大作監督

のフットサルが浸透していることを示す戦いぶりでの勝利をつかんだ。

観客動員に苦しんできたFリーグだが、新型コロナウイルス感染症対策の規制が緩和されたこともあり、2023-2024シーズン開幕日に開催された試合には小田原アリーナに1197人、アリーナ立川立飛に1142人、町田市立総合体育館は1553人と、3会場全てが1000人を超える集客を実現し、幸先の良いスタートを切った。

名古屋は7連覇なるか 配信サービスも開始

5月28日には九州ダービー

も行われ、バサジィ大分がボルクバレット北九州と対戦。第1ピリオド15分までに2点の

ビハインドを背負ったホームの大分が、第1ピリオド20分に田口大雅のゴールで1点を返すと、後半には元フットサル日本代表の仁部屋和弘のゴールで追いつき、その後2得点を加えて4-3の逆転勝利を収め、アリーナを盛り上げた。

リーグ6連覇中の名古屋オーシャンズは、F1初昇格のしながわシティと対戦した。名古屋に続くプロクラブとして注目されるしながわがリードしたが、第2ピリオド10分に昨シーズンのリーグMVPに輝いたアンスのドリントが、しながわの隙を逃さずにセットプレーから同点

ゴールを決めると、さらに16分にも逆転ゴールを決めて名古屋に勝利をもたらした。

今シーズンの名古屋は、立川から金澤空、すみだから清水和也と、フットサル日本代表の主力選手を獲得して話題を呼んだが、開幕戦ではフットサルのブラジル代表のダルラン、元フットサルスペイン代表のアンドレシートら外国籍選手が結果を出している。その名古屋との一戦で逆転負けを喫したしながわも、F1で十分に戦えるポテンシャルを示しており、今シーズン、どこまで順位を上げるかが見どころだ。

シュライカー大阪とバルドラール浦安の一戦では、浦安に加入した本石猛裕が大仕事を

やっつけてのける。先制点を挙げたほか、試合終了20秒前に同点とされたその7秒後に決勝点を記録。フットサルならではの目まぐるしい展開の中で勝利の立役者となった。本石はリーグが選出する第1節のMVPにも選ばれた。

今シーズン終了後、2024年には、FIFAフットサルワールドカップ(開催地未定)の予選を兼ねたAFCフットサルアジアカップ、そしてFIFAフットサルワールドカップが行われる。今シーズンのFリーグにはフットサル日本代表の強化という側面で大きな意味があり、各会場でファンを魅了することはもちろん、選手たちの成長にも期待がかかっている。

F1は昨シーズンまで「ABEMA TV」によって全試合が生中継されていた。だが、今シーズンは配信する対象の試合が限定的になったこともあり、リーグは開幕直前に「F.LEAGUE TV」という配信サービスを立ち上げた。ピッチ内外でフットサルというコンテンツを盛り上げるためにも、重要なシーズンが始まった。

your world cup ball

Sydney, Australia.



Queenstown, New Zealand.

INSPIRED BY NATURE



©2023 adidas Japan K.K. adidas, the Performance Logo and the 3-Stripes mark are trademarks of adidas.

2023 FIFA主要大会 公式試合球



**NADESHIKO
JAPAN**

**特別
企画**

FIFA女子ワールドカップ オーストラリア&ニュージーランド 2023

開幕まで1カ月

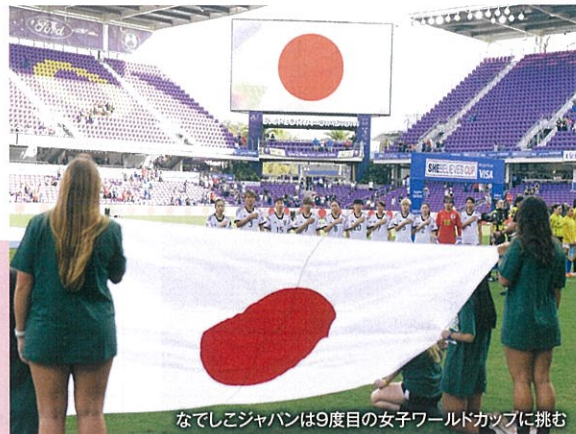
**出場チームは32に拡大
8チームが初出場**

1991年に第1回大会が開催されてからFIFA女子ワールドカップ(当時はFIFA女子世界選手権)は今年で9回目を迎える。今大会の舞台はオーストラリアとニュージーランド。7月20日から8月20日までの1カ月間、南半球で女子サッカー最高峰の戦いが繰り広げられる。

女子ワールドカップが共同開催となるのは今大会が初。大規模な大会を複数の国で開催できることから近年のトレンドになりつつあり、2026年の男子サッカーのFIFAワールドカップもアメリカ、メキシコ、カナダの3カ国による共同開催が決まっている。

女子サッカーの普及と発展に取り組む国際サッカー連盟(FIFA)は2019年、今回の女子ワールドカップから出場チーム数を24から32に拡大することを決めた。門戸が開かれたこともあり、ハイチ、アイルランド、モロッコ、パナマ、フィリピン、ポルトガル、ベトナム、ザンビアの8チームが初出場を果たした。

一方、9大会全てに出場するのは、前回大会で2大会連続4度目の優勝を果たしたアメリカをはじめ、ノルウェー(95年優勝)、ドイ



なでしこジャパンは9度目の女子ワールドカップに挑む

【大会基本情報】

- ・創設年：1991年
- ・最多優勝：アメリカ(4回/全8回)
- ・日本の成績：出場全8回
優勝(2011年)、準優勝(2015年)、ベスト8(1995年)、ベスト16(2019年)

■FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023

●参加チーム(32チーム)

グループ	チーム	加盟大陸/出場歴	FIFA女子ランキング
A	ニュージーランド	OFC(開催国)/5大会連続6回目	25位
	ノルウェー	UEFA/9大会連続9回目	12位
	フィリピン	AFC/初出場	49位
	スイス	UEFA/2大会ぶり2回目	20位
B	オーストラリア	AFC(開催国)/8大会連続8回目	10位
	アイルランド	UEFA/初出場	22位
	ナイジェリア	CAF/9大会連続9回目	42位
C	カナダ	CONCACAF/8大会連続8回目	6位
	スペイン	UEFA/3大会連続3回目	7位
	コスタリカ	CONCACAF/2大会ぶり2回目	36位
	ザンビア	CAF/初出場	77位
D	日本	AFC/9大会連続9回目	11位
	イングランド	UEFA/5大会連続6回目	4位
	ハイチ	CONCACAF(大陸間プレーオフ)/初出場	53位
	デンマーク	UEFA/4大会ぶり5回目	15位
	中国	AFC/3大会連続8回目	13位

グループ	チーム	加盟大陸/出場歴	FIFA女子ランキング
E	アメリカ	CONCACAF/9大会連続9回目	1位
	ベトナム	AFC/初出場	33位
	オランダ	UEFA/3大会連続3回目	8位
	ポルトガル	UEFA(大陸間プレーオフ)/初出場	21位
F	フランス	UEFA/4大会連続5回目	5位
	ジャマイカ	CONCACAF/2大会連続2回目	43位
	ブラジル	CONMEBOL/9大会連続9回目	9位
G	パナマ	CONCACAF(大陸間プレーオフ)/初出場	52位
	スウェーデン	UEFA/9大会連続9回目	3位
	南アフリカ	CAF/2大会連続2回目	54位
	イタリア	UEFA/2大会連続4回目	16位
H	アルゼンチン	CONMEBOL/2大会連続4回目	28位
	ドイツ	UEFA/9大会連続9回目	2位
	モロッコ	CAF/初出場	73位
	コロンビア	CONMEBOL/2大会ぶり3回目	26位
	韓国	AFC/3大会連続4回目	17位

※FIFA女子ランキングは2023年3月24日時点/ AFC(アジア)、OFC(オセアニア)、CAF(アフリカ)、CONCACAF(北中米カリブ海)、CONMEBOL(南米)、UEFA(ヨーロッパ)

●日本のマッチスケジュール

グループステージ

日付	現地時間(日本時間)	対戦相手	会場
グループC 第1戦7月22日(土)	19:00(16:00)	ザンビア	WAIKATO STADIUM(ニュージーランド/ハミルトン)
グループC 第2戦7月26日(水)	17:00(14:00)	コスタリカ	DUNEDIN STADIUM(ニュージーランド/ダニーデン)
グループC 第3戦7月31日(月)	19:00(16:00)	スペイン	WELLINGTON REGIONAL STADIUM(ニュージーランド/ウェリントン)

ノックアウトステージ

日付	現地時間(日本時間)	対戦相手	会場
ラウンド16 8月5日(土)	20:00(17:00)	[1位通過の場合]グループA2位	WELLINGTON REGIONAL STADIUM(ニュージーランド/ウェリントン)
	17:00(14:00)	[2位通過の場合]グループA1位	EDEN PARK(ニュージーランド/オークランド)
準々決勝 8月11日(金)	19:30(16:30)	[1位通過の場合]グループG1位対グループE2位の勝者	EDEN PARK(ニュージーランド/オークランド)
	13:00(10:00)	[2位通過の場合]グループE1位対グループG2位の勝者	WELLINGTON REGIONAL STADIUM(ニュージーランド/ウェリントン)
準決勝 8月15日(火)	18:00(17:00)		EDEN PARK(ニュージーランド/オークランド)
3位決定戦 8月19日(土)	18:00(17:00)		BRISBANE STADIUM(オーストラリア/ブリスベン)
決勝 8月20日(日)	20:00(19:00)		STADIUM AUSTRALIA(オーストラリア/シドニー)

ツ(03、07年優勝)、日本(11年優勝)、スウェーデン、ナイジェリア、ブラジルの7チーム。アメリカは、北中米カリブ海予選を兼ねたCONCACAF Wチャンピオンシップを制し、CONCACAF王者として今大会に臨む。Wチャンピオンシップの決勝では、2021年の東京オリンピック決勝で敗れたカナダを1-0で退け、雪辱を果たした。今年2月に自国で開催されたSheBelieves Cupでもブラジル、カナダ、日本に全勝して優勝を飾っており、今大会の優勝候補筆頭であることは間違いないだろう。また、ブラジルはワールドカップ最高成績が07年大会の準優勝、ここ2大会はベスト16にとどまっているものの、南米予選を兼ねたコパ・アメリカでは無失点で優勝を遂げ、大会4連覇を果たしている。アメリカやスウェーデンなどを率いて実績のあるピア・スンドハーゲ監督が19年から指揮を執っており、今大会でどのような成果を見せるのかが注目だ。

ヨーロッパ勢はプレーオフ勝ち抜き組も含め、他大陸を大きく上回る12チームが今大会の出場権を獲得した。前回大会で準優勝のオランダ、同3位のスウェーデン、同4位のイングランドをはじめ、22年のFIFA U-20女子ワールドカップを初制覇し、FIFA U-17女子ワールドカップでは2連覇と各世代で輝かしい成績を残しているス

ペインも優勝候補の一角に挙げられる。

最多優勝を誇るアメリカの3連覇となるか、それとも急成長を見せるチームが新たに覇権を握るのか、初出場チームはダークホースとなるのか。8月20日、決勝の地シドニー(オーストラリア)で頂点に輝くのはどのチームだろうか。

勝負にこだわり ひたむきに戦う

なでしこジャパン(日本女子代表)は7月14日、ワールドカップ初出場のパナマとMS&ADカップ2023を戦い、最終調整をしてワールドカップに向かう。

21年の東京オリンピック後、池田太監督の下でチームは新たな活動をスタートさせた。22年AFCアジアカップでは3連覇を逃したものの、ベスト4に進出してワールドカップ出場権を獲得。この1年半、イングランドやスペイン、ブラジル、アメリカといった強豪

国との対戦で実戦を積みながらチームづくりを進めてきた。池田監督は「選手の理解力や実行力、新しい取り組みへの順応性などは日本のストロングポイント」「俊敏性や攻撃に関わるプレーは、ワールドカップでも武器になる」と話す(前号62〜64ページ参照)。

前回大会はベスト16、21年の東京オリンピックではベスト8の戦いで涙をのんだなでしこジャパンにとって、今大会は「再び世界のなでしこになるための大きな挑戦になる。初戦は7月22日。日本女子サッカーらしさである“ひたむきさ”を胸に、再び頂を目指す。

大会前最後の国内試合、 7月14日にパナマ女子代表と対戦

【大会概要】

MS&ADカップ2023

日時:7月14日(金)19:05キックオフ予定

会場:宮城県/ユアテックスタジアム仙台

対戦:なでしこジャパン(日本女子代表)

対パナマ女子代表

テレビ放送:日本テレビ系で全国生中継



ピッチ上でも活発にコミュニケーションを取り、何を修正すべきか話し合ってきた選手たち。自分たちの力をしっかりと発揮することがワールドカップを勝ち抜く鍵となる

■なでしこジャパンや大会の最新情報をチェックしよう!

●JFA公式ウェブサイト

●JFA公式アプリ「JFA Passport」

JFA公式ウェブサイトでは現在、なでしこジャパンの応援企画として「現役WEリーグ選手が語る、なでしこの素顔」を掲載中。第1回は三菱重工浦和レッズレディースの柴田華絵選手、第2回は日テレ・東京ヴェルディベレーザの岩清水梓選手、第3回はマイナビ仙台レディースの中島依美選手になでしこジャパンでプレーするチームメートについて語ってもらっている。その他、大会情報やなでしこジャパンの関連情報などを随時更新していく。

また、JFA Passportでもアプリならではのオリジナルコンテンツを配信予定だ。

大会トップページ

<https://www.jfa.jp/nadeshikojapan/womensworldcup2023/>

JFA Passport

<https://www.jfa.jp/jfapassport/>

●FIFA公式サイト大会ページ

<https://www.fifa.com/fifaplus/en/tournaments/womens/womensworldcup/australia-new-zealand2023>



■山下良美主審、坊園真琴副審、手代木直美副審が トリオで大会に参加

FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023には、日本から山下良美主審、坊園真琴副審、手代木直美副審の3名が参加する。山下主審と坊園副審は2019年のフランス大会に続いて2大会連続2回目、手代木副審は2015年のカナダ大会から3大会連続3回目の参加となる。



左から手代木副審、山下主審、坊園副審。審判員も日本を代表して女子ワールドカップに挑む

佐々木則夫 JFA女子委員長

良い準備をして、 自信を持って大会に挑む



強豪国との経験値 良い準備ができています

2021年10月の就任以来、池田大監督は戦術に一貫性を持たせてなでしこジャパンのチームづくりを進めています。選手たちとのコミュニケーションを大切にしながら戦術の浸透を図り、段階を踏んで一つ一つ積み上げていきますので、選手たちも戦術を非常によく理解し、その

上で良い準備ができていていると思っています。この約1年半でいろいろなタイプの選手を招集して組み合わせやシステムなどを試していますが、その中でベースとなる選手を見いだしながら取り組んでいることも大事な要素だと思っていますね。また、アメリカやカナダ、イングランド、スペインといった世界の強豪国と対戦する機会が多く、その経験がチームを大きく成長させていま

す。攻守にアクションするサッカーは、日本の女子サッカーの特長です。それを生かしながら強豪国にチャレンジする中で、今のなでしこジャパンは何ができて、何ができていないのか、選手たちも自分たちがやっているサッカーの現状を肌で感じて、手応えと課題を得て取り組めた1年半だったと思います。

いずれにしても次のFIFA女子ワールドカップは、今の日本女子サッカーを検証できる場となります。ワールドカップは女子サッカーにとっても世界的な祭典。この大会での結果が、日本の女子サッカーに大きな影響を持つことは間違いありません。良い結果を求めつつ、しっかりとチャレンジしていきたいと思っています。

ちなみに2011年に優勝したときは卯年だったんですね。それから12年、今年も卯年ですから飛躍の年という意味で期待しています。

選手には自信を持って チャレンジしてほしい

今のなでしこジャパンには、2011年の優勝を経験している選手もいます。そして、なでしこジャパンが優勝する姿を見て「優勝できるんだ」と、それを現実的な目

標として抱いた選手もいるでしょう。2011年の大会時は、世界と日本にはまだそれなりの差があるに分かった中での戦いでした。それでも優勝を実現できた。

世界の女子サッカーは今、飛躍的に成長しています。しかし、われわれ日本女子サッカーは高い経験値を持って今大会に挑むわけです。2014年にはU-17日本女子代表が、2018年にはU-20日本女子代表が世界一を成し遂げました。それらを経験した選手たちが今大会でなでしこジャパンの主軸となるでしょう。経験豊富な選手から若手選手まで、今のなでしこジャパンは非常にバランスが取れていると思います。

10代で度胸を握えてコンスタントに自分のプレーを発揮できる選手も増えてきました。こうして若い選手たちが各年代の代表で良い成績を残し、なでしこジャパンで活躍できていることは、日本の育成のたまものです。47都道府県、9地域で多くの指導者や関係者の皆さんが選手の育成に力を注いでくださっていること、これは日本サッカーの組織力であり、日本女子サッカーの強さだと思っています。

今大会は参加チーム数が32チームに増え、試合も増えます。勝ち上れば大会期間も延びるわけですが、強度の連戦でもスタミナが落ちない点は日本の選手たちのストロングポイントです。世界的な成長を含め、過去に経験したワールドカップとは異なる大会になると思いますが、選手たちには準備してきたことに自信を持ち、失敗を恐れずにプレーしてほしい、それに尽きます。

一戦一戦大切に戦う 選手たちにエールを

今年のワールドカップを戦う上で、なでしこジャパンは「ひたむきに、笑顔のゴールへ」というメッセージを掲げています。「笑顔で明るくひたむきに」という姿勢は、日本が世界に誇るなでしこらしさです。それを今のチームらしい姿で表現し、皆さんの心を動かすようなサッカーをしたいと思っています。池田監督も、選手たちももちろん同じ思いです。一戦一戦、そうやって皆さんに届けることができれば、選手たち自身も笑顔になって、われわれの目標にもたどり着けるものと考えています。

最後まで良い準備をして大会に挑みます。選手たちがひたむきにゴールを目指す姿を、ぜひ見逃さずに応援してください。

アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「ティロ23プロジャージ」のSサイズとMサイズをそれぞれ1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。今号では「グリップ付きフラッグ」を1名様にプレゼント。



<https://official-store.jfa.jp/>

JFA STORE



プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/jHXwTyZ3BhDdRdvy5>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



■はがき

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号) JFAハウス
公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部 広報部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnews
のご感想・ご意見を明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2023年8月上旬から中旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいた葉書は返却しません。

JFA公式アプリ JFA Passport いつでも、どこでもあなたの楽しみかたでサッカーとつながろう！

「JFA Passport」は、ご自身のサッカーへの関わり方に合わせて、あなたに合ったニュースや動画、お知らせなどを閲覧できる、日本サッカー協会(JFA)のサービスを総合的に利用できるアプリです。

JFA Passport限定のサッカー日本代表の動画のほか、保護者向け、指導者向けといったオリジナルの動画を配信。全国各地で開催されるさまざまなイベントやフェスティバルにもアプリ内のフォームや会員証を使って参加が可能となります。ぜひ活用ください。



- アプリでしか見られない動画やニュースが満載！
- あなたに合ったイベントやプログラムに参加！
- お得なクーポンやプレゼントをゲット！

●JFA Passportの

詳細・ダウンロードはこちら▶▶▶

<https://www.jfa.jp/jfapassport>



公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA news

発行人：宮本恒靖

発行所：公益財団法人日本サッカー協会
〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス
TEL.050-2018-1990(代) / FAX.03-3830-2005
URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部

編集：編集長 加藤秀樹

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

事務所 (JFAハウス) 移転のお知らせ

日本サッカー協会(JFA)は事務所(JFAハウス)を移転し、6月26日より、業務を開始します。移転先は下記の通り。

新住所：〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

移転日：2023年6月23日(金)～6月25日(日)

業務開始日：2023年6月26日(月)

※電話番号に変更はありません

次号2023年7月情報号は、2023年7月18日発売予定

[特集] 大学サッカーの今

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の購入が可能です。

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。

・チーム登録をされているご購読者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

※<https://www.jfa.jp/registration/>



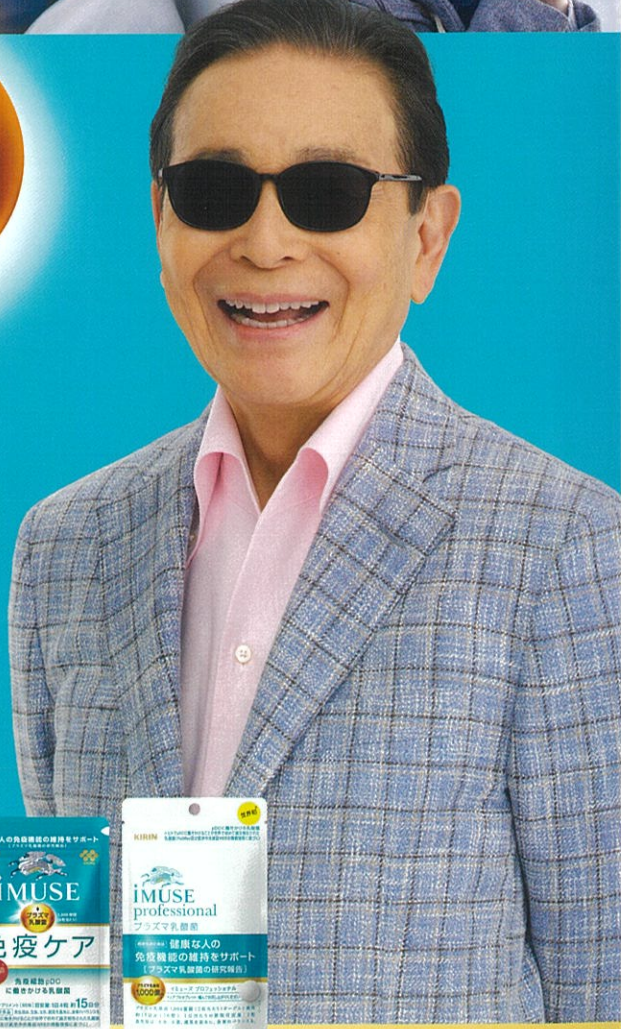
よろこびがつなぐ世界へ

KIRIN

季節の変わり目も 元気に。 キリンの免疫ケア。



◆
プラズマ
乳酸菌



3.28
発売

NEW

果汁1%

機能性表示食品

届出表示 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L.lactis strain Plasma*) が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトイド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

のんだあとはリサイクル。



IMUSE-P.jp/plasma

キリンホールディングス株式会社

特集

2036年FIFAフットサルワールドカップで優勝するために

発行人 宮本恒靖
発行所 公益財団法人日本サッカー協会

〒113-8311
東京都文京区サツカー通り(本郷3丁目10番15号)JFAビル2F
電話050(2018)1990(代)



定価600円(本体545円)